

平成 30 年度幼児教育の推進体制構築事業

2017年告示版

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」に基づく

幼保小接続の手引き

平成 31 年 3 月
石 川 県

本手引きの活用の仕方

本手引きでは、認定こども園・幼稚園・保育所及び小学校において、円滑な連携・接続の足掛かりとなるよう、基本的な考え方、施設間の連絡調整等の手続例や実際の活動例を記載しています。

また、実際の手続きや活動で利用できるワークシート等も記載していますので、取り組み内容に合わせてご利用ください。

記載例は、職員同士の交流から保護者や地域との連携までと幅広く扱っています。各施設の実態に合わせて、必要なものを選択して活用ください。

手引きの利用にあたっては、各施設の幼児・児童の様子や実態に合うよう職員の方々が考え、手引きの内容に手を加えながら活用ください。

※本手引きでの幼小接続とは、幼児期の教育・保育を行っている施設（認定こども園・幼稚園・保育所）と小学校との接続のことを示しています。

以下、幼児期の教育・保育を行っている施設を「幼」「園」と表記しています。

※本手引きでは、2017年告示版「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」について「新指針・要領」「要領指針等」と表記している場合があります。

目次

第1部 幼保小接続の基本的な考え方

1 接続の意義	
（1）幼保小接続の手引き作成の趣旨	1
（2）本手引きにおける接続期のとらえ方	1
（3）石川県の幼保小接続の現状・課題	2
（4）幼児期の教育と小学校教育の共通点・相違点	3
（5）就学時の児童や教職員の様子	5
（6）就学にあたっての保護者の様子	8
2 育てたい力・つなげたい力	
（1）幼児期の教育において育みたい資質・能力	10
（2）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	11
3 取り組みの領域	14
【参考資料】	
幼保小接続 取り組みのステップ	15
幼保小接続と指針・要領等との関係	16
合科的・関連的な指導のとらえ方	19

第2部 幼保小接続の活動事例

年間活動計画	20
1 教職員領域 教職員同士の連携・交流	
（1）幼小顔合わせ会	22
（2）小学校授業参観・情報交換会	25
（3）保育参観・情報交換会	33
（4）幼小合同研修会	39
（5）就学前情報交換（就学時健診後の情報交換・就学前情報交換会）	45
（6）幼小親睦会	54
（7）小学校教員・保育者向けアンケート	57
2 幼児児童領域 幼児・児童の交流活動	
（1）交流内容検討合同会議	61
（2）絵本の読み聞かせ会	67
（3）夏休み交流会	70
（4）生活科での交流	71
（5）就学時健康診断での交流	74

3	カリキュラム領域	カリキュラム編成・実施	
(1)	接続期カリキュラム編成の手順	75	
(2)	校内・園内接続期カリキュラム編成会議	79	
(3)	幼小接続期カリキュラム合同検討会	89	
	【参考資料】		
	スタートカリキュラム例（週案形式）	95	
	しなやかタイム〈じぶんでえらぶ〉について	97	
	合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定について（根拠）	98	
	1学期の学習内容イメージ図	100	
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と幼児の具体的な姿や経験	101	
4	保護者地域領域	保護者・地域との連携	
	・幼での取り組み		
(1)	1日体験入学	104	
(2)	参観後の懇談会（年度最終）	107	
(3)	小学校職員を招いての懇談会	109	
(4)	小学校長との懇談会	113	
	・小学校での取り組み		
(1)	懇談会（年度初回懇談会・先輩保護者と語る会）	116	
(2)	小学校自由参観日	121	
(3)	保護者の授業参画	124	
(4)	地域の教育参画	128	
(5)	就学に向けての保護者アンケート	131	
(6)	入学後の保護者アンケート	133	

資料編

・年間活動チェックシート	135
・幼保小連携接続年間計画	143
・全体モデルカリキュラム	147
・ワークシート等	149

第1部

幼保小接続の基本的な考え方

1. 接続の意義

(1) 幼保小接続の手引き作成の趣旨

石川県では、文部科学省「幼児教育の推進体制構築事業」の採択を受け、幼児教育・保育の質の向上を目的に、平成28年度から3年間のモデル事業として、①保育教諭・幼稚園教諭・保育士に対する研修 ②幼児教育アドバイザー訪問 ③幼児教育と小学校教育との円滑な接続 の3つの柱立てにより取組を進めてきました。本手引きはその3つの柱の一つである「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進するために作成されました。

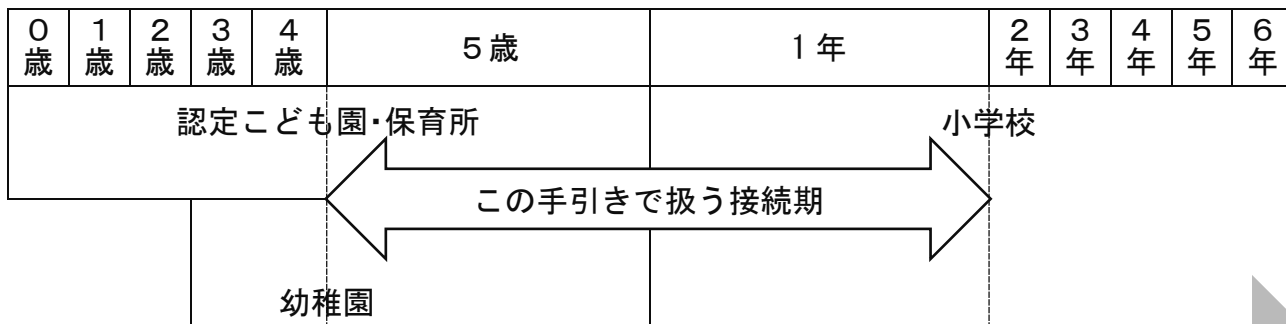
平成30年4月に施行された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び、平成32年度から全面実施される「小学校学習指導要領」では、これまで以上に認定こども園、幼稚園、保育所と小学校の連携・接続の強化や、連続性と一貫性をもった幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について重要視されています。

本手引きでは、認定こども園、幼稚園、保育所及び小学校が、幼児及び児童の実態、教育・保育内容や指導内容等について相互理解を深めながら、積極的な幼保小連携・接続に取り組んでいけるよう、連携・接続のステップとして、「教職員同士の連携・交流」「幼児・児童の交流活動」「接続期カリキュラムの編成・実施」「保護者・地域との連携」についてのポイントをまとめました。

(2) 本手引きにおける接続期のとらえ方

認定こども園・幼稚園・保育所と小学校の円滑な接続については、乳幼児期から児童期への発達や学びを見通す中で取り組む必要があります。

本手引きでは、主に小学校入学前後における「教職員同士の連携・交流」「幼児・児童の交流活動」「接続期カリキュラムの編成・実施」「保護者・地域との連携」について、年間の流れや内容を細かく示す観点から、取り上げる期間を年長児4月から小学校1年生3月までとしています。



認定こども園・幼稚園・保育所と小学校の円滑な接続については、乳幼児期から児童期以降への発達を見通して取り組む必要がある

(3) 石川県の幼保小接続の現状・課題

本県の幼保小接続の現状と課題については、以下のようなことが考えられます。

(平成27年6月 金沢大学附属幼稚園研究紀要第61集を参考に整理)

保育者・教職員の幼児期の教育、小学校教育に対する意識について

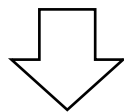
- 現状** 石川県内の保育者、教職員は互いの教育、保育を理解したいと感じている
- ・保育者・教職員ともに互いの教育について知りたいと思っている
 - ・保育者・教職員ともに幼児期の体験は就学後の学習や生活に役立つと思っている

- 課題** 幼児期の教育と小学校教育の互いの教育を知る機会の充実が必要
- ・互いの教育、保育について理解したいと感じているが、公開保育、公開授業等への参加はほとんど行われていない

幼保小連携接続の取り組みについて

- 現状** 幼小両施設とも幼小連携接続の取り組みは必要だと感じ、取り組んでいる
- ・「年長児を迎える会」「就学前の情報交換」を中心に行われている

- 課題** 幼児期の学びを小学校での学びに活かすための取り組みは十分に行われていない
- ・「年長児を迎える会」「就学前の情報交換」以外に行われているものは少なく、「接続期のカリキュラムの編成」については特に少ない
 - ・幼児期の教育を小学校教育につなげる視点からの取り組みは少ない。教育課程や年間行事予定等に位置付けられた慣例的に行われている活動であったり、クラス編成上必要な情報のやり取りのためであったりするものが多い



本手引きでは、以下の点を本県の課題と捉え、「教職員同士の連携・交流」「幼児・児童の交流活動」「接続期カリキュラムの編成・実施」「保護者や地域との連携」の視点から、具体的な【手続き】【活動】の仕方について示していきます。

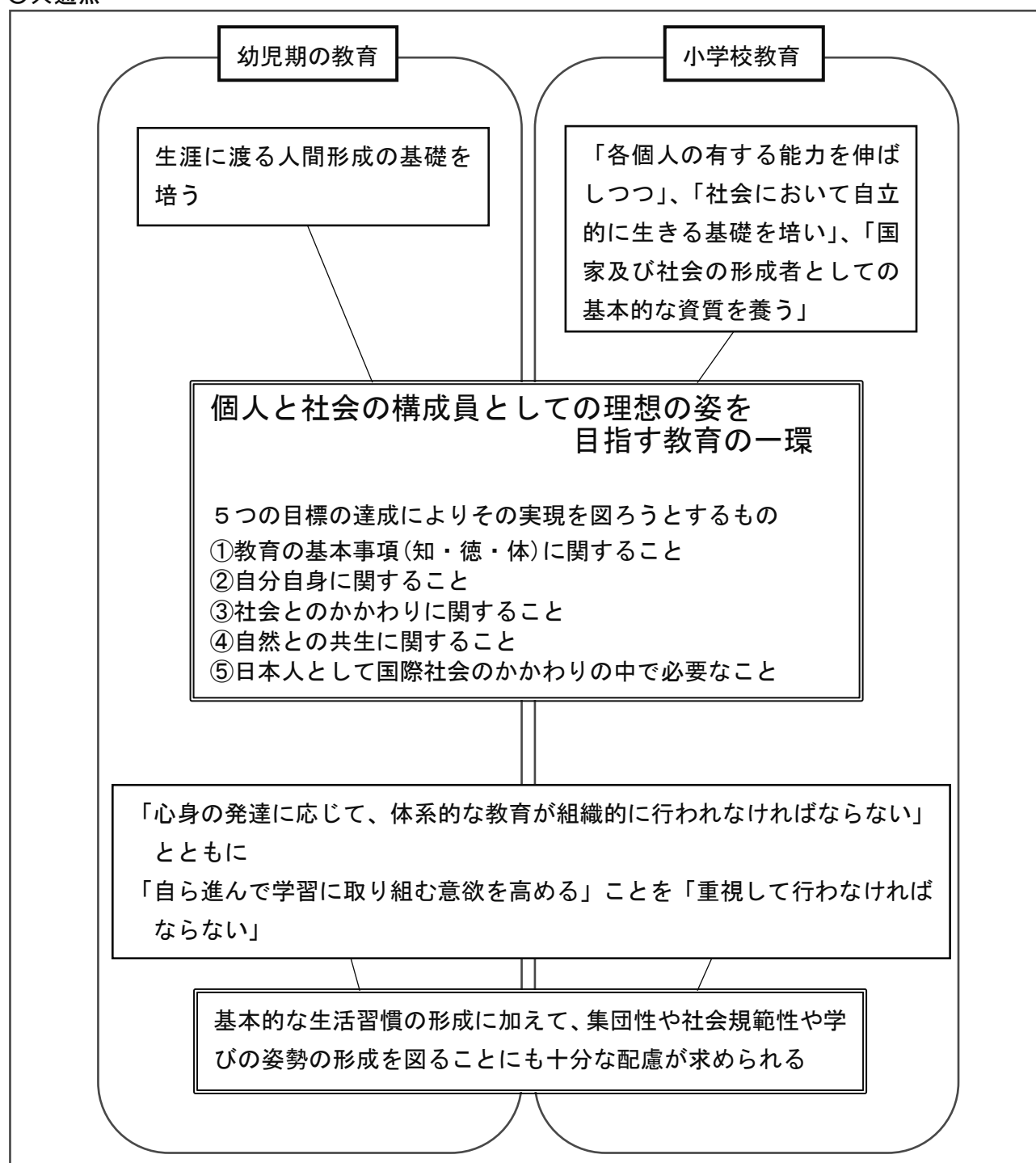
〈本県の課題〉

- 幼児期の教育と小学校教育の接続の意義を理解し接続期の取り組みを行う必要がある
- 幼保小職員が連携・交流する機会が少ない
- 接続を見通した教育課程の編成・実施について具体的にどう取り組めばよいか分からない

（４）幼児期の教育と小学校教育の共通点・相違点

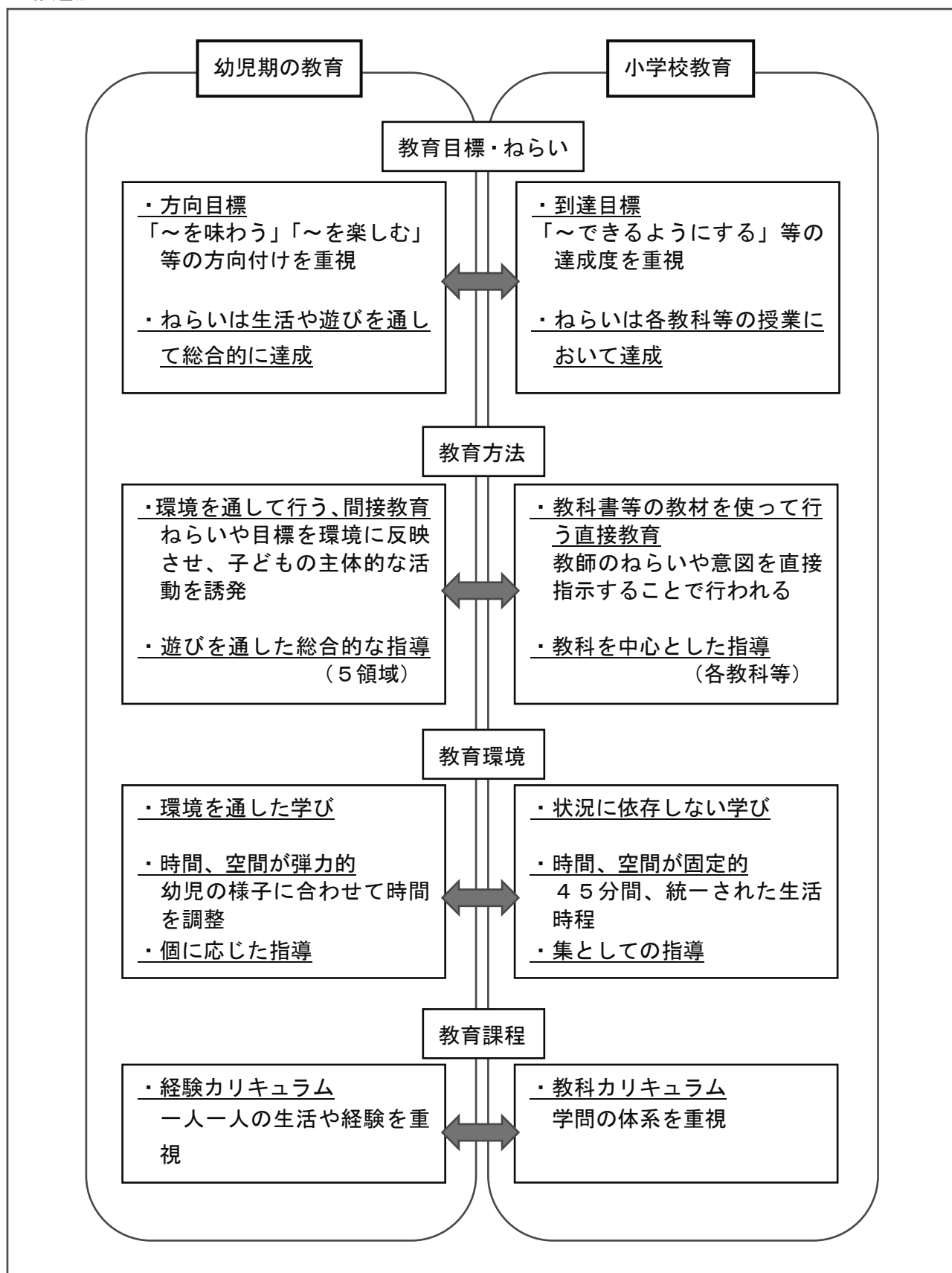
認定こども園・幼稚園・保育所で行われている幼児期の教育と、小学校で行われている小学校教育は、次のような共通点・相違点が考えられます。それぞれの教育の共通点・相違点を十分に意識した連携・接続の取り組みが必要になります。

○共通点



(平成 22 年 11 月 文部科学省 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」 を参考に整理)

○相違点



(5) 就学時の小学校教職員や幼児の様子

幼児期の教育と小学校教育の円滑な連携・接続にあたっては、実際に就学時に小学校教職員や児童がどのような困り感をもっているのか、そして、なぜそのような困り感が生じるのかを知っておくことで、より効果的な取り組みにつながります。事前に教師や児童の困り感等を把握できるよう小学校に連絡を取り、活動に臨むことや対応していくことが大切です。

教職員が指導上困ること、就学した児童が困り感を感じているであろうこと、困り感が生じる背景や対応のポイントの例として、以下のことが考えられます。

〈話を聞くことに関すること〉



1年担任

話をしっかりと聞けないことが困ります。担任の話も自分で聞こうとしません。

新1年生



先生の話している言葉が難しくて分からないよ。
もっと私たちの知っている言葉を使ってくれればいいんだけど・・・。

園生活では

園で話をする時は、幼児が日常生活で使う言葉を中心に使い、幼児一人一人が今までの経験と照らし合わせながら話を聞くことができるようにしています。難しい言葉や新しい言葉を使う時は、保育者が動作を交えながら話したり、絵本等の教材を用いたりしながら話すようにしています。
話を聞く姿勢や態度を指導して、話を聞かせようとすることよりも、幼児に親しみのある言葉で幼児自身が話を自分のこととして聞こうと思えるような援助を大切にしています。

対応のポイント

【小学校では】

入学時の児童に話をする際は、「短い言葉」「一つの指示」を心がけましょう。入学時の児童は知っている語彙数がまだ少ないので、その点も配慮が必要です。指導の中で自然に出てしまいがちな「体育座り」「整列」「起立・着席」「集中」などの言葉も注意が必要です。

【幼では】

自分の思いを伝えたり、話を聞いてもらったりするためには、どのように振る舞う必要があるのかを幼児自身が考える機会をもつことが大切です。日頃の生活や遊びの中ではもちろんのこと、年長児が中心となる行事等の機会を積極的に活用しましょう。卒園式に向けての活動なども活用できます。

〈45分間座ることに関すること〉



1年担任

45分間座ってられません。姿勢が崩れてしまったり、授業中に立ち歩いてしまったりと困ります。

新1年生



なぜ45分間も座りっぱなしなの？
今までは立ったり座ったりしながら楽しく活動していたのに・・・。
正しい姿勢で座り続けることには慣れていないよ。

園生活では

園では、幼児の発達に合わせて、一つの活動の中に座って話を聞く時間や体を動かせる時間等を設け、活動に楽しく集中して取り組めるようにしています。また、興味のあるものを見つけ自ら関わったり、できないことや分からないことがあったら友達に関わり解決したりするなど、「もの」や「ひと」に自由に関わることができるようにもしています。

よい姿勢を保持し、じっと座ることで授業に集中させることよりも、幼児の発達に合わせた、集中を途切れさせない活動方法の工夫や、幼児自身が心動かすことができるような活動を設定することで、集中して取り組めるようにしています。

対応のポイント

【小学校では】

入学時の児童の発達段階では、45分間座ることが難しい子も多いと思います。授業を15分や30分のモジュール単位時間化し、児童の集中力に合わせた時間を設定することや、チャイムに関わらず、授業や活動、児童の様子に合わせて柔軟に授業時間をとること等の工夫が考えられます。

【幼では】

保育の中では、長い時間、椅子に座り続ける経験がない幼児もいるかもしれません。給食の時間や卒園式に向けての活動など、椅子に座る必要がある機会を利用して、決まった時間、椅子に座る経験をすることができるようにするなどの工夫が考えられます。

〈時間の区切り方に関すること〉



1年担任

チャイムが鳴ってもいつまでも遊んでいて困ります。
授業と休み時間のけじめがつけられません。

新1年生



授業と休み時間のけじめってなに？

今までは、チャイムもなかったし、休み時間もなかったよ……。

園生活では

園では、登園から降園までの1日の園生活全体を通して、その日のねらいに向かえるようにしています。そのため、その中で行われる活動一つ一つには、はっきりとした区切りがなく、幼児の様子等に応じて時間を取るようにしています。また、幼児一人一人に合わせて、活動の時間を取ることも行っています。小学校のように、時間できっちりと区切った生活は行ってきていません。

対応のポイント

【小学校では】

休み時間は短いため、気持ちの切り替えは特に難しいと考えられます。時間の区切りに慣れるまでは、チャイムが鳴ってもしばらくは児童が気持ちを切り替えられる時間を十分に保障してあげることや、教師が声をかけて、児童が気持ちを切り替えやすいよう雰囲気づくりをする等の配慮が考えられます。

【幼では】

日常の園生活で、遊びやクラス活動、行事等の準備や片づけなど、直前の活動との気持ちを切り替えて活動することができる経験を十分にすることができるようにならしましょう。また年長後半では、1日の生活を自分達で計画し、自分達で生活を進めるような経験をしていくことも大切です。

〈小学校のルールやきまりに関すること〉



1年担任

小学校のルールやきまりを守れず困っています。
生活のきまりや学習のきまりもしっかりと掲示しているのですが。

新1年生



どうして小学校では〇〇してはダメなの？

今まではこんなルールがなくても楽しく遊べたのに……。

園生活では

園では、ルールやきまりをあらかじめ示し、それらを守らせたり、注意を促したりすることはほとんど行いません。ルールやきまりは、幼児が困り感をもったり、トラブルが起きたりした時に、保育者と一緒に考えていくようにしています。

小学校のように、トラブル等の未然防止という観点よりも、トラブル等が起きた時にこれからどうするかを考えていくことを大切にして生活をしています。

対応のポイント

【小学校では】

ルールやきまり等に関しては、それらが必要な理由を分かりやすく児童に伝えたり、児童の身の回りに起きたことを意識し自分達のことと実感したりできるようにして伝えます。また、ルールやきまりを一方的に与えるだけでなく、児童の困り感等から一緒に作り上げていくことも必要です。

【幼では】

自分達で考えたルールやきまりを守った時や守れなかった時の気持ちを教師や友達と共感したり共有したりする機会を十分にとり、ルールやきまりのよさを実感できるようにします。また、園内外の身の回りにあるルールやきまりの存在や必要性に気付く機会をとれるよう工夫することも考えられます。

〈関心・意欲・態度に関すること〉



1年担任

やりたくないことはやらないことがあり困ります。
課題への取り組みも遅いです。

新1年生



どうして先生は興味のないことをいつもさせるんだろう？
興味のないことをし続けるのは面白くないな……。

園生活では

園では、幼児の自発的な活動としての遊びを中心に、幼児一人一人の特性や興味関心に合わせて活動をしています。一斉での活動も行いますが、季節や行事に合わせた活動や、クラスの幼児が興味関心をもって取り組めるよう、日々の園生活の中で徐々に気持ちを盛り上げていけるような工夫をしています。小学校のように毎日、毎時間、新たな課題を与えられるようなことには慣れていません。

対応のポイント

【小学校では】

児童が休み時間や下校後にどのような生活を送っているかを把握し、それらを授業と結び付けていくことが考えられます。課題の設定では、児童自身が自らの生活での課題を意識し、興味関心をもって自ら学ぶ必然性を感じるものにすることがあります。授業と生活を切り離して考えないことが大切です。

【幼では】

遊びの中で生じた疑問や課題等について、興味関心をもち、自ら解決方法を考えたり、実際に解決したりすることを通して、遊びを継続発展させ、遊び込むことができる環境や援助を考える必要があります。また、幼児が主体的に関わる必要がある課題が生じる環境の構成や保育者の援助も必要です。

〈授業中のおしゃべりについて〉



1年担任

すぐにおしゃべりをして困ります。
騒がしくて大変です。

新1年生



どうして静かにしなければいけないの？
園では友達とおしゃべりしながらいろいろなことに取り組んだよ。

園生活では

園では、遊びの時間はもちろんのこと、グループ活動や一斉活動でも個々の関わりを大切にしています。自分や友達のしたいことや困っていること、思ったことなどを自由に話し合える雰囲気の中で、安心感をもちながら活動をしてきました。卒園式などのおしゃべりをしてはいけない場面では、その理由をしっかりと話し合い、幼児が納得した上で、黙って静かにする経験もしています。

対応のポイント

【小学校では】

自由に話し合える雰囲気をつくることで、児童は安心して授業に参加できます。「おしゃべり＝集中していない」ではなく、「授業に集中するために話し合っている」と捉えることが大切です。思ったこと、分からないこと、楽しいこと等、自由に話せる環境を少しでもよいので設定してはどうでしょうか。

【幼では】

表現会や卒園式等、話すことができない場に応じた振る舞いを考えたり、経験したりする機会をとっていく必要があります。また、行事当日の振る舞いだけでなく、それに至るまでに、なぜそのような振る舞いが必要なのか等を幼児と一緒に考える機会を十分にとる必要があります。

（６）就学にあたっての保護者の様子

幼児期の教育と小学校教育の円滑な連携・接続にあたり、保護者がどのような不安や困り感をもっているかを把握しておくことは大切です。保護者の不安や困り感に寄り添った支援や援助を行い、保護者も安心して子どもと共に学校生活を始められるようにしていきましょう。

保護者の不安や困り感、対応のポイントの例として、以下のことが考えられます。

〈学習に関すること〉



保護者

うちの子は「ひらがな」がまだ分かりません。入学までに「ひらがな」を読んだり書いたりすることができないといけませんか？

対応のポイント

「ひらがな」の学習は、小学校でしっかりと行うことを伝え、安心感をもってもらう必要があります。また、園では、日常の生活や遊びの中で幼児が文字への興味関心をもてるように、環境を整えたり、丁寧に援助をしたりしていく必要があります。特別に「ひらがな」を取り扱うような保育（ひらがな学習や練習帳など）を計画しなければ、幼児が文字への興味関心を示さない場合は、日常の生活や遊びの環境や援助が適切ではないということで、保育を見直す必要があります。

〈友達関係に関すること〉



保護者

同じ園から進学する友達が少ないのですが、新しい友達と仲良くなれるか心配です。

対応のポイント

入学当初は、生活科を中心として、園で親しんだ遊び等を授業の中に取り入れ、安心できる楽しい雰囲気の中でクラスの友達と関わりながら徐々に学校生活に慣れていけるようにしています。また、園での生活の仕方を参考に、グループでの活動など児童同士が関わり合えるような環境を設定し授業を行うこともしています。

もちろん、新クラスの編成にあたっては、同じ園から就学した児童や同じ町内の児童を同じクラスにする配慮もあると考えられます。

このように小学校入学当初は、園での生活に近い形で学校生活を送ることができるようにしている事を伝え、保護者が安心感をもてるようにします。

〈小学校教員との関わり方に関すること〉



保護者

小学校の担任の先生とはどのような関わり方をすればよいのですか？
例えば、連絡帳は毎日書くのですか？

対応のポイント

小学校では、園生活と異なり保護者と毎日顔を合わせることはありません。連絡帳が日常的に担任と関わる手段となります。しかし園のように毎日の家庭での様子等を書く必要はなく、小学校担任も毎日の様子を書きません。必要に応じて書くことになり、園に比べて担任の先生とは疎遠になったように感じることもあるかもしれません。個々の関わりを大切にする園と集団での教育を大切にする小学校では、担任との関わり方は異なるものであるということをあらかじめ伝えておく必要があります。

もちろん、学校に訪ねて行ったり、電話をしたりして個別に相談することも可能です。詳しいことは、入学説明会で尋ねるよう保護者に促す必要があります。

〈保護者同士の関係に関すること〉



保護者

同級生の保護者との付き合い方はどのようになるのでしょうか？園のように顔を合わせる機会は少ないようなのですが。

対応のポイント

小学校では、園のように保護者による登下校の送り迎えがないので、基本的には他の保護者と顔を合わせることはありません。保護者同士が顔を合わせるのは、参観日や学級懇談会等になります。小学校には様々な地域から進学してくることもあり、保護者間の関わりは園に比べ少なくなります。参観や学級懇談会、学校行事等の機会を積極的に利用して、他の保護者との関わりをもっていく必要があることを伝える必要があります。

〈教師の個の見取りに関すること〉



保護者

小学校ではクラスの人数も増えますが、一人一人の子どもの様子をしっかり見てもらえるのでしょうか？うちの子は自分のことをあまり主張しないので不安です。

対応のポイント

小学校の1クラスの児童数は、園に比べ多くなっていることがほとんどです。また、集団での教育を意識して行っているため、園に比べると、教師が個の様子を見取することは難しくなります。気になることや教師に気にかけてほしいこと等は連絡帳や電話等であらかじめ伝えておく様子を見てもらいやすいです。入学前にどうしても伝えたいことがある場合には、入学式前までに連絡を取り、事前に相談をすることができる場合もあります。また、学級懇談会や個人懇談会の機会を利用して、日ごろの様子を聞いたり、気になることを尋ねてみたりすることが大切であることを伝えます。

〈入学までの家庭での取り組みに関すること〉



保護者

入学までに心がけておいた方がよいことはありますか。
子どもが入学後に困ってしまわないか心配です。

対応のポイント

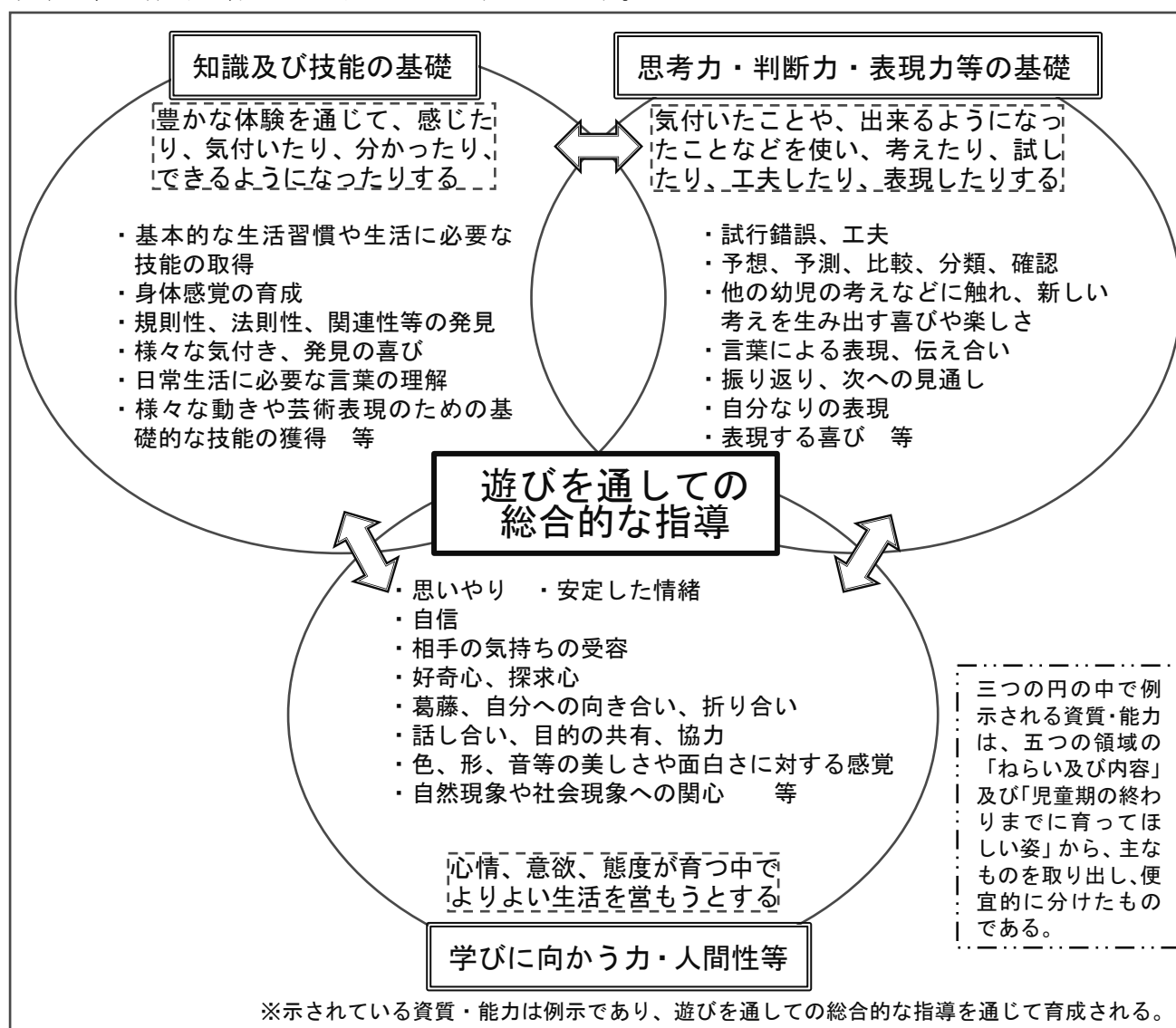
安心して学校生活を送ることができるよう、入学までには、基本的な生活習慣を身に付けておくことや、生活リズムを整えておくことを心がけておく必要があります。着替え等の身支度やトイレの使い方など、自分自身で学校生活を進めていけるよう、園と連携しながら身に付けていくようにすることが大切です。また、登校の時刻や方法も園とは異なります。新しい生活に対応することができるように、生活のリズムを整えていく必要があることを伝えます。

2. 育てたい力・つなげたい力

(1) 幼児期の教育において育みたい資質・能力

平成29年3月に同時改訂（改定）された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」では、小学校以降の子どもの発達を見通しながら、教育及び保育活動を展開し、園での教育及び保育活動において育む、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力が示されました。また、満3歳以上のねらい及び内容について一層の整合性が図られ、各施設間の横のつながりが深まりました。さらに、この3つの資質・能力は小学校、中学校、高等学校との縦のつながりにおいても、幼児期の教育と小学校教育以降を貫く資質・能力として位置づけられ、接続が図られています。

幼児期の教育において育みたい資質・能力は、幼児の発達の実態や幼児の興味関心等を踏まえながら展開する活動全体を通して育むものです。小学校教育以降のように、各教科等の指導のねらいを明確にしながらか教育活動の充実を図るものではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で育んでいくことが重要となります。また、これらの資質・能力は、個別に取り出して指導するのではなく、5領域の枠組みにおいて育んでいくものであり、幼児の遊びを通しての総合的な指導を行う中で、一体的に育んでいくことが重要となります。



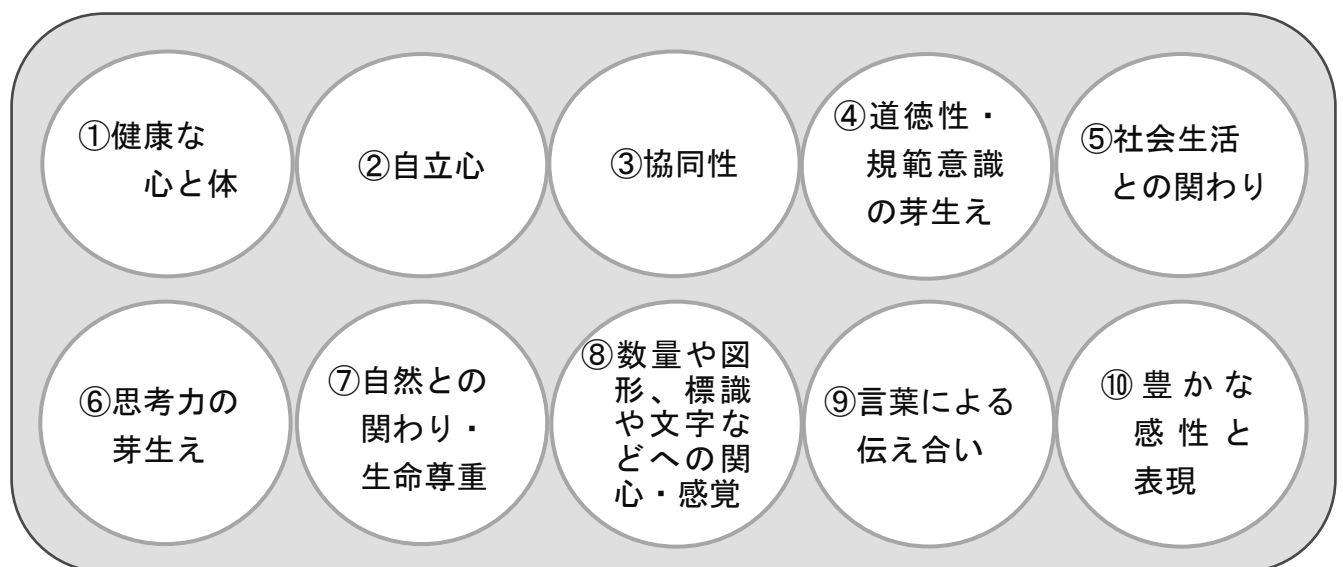
（文部科学省「幼児教育部会における審議の取りまとめ」より改変して引用）

（２）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児期から児童期への円滑な接続を図る際、保育者は園での遊びや生活の中で、幼児の育ちの姿を『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を念頭に置いて捉え、幼児一人一人が発達に必要な経験ができるよう、環境の構成や援助をする必要があります。

実際の小学校との接続に関しては、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を通して、幼児が成長してきた姿や遊びや生活の中で育んできたものを小学校の教職員と相互に理解し、共有していくことが重要になります。そのような中では、幼児期の教育と小学校教育では、生活の仕方や教育方法等が異なることから、子どもの姿や育ちの捉え方に違いが生じることも考えられますが、教職員同士で十分に話し合い、共通理解し、幼児期からの育ちや学びのバトンをしっかりと引き継ぐ必要があります。

その際、保育者は『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を念頭に置いた幼児の姿について、小学校教職員等に分かりやすく伝えたり説明したりすることが求められます。また、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』は特に５歳児後半に見られるようになる姿ですが、５歳児後半に突然見られるようになるものではなく、０歳児の時期からの発達の方向を意識した援助や指導の積み重ねであることを留意する必要があります。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		
①	健康な心と体	園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
②	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
③	協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
④	道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
⑤	社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
⑥	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
⑦	自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。
⑧	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
⑨	言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
⑩	豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

児童期

知識及び技能

思考力・判断
力・表現力等

学びに向かう
力・人間性等

各教科等

社会 理科 家庭 総合 道徳 外国語
国語 算数 体育 生活 音楽 図工 特活

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心
と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識
の芽生え

社会生活
との関わり

思考力の
芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字
などへの関
心・感覚

言葉によ
る伝え合
い

豊かな感
性と表現

5 領域

健康 人間関係 環境 言葉 表現

知識及び技
能の基礎

思考力・判
断力・表現
力等の基礎

学びに向かう
力・人間性等

幼児期

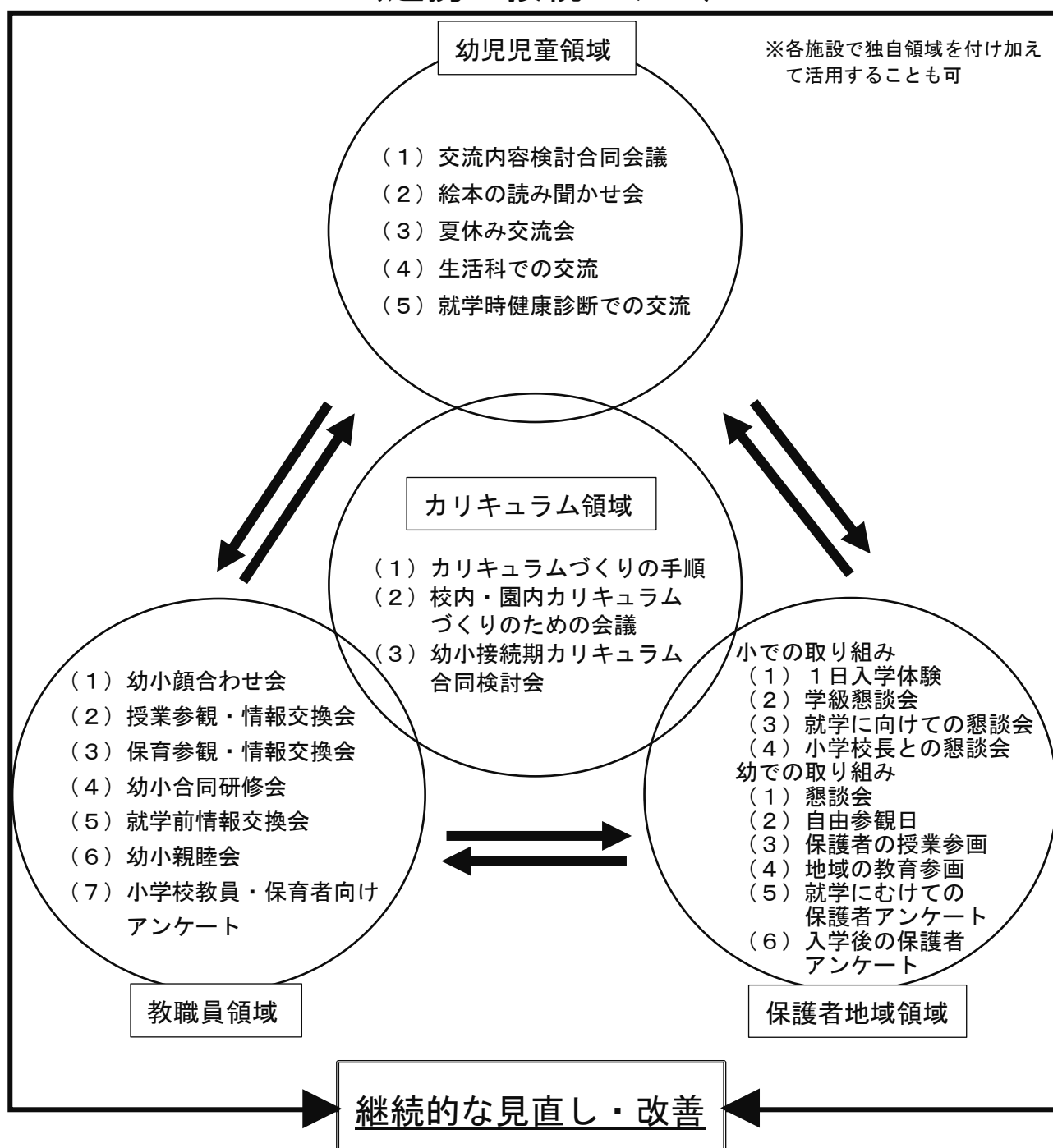
3. 取り組みの領域

本手引きの第2部では、認定こども園・幼稚園・保育所及び小学校での連携・接続の取り組み事例を、4つの領域（「教職員領域」「幼児児童領域」「カリキュラム領域」「保護者地域領域」）で構成し、掲載してあります。

各施設においては、自園、自校、施設間の取り組み方に応じて本手引きを活用いただけます。また、幼児児童の実態に応じて、各領域から必要なものを取り出して実践することも可能です。

実践にあたっては、それぞれの内容について継続的な見直し・改善を行い、各施設で幼保小の接続を円滑に進められるよう工夫し、実践していきましょう。

〈連携・接続モデル〉



【参考資料】幼保小接続 取り組みのステップ（連携から接続へと発展する過程の大まかな目安）
（文部科学省「幼児期と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」を改変して引用）

幼保小連携・接続の取り組みは、教職員等の交流から始まり、次第に両施設が抱える教育上の課題を共有し、幼児期から児童期への教育のつながりを確保する教育課程の編成・実施へと発展していきます。

幼保小連携・接続の取り組みにあたっては、下記のステップ（連携から接続へと発展する過程の大まかな目安）を参考に、自校自園がどの段階や状況にあるのかを把握しておくことが大切です。自校自園の連携・交流の段階や状況に合わせた計画を立て、実践していく必要があります。

ステップ0	連携の予定・計画がまだない。
	地方公共団体が連携の重要性を理解するための教職員向け説明会・研修会等を開催するなど、連携に向けた環境づくりが必要です。 連携・接続のために各学校・施設同士の合意ができる環境を整えていくことが必要です。
ステップ1	連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
	教育委員会等の支援のもと、各学校・施設に担当者を置き、定期的に意見交換会を開催できるようにします。意見交換の中から、交流授業、行事などを企画・実施し、子ども同士の交流、教職員の交流を推進していきます。その際、各学校・施設では、全教職員の理解と協力のもとで行われるよう留意する必要があります。
ステップ2	年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われていない。
	年数回程度の授業、行事、研究会などの交流を年間指導計画などに位置付けて実施していきます。事前だけでなく事後の反省・検証を行うことで次につなげていきます。教育委員会等の主催・支援のもと、接続を見通した教育課程の編成・実施に向けた取組みを進めていくことが必要です。
ステップ3	授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。
	恒常的な授業、行事、研究会などに発展させていきます。また、連携の実践を踏まえ、接続を見通した教育課程を編成・実施していくことが必要です。
ステップ4	接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、さらによりよいものになるよう検討が行われている。
	接続を見通した教育課程を編成・実施するとともに、学期末ごとや年度末に事後の反省・検証を行うことにより、PDCAサイクルを確立し、次年度以降の改善につなげていく必要があります。

※ 県・市町教育委員会等は、上記の目安を参考に、あらかじめ連携・接続に関する基本方針や支援方策を策定し、各学校・施設はそれに基づき連携や接続のための教育課程の編成・実施を進めることが望ましい。

※ 県・市町教育委員会等、各学校・施設の所管部局は、連携・接続の進捗状況を把握・評価し、各学校・施設に対し、適切な指導・助言を行うことが求められる。

【参考資料】 幼保小接続と指針・要領等との関係

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続が必要な根拠は？

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『小学校学習指導要領』では、幼児期の教育と小学校教育の接続についての必要性が述べられています。また、接続のポイントとなる教科等の扱いや幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等についても述べられています。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

第1章 総則

第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画

1 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成等

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

ア 幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

幼稚園教育要領

第1章 総則

第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

保育所保育指針

第2章 保育の内容

4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

小学校学習指導要領

第1章 総則

第2 教育課程の編成

4 学校段階等の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

第2章 各教科

第1節 国語

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

※ 算数 音楽 図画工作 体育 においても同様に表記

第5節 生活

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

第6章 特別活動

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (4) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

どうして職員同士・幼児児童同士の交流が必要なのか？

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『小学校学習指導要領』では、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために、職員同士、幼児児童同士の交流の機会を積極的にとることをポイントにしています。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

第1章 総則 第2 教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画等

1. 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成等

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

2. 指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価

(3) 指導計画の作成上の留意事項

サ 地域や幼保連携型認定こども園の実態等により、幼保連携型認定こども園間に加え、幼稚園、保育所等の保育施設、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に、小学校教育との円滑な接続のため、幼保連携型認定こども園の園児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。(後略)

幼稚園教育要領

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

第1章 総則 第6 幼稚園運営上の留意事項

3 地域や幼稚園の実態等により、幼稚園間に加え、保育所、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。(後略)

保育所保育指針

第2章 保育の内容 4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

(3) 家庭及び地域社会との連携

子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子ども等を含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること。

小学校学習指導要領

第1章 総則 第5 学校運営上の留意事項 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

イ 他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

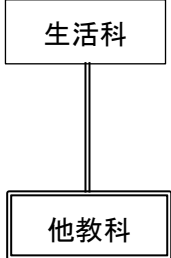
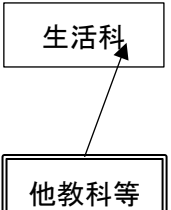
第2章 各教科 第5節 生活 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(5) 具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。

【参考資料】 合科的・関連的な指導のとらえ方

小学校入学当初においては、幼児期に自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等の学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫が必要になります。また、入学当初の児童の発達特性を考慮し、10～15分程度の短い時間で時間割を構成したり、児童の様子に合わせた余裕のある授業時間を設定したりするなどの、弾力的な時間割の設定を行うことも必要になります。

	とらえ方	タイプ（例）	
合科的な指導	各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの	【合科】 生活科を中心とした単元の学習活動において、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開することで、指導効果を高める 例：生活科の学校探検で気付いたことなどを言葉で表現したり、友達と伝え合ったりする学習において、国語科の「伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさなどを工夫すること」について指導することで、より効果的にねらいの実現を図る	
関連的な指導	教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの	【関連①】 生活科の学習成果を他教科等の学習に生かす 例：生活科で春の自然を観察したり、自然のもので遊んだりする体験が、音楽科で春の歌の曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことに生かされるように関連を意識して指導する	
		【関連②】 他教科等の学習を生活科の学習に生かす 例：算数科での物の個数を比べることや、個数の順番を正しく数えたり表したりする知識及び技能が、生活科の学校探検で見つけたものを数える際に生かされるように関連を意識して指導する	

（平成30年3月 文部科学省 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」 を改変して引用）

第2部

幼保小接続の活動事例

年間活動計画 (例)

本手引きに掲載されている活動例を実施月（目安）ごとに記載し、ねらいや取組みの領域を位置付けました。
各施設の年間活動計画の作成や、ねらいに合わせた活動の計画・実施等の参考としてください。

実施月 目安	対象	活動名	手引き ページ	ねらい（ ◎主なねらい ○ねらいを含む）						取り組みの領域				
				幼児期の 教育理解	小学校の 教育理解	幼児児 童理解	教職員 相互理解	幼児児童 交流	カリキュ ラム編成	保護者地 域との 連携	教職員 領域	幼児児童 領域	カリキュ ラム 領域	保護者 地域 領域
4月	幼・小	幼小顔合わせ会	22				◎				○			
	幼・小	交流内容検討合同会議	61					◎				○		
	小	懇談会（年度初回）	116								◎			○
	小	保護者の授業参画	124								◎			○
	小	地域の教育参画	128								◎			○
	幼	小学校教員向け アンケート	57		○		◎				○			
	小	入学後の保護者 アンケート	133								◎			○
5月	幼・小	交流内容検討合同会議	61					◎				○		
6月	幼・小	小学校授業参観 情報交換会 要録引き継ぎ会	25		○	◎	○				○			
	幼・小	合同研修会 （小学校提案）	39		◎		○				○			
7月	幼・小	交流内容検討合同会議	64				○	◎				○		
	幼・小	絵本の読み聞かせ会	67			○		◎				○		
8月	幼・小	保育参観 情報交換会	33	◎		○	○				○			
	幼・小	夏休み交流会	70			◎	○					○		
	幼・小	連携接続中間評価会	／				◎				○			
	幼・小	幼小親睦会	54				◎				○			
9月	幼・小	交流内容検討合同会議	64					◎				○		

年間活動計画 (例)

実施月 目安	対象	活動名	手引き ページ	幼児期の 教育理解	小学校の 教育理解	幼児児童 理解	教職員 相互理解	幼児児童 交流	カリキュラム 編成	保護者地域と の連携	教職員 ステージ	幼児児童 ステージ	カリキュ ラム ステージ	保護者 地域 ステージ
10月	幼・小	小学校授業参観 情報交換会	29		◎	○					○			
	小	校内接続期カリキュラム 編成会議	79						◎				○	
	小	就学時健康診断での交流	74			◎						○		
	幼	就学前情報交換会 (就学時健診に関する)	45			◎	○				○			
	小	就学に向けての 保護者アンケート	131							◎				○
11月	幼・小	交流内容検討合同会議	64					◎				○		
	幼・小	生活科での交流	71	○	○	○		◎				○		
	幼・小	小学校職員を招いての 懇談会	109		○					◎				○
	幼・小	懇談会 (先輩保護者と語る会)	118		○					◎				○
	幼・小	自由参観日	121		○					◎				○
12月	幼・小	合同研修会 (幼提案)	42	◎			○				○			
	幼・小	小学校長との懇談会	113		○					◎				○
	幼	園内接続期カリキュラム 編成会議	84						◎				○	
1月	幼・小	交流内容検討合同会議	64					◎				○		
	幼・小	接続期カリキュラム 合同検討会 (小カリキュラム)	89		○		○		◎				○	
2月	幼・小	保育参観 情報交換会	36	○		◎	○				○			
	幼・小	接続期カリキュラム 合同検討会 (幼カリキュラム)	92	○			○		◎				○	
	小	1日体験入学	104		○					◎				○
	小	保育者向けアンケート	59	○						◎				○
3月	幼・小	就学前情報交換会	48	○		◎					○			
	幼・小	接続期カリキュラム 編成合同検討会	89 92						◎				○	
	幼	懇談会 (年度最終)	107							◎				○
	幼・小	連携接続評価会					◎				○			

※連携接続中間評価会・連携接続評価会（取り組みの振り返り等）については、活動例を掲載していません。
各施設の実態に応じて取り組み、連携接続の継続的な見直し・改善が行えるようにしていきましょう。

幼小 顔合わせ会 【手続き】

※P25「小学校授業参観・情報交換会・要録引き継ぎ会」とかねて行うことも可

1. 活動 年度初め、幼小職員顔合わせのための手続き
2. 時期 4月上旬
3. ねらい 幼小職員顔合わせのための調整をする。(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 校長から園長へ電話連絡
5. 配慮点 午前中から昼食時までは、園長も保育に参加し、連絡を取りづらいこともあるため、午睡の時間(13:00頃)に連絡を取るとよい。

活動	対応	活動の詳細
1. 顔合わせ会実施の連絡	校長	園長へ電話連絡 「幼小連携接続のための顔合わせ会を実施したい。」
・趣旨説明	校長	「新年度の管理職、幼小連携接続担当者等が互いに知り合い、円滑に連携接続の活動に取り組めるようにしたい。」
趣旨例 ・管理職、担当者等が知り合い、円滑に連携接続の活動に取り組めるようにするため。 ・連携接続の活動の重要性やねらいを共通理解するため。 ・幼小の垣根を低くする第一歩とするため。 等		
・活動内容確認	校長	「顔合わせ会では、連携接続の年間計画についても確認し、決定できる活動については予定を組んでいきたい。(今後の会議時間等短縮、削減のため)」
・参加者確認	校長	「参加者は、小学校〔校長／教頭／教務主任／1年担任／養護教諭〕等を予定している。」 「幼からは〔園長／主任主幹／旧年長担任／年長担任〕等、接続期に関わる職員の参加をお願いしたい。」
・日時確認	校長	「実施日は○日～○日の○時～○時を予定しているがどうか。」
・場所確認	校長	「場所は〔小学校会議室／幼会議室〕でどうか。」
連絡内容 例 ・参加者について 小学校：校長 教頭 教務主任 研究主任 1年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター 幼小連携接続担当 等 幼：園長 主任主幹 旧年長担任 新年長担任 幼小連携接続担当 等 ・当日の活動内容について 連携接続に関わる職員の紹介 年間の活動計画の確認・決定 等 ・開催日時、場所 園の保育時間や職員の就労形態が多様であることを考えて、日時場所は柔軟に対応できるとよい。(園の午睡中の開催 等) ・持ち物 年間活動計画についても検討するため、年間指導計画、年間行事予定等を持参するとよい。		

幼小 顔合わせ会 【活動】

- | | |
|-----------|---|
| 1. 活動 | 幼小顔合わせ会 |
| 2. 時期 | 4月上旬 |
| 3. 場所 | 小学校会議室 |
| 4. ねらい | 管理職、連携接続担当者が知り合う。
連携接続のねらいの共通理解をする。
年間活動計画を確認・決定する。 |
| 5. 対応する職員 | 校長 園長 |
| 6. 参加者 | 小学校：校長 教頭 教務主任 1年担任
特別支援教育コーディネーター 幼小連携接続担当 等
幼：園長 主任主幹 年長担任 旧年長担任 幼小連携接続担当 等 |
| 7. 持ち物 | 年間指導計画 年間行事予定 等（年間活動計画を確認・決定するためのもの） |

予定時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 幼小顔合わせ会 (〇時～〇時) 司会：教頭 記録：教務主任 ・開会 (5 分) ・趣旨説明 (5 分)	校長 校長	「幼小連携接続に関する担当者を知り、今後の幼小連携接続の活動を円滑に進めることにつなげたい。また連携接続の重要性やねらいを幼小で共通理解したい。」
趣旨 例 ・管理職、担当者等が知り合い、幼小連携接続の活動を円滑に取り組めるようにするため。 ・連携接続の活動の重要性やねらいを共通理解するため。 等		
・自己紹介 (5 分)	各職員	職名 担任 担当 趣味 特技 好きな食べ物 等具体的に示す。 (堅苦しくなく楽しい雰囲気になるように配慮するとよい。)

・ねらい等の共通理解（10分）	校長 園長	「今年度の幼小連携接続の取り組みのねらいについては〔初年度であるため、互いの保育教育について知ること／2年目であるので、互いの教育を意識して日常の教育に生かす〕等 としたい。」
ねらい等 例 【幼小共通のねらい 幼のねらい 小学校のねらい それぞれのねらいについて共通理解】 ・（初年度であるため）互いの教育・保育について知る。 ・（2年目であるため）互いの保育教育について知ったことを日常の指導に生かす。 等 ※幼小職員の互惠性を十分に考慮し、ねらい等を共通理解する。		
・年間計画の確認、決定（30分）	校長 園長	「今年度の幼小連携活動の年間計画を立てたい。」 「今後の日程調整に係る打ち合わせ時間等の短縮削減のため、できる限り今回決定したい。」
年間計画の内容 例 ・授業参観（6月○日・10月○日） ・保育参観（8月○日・2月○日） ・合同研修会（6月○日・9月○日） ・職員親睦会（8月○日） ・接続期カリキュラム合同検討会（1月・2月・3月） 等 ※今後の日程調整等の手続負担軽減のため、できる限り活動予定日（月、日、時間帯等）を管理職の判断で決められるとよい。		
閉会（5分）	校長	ポイント 【資料編】『幼小連携年間計画』に書き込み、年間計画を完成させましょう。今後の日程調整の手間が大幅に省けます。

小学校授業参観・情報交換会・要録等引き継ぎ会（6月） 【手続き】

1. 活動 小学校授業参観・情報交換会・要録等引き継ぎ会 のための事前連絡
2. 連絡する時期 4月
3. ねらい 小学校授業参観・情報交換会のための調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 等)
4. 連絡の取り方 校長から園長
5. 配慮点 入学1～2カ月後、新1年担任が個々の児童について、ある程度の様子を把握した後活動を行うと、情報交換等を効果的に行うことができる。

活動	対応	活動の詳細
1. 顔合わせ会実施の連絡	校長	・校長から、園長に電話連絡 「6月中に1年生の授業参観を実施する。」
・参観趣旨説明	校長	「児童理解を深めるために、貴施設を修了した児童の〔成長の様子／学習の様子／生活の様子〕等について参観いただきたい。」
参観の視点 ・児童の成長の様子 ・児童の学習の様子 ・児童の生活の様子 ・配慮が必要な児童の様子 ・教師の支援や指導の様子 - 等		
・情報交換会の趣旨説明	校長	「参観終了後に、情報交換会・要録等引き継ぎ会を行いたい。」 「情報交換会・要録等引き継ぎ会では、更なる児童理解のために、参観での様子を踏まえて、〔児童の昨年度までの様子／幼での指導の方法／要録等の内容を踏まえた児童の様子や学校での指導の仕方〕等の情報交換、引き継ぎを行いたい。」
情報交換会、要録等引き継ぎ会の視点 ・児童の成長、児童の様子に関すること ・集団の様子、個の様子に関すること ・幼での援助の仕方についての引き継ぎ ・配慮が必要な幼児の様子に関すること ・指導上参考になる幼での生活や指導の仕方の情報交換 - 等		
・参加者確認	校長	「参加者は、昨年度の年長担任を中心に〇〇〇〇をお願いしたい。」
幼参観者について 旧年長担任 現年長担任 園長 主任主幹 幼小連携接続担当 等		
・日時確認	校長	「〔参観、情報交換会等、参加可能な日時はあるか。／〇日～〇日の間の□時～□時を参観可能日時とし、いずれの日かの◇時～◇時を情報交換会としたいがどうか。〕」
保育時間の関係や幼職員の就労形態により日程調整は難しいが、旧年長担任を中心に日程を調整する。(午睡がある場合には、その時間を利用できるよう調整をするようにする) 情報交換等については、開始、終了時間を明確に設定する		

小学校授業参観・情報交換会・要録等引き継ぎ会（6月） 【活動】

1. 活動 小学校授業参観・情報交換会・要録等引き継ぎ会
2. 時期 6月（1年担任が個々の児童の様子を把握できるようになった時期）
3. 場所 参観：1年教室
情報交換会・要録等引き継ぎ会：小学校会議室
4. ねらい 児童理解を深め、今後の指導に役立てるため、児童の生活や学習の様子、就学前の様子などの情報を交換する。（幼・小）
5. 対応する職員 1年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：校長 教頭 1年担任 幼小連携接続担当 等
幼：園長 旧年長担任 年長担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 保育記録 送付された要録等 情報交換等に必要なもの
8. 配慮点 複数施設と同日に実施する際は、情報交換会・要録等引き継ぎ会を前後半に分け、前半部分では複数施設合同の情報交換会、後半部分では施設の希望に応じて個別に要録等引き継ぎ会を実施する。

情報交換会等時間	1施設のみの場合	60分	複数施設合同の場合	45分
----------	----------	-----	-----------	-----

活動	対応	活動の詳細
1. 日程等周知	校長 園長	各施設、職員朝礼で参観・情報交換会の日程を確認（参加者の確認）
2. 授業参観 （〇時～〇時）	教頭 校長 1年担任	玄関等に案内設置 参観者受付、案内 オリエンテーション（参観の視点 教育目標・教育内容等の説明） 授業
教室環境 例 ・参観者が自由に児童の様子を見ることができるよう、参観スペースを教室の左右、後ろ等に設ける。 ・児童の育ちの様子を多方面から参観してもらうために、いろいろな教科での学習成果等を掲示しておく。（図工の作品、生活科の観察記録、学級だよりや学年だより 等） ・気づいたことをメモし情報交換会に利用できるように付箋紙を用意し、貼り付ける場所を設けたり、ワークシート等を用意し、参観の視点を明確にしたりする。		
3. 情報交換会・ 要録等引き継ぎ会 （〇時～〇時） 司会：校長	校長 1年担任	「情報交換会・要録等引き継ぎ会では、参観で見られた〔児童の成長の様子／児童の学習や育ちの様子／教員の指導の仕方〕等について、気付いたことを教えてほしい。また、児童理解や今後の指導に生かすために、参観での様子を踏まえて、〔児童の昨年度までの様子／幼での指導の方法／要録等の内容を踏まえた児童の様子や学校での指導の仕方〕等の情報交換、引き継ぎを行いたい。」
情報交換会、要録引き継ぎ会の視点・内容 ・在園時から成長した児童の姿 ・4月から2カ月間の児童の様子 ・小学校教員の指導方法、学級経営 ・集の様子、個の様子 ・配慮が必要な児童の様子に関すること ・幼小互いの教育に関する疑問、質問 ・付箋紙、ワークシート等に残された内容 ・成長を支える支援の在り方 ・給食等の食に関すること ・保育者の指導方法、学級経営 ・4月からの指導で配慮している点 ・指導上参考になる幼での生活や指導の仕方の情報交換 ・児童の下校後の過ごし方（昨年度の様子を参考に） - 等		

情報交換（参観の様子含む）

〈児童の成長の様子・4月からの指導で配慮している点〉

入学から2カ月しかたっていませんが、成長した姿を見ることができました。自分の思いを挙手して伝えようとする姿や、椅子にしっかりと座る姿が見られ、授業らしくなっているなと思いました。幼で援助が必要であった子も楽しそうに授業を受けていて安心しました。



入学後、少しずつ学校にも慣れ、自分の思いを話すことができるようになってきました。教師や友達の話を聞くことができるようになってきました。しかし、学習が難しくなり気持ちが落ち込んでしまう児童が増えてきました。このような児童には、目で見て分かる視覚教材を使ったり、個別に関わったりするなどして、意欲的に学習に取り組めるようにしているところです。

〈小学校・幼の指導方法について〉

児童が話を集中して聞けず、先生が注意している場面が見られました。幼では同じような時、椅子に座ることにこだわらず、車座になって話を聞くことができるようにするなど、集中できる環境を用意するようにしていました。



なるほど、昨年度までは集中して話を聞ける環境の設定を大切にしていたのですね。環境構成について再度考えていきたいと思います。

〇〇さんですが、幼では自分から発言することが苦手だったのですが、参観では進んで挙手し、発言していました。小学校ではどのような指導を行ってきたのですか？



〇〇さんは入学当初は進んで発言することが苦手でしたが、自分で思いを伝えようとする姿を認めたり、ほめたりして自信をもてるように接してきたところ、少しずつ思いを表現することができるようになってきました。

〈児童の姿の見取りや指導について〉



入学当初から・・・をしようとすると戸惑ってしまい、活動に取り組めない児童が多く見られます。今までに経験したことが少ないような感じがします。就学前の経験や、先生方はどのような指導をしていたのでしょうか？

・・・については、園ではあまり経験をしていませんでした。年に数回行うこともありましたが、その際は幼児が安心して取り組めるよう十分に見通しをもてるよう説明し、指導をするようにしていました。今後は、小学校で戸惑わないよう、園でも十分に経験できるよう配慮したいと思います。



〈幼児の様子に関すること〉



要録に〇〇と書いてある幼児がいますが、〇〇とはどういうことですか？

〇〇とは、具体的に・・・ということです。ですので、小学校でも・・・のような姿が見られると思います。



〇〇さんは・・・のような姿が日常的に見られます。要録に書かれている姿とは異なるようですが、何か原因があるのでしょうか？

今日の参観の様子から、まだ学校生活に不安な様子が見られました。もう少し慣れてくると〇〇〇〇〇の姿が見られるようになると思います。また、要録に示している姿は個人内評価でかつ方向目標に対する幼児の姿についてのものになりますので、このような表現になっています。



『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の協同性について・・・と表記されていますが、具体的にはどのような姿なのですか？

協同性の・・・については、例えば・・・のような場面では、友達同士で〇〇〇〇しようとする姿が見られるようになってきました。小学校でも、このような姿を意識した活動や支援・指導をお願いします。



〈配慮が必要な幼児について〉



配慮が必要な幼児のところにある・・・とは具体的にどのようなことですか？

・・・については具体的に〇〇〇に対する支援をしていました。小学校生活でも・・・の配慮は必要と考えます。
□□□の配慮が必要な幼児については、要録では◇◇◇と表記しています。小学校でも引き続き□□□の配慮・支援をお願いします。



〈幼での援助の方法についての引き継ぎ〉



要録の中に・・・する姿を見守ると・・・というような記述が多いのですが、具体的にどのような支援を指すのですか？

見守るという記述だけでは伝わりにくいようですね。具体的には・・・の時に〇〇〇を中心に行うということです。その結果、子どもたちは自分の力で、ものごとに向き合うことが多くなりました。



〈その他〉



全体的に、自分たちの力で園生活を進めていたという表記が目立ちます。実際のところはどうでしたか？

5歳児の終わりになると・・・を・・・するなど、園生活を自分達の力で進めるようになってきました。入学後も同じような姿が見られると思います。幼児が身に付けた力を十分に発揮できるよう指導をお願いします。



小学校授業参観 生活科（１０月） 【手続き】

1. 活動 授業参観(生活科)・情報交換会のための事前連絡
2. 時期 年間活動計画で予定されている場合は、実施の１か月前までに連絡を取る。
年間活動計画で予定されていない場合は、参観実施の２か月前までには連絡を取る。
3. ねらい 小学校生活科授業参観の連絡調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 1年担任から年長担任へ電話連絡
5. 配慮点 保育者が身動きの取りやすい時間(午睡時間等)に合わせて連絡をとったり、担任以外(管理職等)での対応をしたりする。

活動	対応	活動の詳細
・参観案内	1年担任	1年担任から年長担任へ電話連絡
・参観の日程・趣旨説明	1年担任	「10月〇日、〇時～〇時に1年生の生活科の授業参観を実施する。」 「小学校での教育について理解を深めていただくために〔授業の様子／児童の学習の仕方／小学校教員の指導の仕方／生活科と幼児期の教育のつながり〕等 の視点で生活科の授業参観をしていただきたい。」 参観の視点 ・授業の様子 ・児童の学習の進め方 ・小学校教員の指導の仕方 ・生活科と幼児期の教育のつながり
・情報交換会の日程・趣旨説明	1年担任	「授業終了後に、情報交換会を行いたい。」 「授業終了後〇時～〇時を予定している。」 「情報交換会では、小学校教育についての理解を深めるため、参観の様子を中心に〔授業の様子／児童の学習の様子／小学校教員の指導の仕方／生活科と幼児期の教育のつながり〕等 について情報交換をしたい。」 情報交換会の視点 ・授業の様子 ・児童の学習の進め方 ・小学校教員の指導の仕方 ・授業での集団の様子、個の様子 ・生活科と幼児期の教育のつながり(幼小の連携接続について)

・参加者確認	1 年担任	「参加者は、年長担任を中心に〇〇〇〇をお願いしたい。」
幼参加者について 例 園長 主任主幹 年長担任 年中担任 幼小連携接続担当 等		
・持ち物確認	1 年担任	「情報交換会では幼小の連携接続についての情報交換も行いたいため 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育 所保育指針〕を持参いただきたい。」
情報交換会について 生活科が教育課程において、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続するという機能をもつ ことを考え、学校研究のテーマ等が中心にならないよう、小学校教育の理解等の視点を明確に し、情報交換をするようにする。		

小学校授業参観 生活科 (10月) 【活動】

1. 活動 小学校授業参観（生活科） 情報交換会
2. 時期 10月 （6月の参観については、P25 参照）
3. 場所 参観：1年教室
情報交換会：小学校会議室
4. ねらい 生活科の授業参観、情報交換会を通して小学校教育について理解を深める。（幼）
5. 対応する職員 1年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：校長 教頭 1年担任 養護教諭 幼小連携継続担当 等
幼：園長 主任主幹 年長担任 年中担任 幼小連携継続担当 等
7. 持ち物 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針
小学校学習指導要領

授業参観 45分 情報交換 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 日程等周知	1年担任 年長担任 教頭	各施設、職員朝礼等で授業参観・情報交換会の日程を確認（参加者の確認） 玄関等に案内設置
2. 授業参観 (○時～○時)	教頭 校長 1年担任	参観者受付 案内 オリエンテーション（参観の視点 教育目標・教育内容等の説明） 授業
教室環境 例 ・参観者が自由に児童の様子を見ることができるよう、参観スペースを工夫する。（教室の左右、後ろ等） ・児童の育ちの様子を多方面から参観してもらうために、各教科での学習成果物等を掲示する。 ・気づいたことをメモし情報交換会に利用できるように付箋紙を用意し、貼り付ける場所を設けたり、ワークシート等を用意し、参観の視点を明確にしたりする。		
3. 情報交換会 (○時～○時) 司会：1年担任 記録：養護教諭		
・開会 ・趣旨等説明	校長 校長	「小学校教育についての理解を深めてもらうため、参観での様子を参考にして〔授業の様子／児童の学習の様子／小学校教員の指導の仕方／生活科と幼児期の教育のつながり〕等 について情報交換したい。」
情報交換会の視点・内容 ・小学校の授業の様子 ・児童の学習の様子 ・小学校教員の指導方法 ・授業での集や個の様子 ・生活科と幼児期の教育とのつながり - 等 ※学校研究のテーマ等が会の中心とならないよう留意し、参観で感じたことをもとに、小学校教育の理解が深まるような視点での話を中心とした情報交換となるようにする。		

〈小学校の授業の様子〉

子どもの対話力を育むために、教師の話す時間が短く、的確に授業の課題を提示していました。また、児童がグループワークで課題について追究する姿に感銘を受けました。幼で主体性や友達との関わりを大切にして保育をしてきたことが生かされていると感じました。



保育者

授業の際には、児童が主体的に活動する時間を十分に確保するために、教師が話をする時間をなるべく短くしたり、グループワーク等、児童が関わり合う時間を確保したりするようにしています。
また、自ら進んで課題に関わろうとする子も多く、幼で培った力を十分に発揮しているようです。



小学校教員

〈小学校・幼の指導方法について〉

休み時間にトラブルがあったのですが、トラブルについて当事者だけでなくクラスみんなで集まって話し合っている姿が見られ、とてもよかったです。



小学校では、児童同士のトラブルが起きた時、当事者間だけの問題にはせず、クラスみんなで考えていくようにしています。トラブルに対しては、教師が一方的に解決に向けて指導するのではなく、トラブルに対してどうしていったらよいのかをみんなで意見を出し合いながら考えていけるよう指導しています。

〈生活科と幼児期の教育のつながりについて〉

45分間座り続ける授業ではなく、活動的な場面が多く、イメージしていた授業とは異なりました。



生活科では、幼児期までに培ってきた、いろいろなものに興味をもって自ら関わろうとする気持ちを大切にしています。ですから、内容も活動的なものが多く、幼児期までの遊びとのつながりがあるように意識して授業を進めています。

また、生活科と他教科を関連させることもあります。例えば、幼での遊びや生活科で生き物と触れ合ったり観察したりした経験を生かして、体育では身近な動物の特徴を捉えた表現遊びを行うきっかけとしています。

小学校では、生活科を中心に他教科とも関連させるなどして幼児期とのつながりを意識しながら教育を行っているのですね。



保育参観・情報交換会（８月）【手続き】

1. 活動 保育参観のための事前連絡
2. 時期 年間計画で参観が予定されていない場合は６月までに連絡を取る。
年間計画で参観が予定されている場合は７月末までに連絡を取る。
3. ねらい 保育参観のための調整をする（趣旨 参加者 内容 日時 場所 等）
4. 連絡の取り方 園長から校長へ電話連絡
5. 配慮点 小学校教員の都合が付きやすい夏季休業中を中心に日程調整をするとい。ただし、園が夏季休業中の場合は別途日程を調整する。

活動	対応	活動の詳細
1. 参観案内	園長	園長から校長へ電話連絡 「幼児の様子や幼児期の教育を理解する機会として、保育参観を実施したい。」
・参観の趣旨説明	園長	「幼児理解や幼児期の教育の理解のために、貴校に入学する予定の幼児の〔成長の様子／幼児の育ちの様子／職員の関わり方〕等について参観いただきたい。」
参観の視点 ・ 幼児の成長の様子 ・ 保育者の幼児への関わり方 ・ 幼児の遊びや生活の様子等 ・ 個別の対応や集団の様子 ・ 園の環境の構成の仕方		
・情報交換会の趣旨説明	園長	「保育参観終了後に、情報交換会を行いたい。」 「情報交換会では幼児理解、幼児期の教育への理解を深めるため、参観での様子を踏まえた〔幼児の遊びや生活の様子／援助や指導の方法／集団としての様子、個としての様子〕等 について情報交換を行いたい。」
情報交換の趣旨 ・ 幼児の育ちや様子に関すること ・ 指導上参考になる幼での生活や指導の仕方 ・ 集団の様子、個の様子に関すること ・ 幼職員の指導に関する助言 等		
・参加者確認	園長	「参加者は、小学校〔校長／教頭／教務主任／１年担任／養護教諭／特別支援教育コーディネーター／幼小連携接続担当〕等をお願いしたい。」 「幼からは〔園長／主任主幹／年長担任／年中担任／幼小連携接続担当〕等、接続期に関わる職員の参加を予定している。」
・日時確認	園長	「〔参観可能な日時はあるか。／○日～○日の間の●時～●時を参観可能日時としたいがどうか。〕」 「〔情報交換会は○日の●時～●時でどうか。／都合のよい日はあるか。〕」
参観可能な日時について 小学校の夏季休業中には職員の他の研修等も予定されているため、複数候補日を挙げ、その期間中の参観に応じられるとよい。夏季休業中以外の場合についても参観期間を設けて受け入れられるとよい。		
・場所確認	園長	「参観場所は年長保育室を中心に・・・としたい。」 「情報交換会は幼会議室で行いたい。」

保育参観・情報交換会（８月）【活動】

1. 活動 保育参観・情報交換会
2. 時期 8月上旬
3. 場所 参観：年長児保育室 園庭 等
情報交換会：幼会議室
4. ねらい 参観や情報交換会を通して幼児理解や幼児期の教育の理解を図る。(小)
8月時点での幼児の姿を知り、就学時健診での個の幼児のより深い見とりにつなげる。(小)
5. 対応する職員 園長 校長
6. 参加者 小学校：校長 教頭 1年担任 幼小連携接続担当 各学年担任 等
幼：園長 主任主幹 年長担任 幼小連携接続担当 等

参観 60～210分 情報交換 30分～60分

活動	対応	活動の詳細
1. 日程等周知	園長 校長 年長担任	各施設、職員朝礼等で参観・情報交換会の日程を確認(参加者等の確認) 玄関等に案内設置
2. 保育参観 (○時～○時)	園長 年長担任	参観者受付、案内 等 オリエンテーション(参観の視点 教育保育目標等の説明) 保育
園内環境 事前準備 例 ・参観者に年長児の日常の遊びや生活の様子を見てもらうため、参観スペースは限定せず、園内を自由に見ることができるようにする。 ・必要に応じて、小学校教員が幼児と一緒に遊んだり、食事をとったりする等、幼児と関わりながら参観できる環境も用意する。 ・気づいたことのメモをすることや、情報交換会で利用できるように付箋紙を用意し、貼り付けることができる場を設ける。(貼り付けが難しい場合はワークシート等を活用する) ・各保育室前に月案・週案・日案等を掲示し、保育内容が分かるようにする。 ・保育参観の視点について、参観前に説明をしておく。 ・必要に応じて、教育保育目標等の資料、名簿、座席表等を用意しておく。 等		
3. 情報交換会 (○時～○時) 司会：園長		
・開会 ・趣旨等説明	園長 園長	「幼児理解、幼児期の教育への理解を深めてもらうため、参観での様子を参考にして〔幼児の遊びや生活の様子／援助や指導の方法／集団としての様子、個としての様子〕等 について情報交換をしたい。」
情報交換会の視点・内容（就学を見据えた視点・内容） ・幼児の育ちの様子 ・幼児の育ちを支える保育の在り方 ・集や個の様子に合わせた援助 ・付箋紙、ワークシート等の内容 ・幼児の遊びや生活の様子 ・保育者の指導方法、クラス経営 ・幼児の育ちを支える環境 等		

〈園での活動の流れについて〉



小学校教員

園では1日をどのように過ごしているのですか？

園では、朝全員が登園するまで、自分でしたい遊びを見つけ、友達や保育者と一緒に遊びます。その後には、みんなで集まって活動なども行います。給食の準備や身の回りの始末なども行い、自分達で生活を進めています。



保育者

〈幼の援助の方法、環境の構成等についての質問・助言〉



幼児が主体的に行動している姿に驚きました。幼ではどのような援助や指導をしているのですか？また、他にもしていることはありますか？

幼では毎日の遊びや生活を大切にし、幼児が自ら考えて行動できるように、あえて出すぎず必要最低限の援助をしています。保育者は幼児が主体的に活動し、発達していくことができる環境を構成し、幼児が主体的に活動する姿を見守る保育に心がけています。



遊びでは、幼児一人一人が違ったことをしている場合もあると思いますが、一人一人の経験にばらつきがあってもよいのですか？

幼では、一人一人の自発的な活動としての遊びを大切にしています。ただ、それだけでは幼児が経験することにばらつきや偏りが出てしまうので、クラス活動などの保育者の意図的な活動を取り入れ、幼児が必要な経験もすることができるよう保育を展開しています。



〈小学校・幼の指導等についての質問・助言〉

就学に向けて、幼で指導や取り組みが必要なことはありますか？

例えば、「ひらがな」は書いたり読んだりできるように教えた方がよいのでしょうか？

幼では、幼児一人一人が生活面で自立できるよう頑張っているのですが。



就学時の様子を見てみると、生活の自立はとても大切なことだと感じています。引き続きお願いします。

「ひらがな」については、要領指針等に示されている以上のことをする必要はありません。文字に興味関心がもてるよう、遊びや生活の充実をお願いします。時間を設けて授業形式でワーク等を使って一斉に文字や数字を教えるようなことの必要は、全くありません。

〈その他 クラスの様子 指導上参考になった点 等〉



参観をさせてもらい、幼の環境構成や保育者の援助・指導の仕方など、参考になることが多かったです。新1年生を迎えるにあたり、これらのことを小学校で取り入れていきたいと思っています。

保育参観・情報交換会（２月）【手続き】

1. 活動 保育参観のための事前連絡
2. 時期 年間計画で参観日が予定されていない場合は、前回の参観後、もしくは12月中までに連絡を取る。
年間計画で予定されている場合は、参観の1か月前までに連絡を取る。
3. ねらい 保育参観のための調整をする。（趣旨 参加者 内容 日時 場所 等）
4. 連絡の取り方 年長担任から1年担任へ電話連絡
5. 配慮点 年度末の行事が重なる時期であるため、早い時期の日程調整を行うとよい。

活動	対応	活動の詳細
1. 参観案内	年長担任	年長担任から1年担任へ電話連絡 「2月に保育参観を実施するため参観をお願いしたい。」
・参観の趣旨説明	年長担任	「貴校に入学する予定の幼児について理解をしてもらうため、〔成長の様子／生活の様子／職員の援助の仕方〕等 について参観いただきたい。」
参観の視点（就学に向けて） ・ 幼児の成長の様子 ・ 幼児の生活や遊びの様子 ・ 個と集の様子 ・ 保育者の援助の仕方 ・ 幼の環境		
・情報交換会の趣旨説明	年長担任	「参観終了後に、情報交換を実施したい。」 「参観での様子を踏まえ、幼児理解を深めるために〔幼での生活の様子／個と集の様子／幼での指導の方法〕等 について情報交換したい。」
参観の視点（就学に向けて） ・ 幼児の成長の様子 ・ 幼児の生活や遊びの様子 ・ 個と集の様子 ・ 保育者の援助の仕方 ・ 幼の環境		
・参加者確認	年長担任	「参観者は、1年担任を中心に・・・・・・をお願いしたい。」
参観者について 例 1年担任 2年担任 校長 教頭 教務主任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター 幼小連携継続担当 等		
・日程調整（保育参観）	年長担任	「〔参観可能な日時はあるか。／○日～○日の間の□時～□時を参観可能日時としたいがどうか。〕」
参観可能な日時について 年度末の行事が多い時期であるため、なるべく早めに日程の調整を進めるとよい。期間を設け自由に参観できるようにすると参観しやすい。		
・日程調整（情報交換会）	年長担任	「〔情報交換会は○日の○時～○時でどうか。／都合のよい日はあるか。〕」
1年担任、年長担任、園長、校長の参加を中心に考え、日程を調整する。		

保育参観・情報交換会（２月） 【活動】

1. 活動 保育参観・情報交換会
2. 時期 2月
3. 場所 参観：年長児保育室 園庭 等
情報交換会：幼会議室
4. ねらい 参観や情報交換会を通して、就学する幼児の理解を図る。（小）
5. 対応する職員 年長担任 1年担任
6. 参加者 小学校：校長 教頭 1年担任 2年担任 養護教諭 幼小連携継続担当 等
幼：園長 主任主幹 年長担任 年中担任 幼小連携継続担当 等

参観 60分～120分 情報交換 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 日程等周知	年長担任 1年担任	各施設、職員朝礼等で参観・情報交換会の日程を確認（参加者の確認）
	年長担任	玄関等に案内設置
2. 保育参観 （〇時～〇時）	園長 年長担任	参観者受付、案内 オリエンテーション（参観の視点等の説明） 保育
園内環境 事前準備 例 ・参観者に年長児の日常の遊びや生活の様子を見てもらうため、参観スペースは限定せず、園内を自由に見ることができるようにする。 ・必要に応じて、小学校教員が幼児と一緒に遊んだり、食事をとったりする等、幼児と関わりながら参観できる環境も用意する。 ・気づいたことをメモすることや、情報交換会に利用できるよう付箋紙を用意し、貼り付ける場所を設けたり、ワークシート等を用意し、参観の視点を明確にしたりする。 ・各保育室前に月案・週案・日案等を掲示し、保育内容が分かるようにする。 ・保育参観の視点について、参観前に説明をしておく。 ・必要に応じて、教育保育目標等の資料、名簿、座席表等を用意しておく。 等		
3. 情報交換会 （〇時～〇時） 司会：年長担任		
・開会 ・趣旨等説明	年長担任 年長担任	「就学する幼児の理解を深めてもらうため、参観で見られた〔幼児の育ちの様子／遊びや生活の様子〕等 について情報交換をしたい。」
情報交換会の視点・内容 ・幼児の育ちの様子 ・教師の援助、指導について ・幼児の様子（集団、クラスとして） ・付箋紙に書き留められた内容 ・幼児の遊びや生活の様子 ・幼の環境について ・幼児の様子（個として） ・ワークシートの内容 等		

〈幼児の育ちの様子・保育者の援助の方法〉



小学校教員

この時期には、毎日の園生活を自分達で進めていくようになるのですね。保育者が声をかけなくても幼児が主体的に1日の生活を進めている姿に驚きました。

この時期になると、園生活の様々なことを自分達の力でするようになります。保育者は幼児が自分達の生活を自分達でつくっていきけるよう環境を整え、必要に応じて援助をするようにしています。



保育者

〈保育者の幼児への関わり方について〉



幼児同士がトラブルになっている時、保育者がすぐに関わらないようにしたのはどうしてですか？小学校では、トラブルの未然防止に努めたり、教員が積極的に関わり話を聞いたりするようにしています。

今日のようなトラブルの時は、大きなけがをする心配がなかったので、自分達で話し合いながら解決することを願い、見守るようにしていました。トラブルも幼児の成長のチャンスと捉え大事にするようにしています。そのため、保育者は様子を見て声をかけたり、手助けしたりするようにし、積極的にトラブルの解決のために関わらないようにしています。



〈小学校の指導方法についての質問〉

参観で見て頂いた通り、園では幼児の主体性を大切にした保育を心がけています。また、保育内容も活動的なものが多くなるようにしています。入学当初は、座り続けたり、先生の話聞き続けたりする授業に適応しにくい幼児もいるかもしれません。小学校では入学当初、どのような指導をするのでしょうか。



園での主体性を大切にした保育は、小学校以降の学ぶ意欲に繋がります。主体的に活動していた幼児の姿を小学校でもしっかりと引き継ぎたいと思います。また、入学当初は環境も変わり、小学校生活に適應することが難しいことが考えられます。生活科を中心に、児童の様子に合わせて、座る時間や授業の仕方など、指導の工夫をしていきます。

幼小合同研修会（小学校提案 6月） 【手続き】

1. 活動 幼小合同研修会のための事前連絡
2. 時期 年間活動計画で実施日が予定されていない場合は、4月上旬には連絡を取る。
年間活動計画で実施日が予定されている場合は、2週間前までには連絡を取る。
3. ねらい 合同研修会開催の連絡調整をする。（趣旨 参加者 内容 日時 場所 等）
4. 連絡の取り方 小学校1年担任から年長担任へ電話連絡

活動	対応	活動の詳細
1. 研修会案内 ・ 日時、場所等調整	1年担任	「幼小の合同研修会を開きたい。」 「[計画通り○月○日、□時～□時、場所は・・・で行いたいがよいか。／○月○日～○日の間、□時～□時、場所は・・・で行いたいが都合はどうか。]」
・ 趣旨等説明	1年担任	「小学校教育について理解を図るため〔小学校での学習の仕方／生徒指導の方法／小学校生活の過ごし方〕等 について研修会を行いたい。」
研修会の視点・内容 ・ 小学校の学習方法の共通理解 ・ 生徒指導方法の共通理解 ・ 小学校の生活についての共通理解 ・ 小学校教育全般についての共通理解		
・ 参加者確認	1年担任	「参加者は年長担任を中心に・・・をお願いしたい。開催日の1週間前には参加者の連絡をいただきたい。」 「小学校参加者は、1年担任を中心に○○○○を予定している。」
参加者について 幼小の相互理解のためになるべく多くの教職員の参加が望ましい。 小学校：1年担任 各担任 養護教諭 校長 教頭 幼小連携継続担当 等 幼：年長担任 各担任担当 園長 主任主幹 幼小連携継続担当 等		

幼小合同研修会（小学校提案 6月） 【活動】

1. 活動 幼小合同研修会
2. 時期 6月
3. 場所 小学校会議室
4. ねらい 合同研修会を通して小学校教育の相互理解を図る。
5. 対応する職員 1年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：1年担任 各担任 養護教諭 校長 教頭 幼小連携接続担当 等
幼：年長担任 各担当担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
7. 事前準備等 (資料等) グループ作業用紙 アンケート用紙
(参加者) 研修会1週間前には参加者を取りまとめ、グループ分けをしておく。

研修時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 合同研修会 司会：1年担任 ・開会 ・趣旨等説明 会の流れ説明 (10分)	校長 1年担任	「小学校教育の理解を図るため〔小学校での学習の仕方／生徒指導の方法／小学校生活 等〕について、小学校の具体的な取り組みや考え方を幼の先生方と共通理解したい。」 等
合同研修会の視点・内容 例 ・小学校の学習方法の共通理解 ・生徒指導の方法の共通理解 ・小学校の生活についての共通理解 ・小学校教育全般について 等		
・小学校の取り組み事例紹介 (グループ協議の課題提示) (10分)	1年担任	・就学した児童が4月から受けている小学校教育について、視点を決め、紹介する。 例：就学した児童が4月から行っている生活や学習に関する事例紹介 「登校から下校までの生活の仕方と生活指導」 「4月当初から大切にしている1時間の授業の進め方」
事例紹介の視点 ・1時間の授業の進め方 ・教科中心学習での1日の流れ ・授業中の支援の仕方 ・生徒指導の仕方、内容 ・児童の1日の生活の流れ 等 ポイント 事例紹介には、児童のエピソードや写真、動画、配布物、教員によるロールプレイ等を用いると、保育者にも分かりやすい。		

・グループ協議 (25 分)		・グループ内での自己紹介 ・小学校の取り組み事例についての協議 あらかじめ編成しておいたグループで、小学校の取り組み事例について質疑応答、意見交換を行う。 (小学校教員を司会として、少人数のグループをつくり、小学校の取り組みについての感想や疑問等について話しやすい雰囲気をつくる。)
ポイント グループ分けは、参加者の経験年数、担当年齢・学年、役職（例 管理職グループ、若手、中堅、ベテラングループ）等、工夫する		
・協議内容について全体で共有 (10 分) ・研修会のまとめ (5 分) ・閉会	校長	・グループ作業用紙への書き込み、グループでのまとめをする。 ・各グループでの主な内容について発表し、全体での共有を図る。 その際の小学校全般に関する質問事項については、小学校職員が対応する。 ・合同研修会の感想を話し合ったり、アンケート記入をしたりする。

幼小合同研修会（幼提案 12月） 【手続き】

1. 活動 幼小合同研修会のための事前連絡
2. 時期 年間活動計画で実施日が予定されていない場合は、10月上旬までには連絡を取る。
年間活動計画で実施日が予定されている場合は、2週間前までには連絡を取る。
3. ねらい 合同研修会開催の連絡調整をする。（趣旨 参加者 内容 日時 場所 等）
4. 連絡の取り方 年長担任から1年担任へ電話連絡

活動	対応	活動の詳細
1. 研修会案内	年長担任	「幼小の合同研修会を開きたい。」
・ 日程、場所等調整	年長担任	「〔計画通り〇月〇日、□時～□時、場所は・・・で行いたいがいかが。／〇月〇日～〇日の間、□時～□時、場所は・・・で行いたいがいかがかどうか。〕」
・ 趣旨等説明	年長担任	「幼児期の教育の理解を図るため〔幼での遊びの様子／保育者の幼児への関わり方／幼での生活の仕方／幼児期の育ちと学び 等〕について研修会を行いたい。」
合同研修会の視点・内容 例 ・ 遊びの様子について ・ 保育者の幼児への関わり方 ・ 幼での生活の仕方について ・ 幼児期の育ちや学びについて ・ 幼児期に培っている力について ・ 幼児期の教育全般について 等		
・ 参加者の確認	年長担任	「参加者は、1年担任を中心に・・・をお願いしたい。」 「開催の1週間前には参加者の連絡をいただきたい。」 「幼参加者は、年長担任を中心に・・・を予定している。」
参加者について 幼小の相互理解のためになるべく多くの教職員の参加が望ましい。 小学校：1年担任 各担任 養護教諭 校長 教頭 幼小連携継続担当 等 幼：年長担任 各担任担当 園長 主任主幹 幼小連携継続担当 等		

幼小合同研修会（幼提案 12月） 【活動】

1. 活動 幼小合同研修会
2. 時期 12月
3. 場所 幼会議室
4. ねらい 合同研修会を通して幼児期の教育についての理解を図る。
5. 対応する職員 年長担任 1年担任
6. 参加者 小学校：1年担任 各担任 養護教諭 校長 教頭 幼小連携接続担当 等
幼：年長担任 各担当担任 園長 主任主幹 幼小連携接続担当 等
7. 事前準備等 【資料等】グループ作業用紙 アンケート用紙
【参加者】研修会1週間前には参加者を取りまとめ、グループ分けをしておく。

研修時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 合同研修会 司会：年長担任 ・開会 ・趣旨等説明 会の流れ説明 (10分)	園長 年長担任	「幼児期の教育の理解を図るため〔幼での遊びの様子／保育者の幼児への関わり方／幼での生活の仕方／幼児期の育ちと学び 等〕について、幼の具体的な取り組みや考え方等を小学校の先生と共通理解したい。」 等
合同研修会の視点・内容 例 ・遊びの様子について ・園での生活の仕方について ・幼児期に培っている力について ・保育者の幼児への関わり方 ・幼児期の育ちや学びについて ・幼児期の教育全般について 等		
・幼の取り組み事例紹介 (グループ協議の課題提示) (10分)	年長担任	・4月に進学する年長児が受けている幼児期の教育について、視点を決め紹介する。 例：幼での規範意識やルールに関する事例紹介 「幼児同士のケンカが起きた時、幼児期の教育では保育者はどのような援助をしているのか。」
取り組み事例紹介の視点 例 ・1日の保育の流れ ・保育者の指導の仕方 ・幼児の遊びと学び ・幼児の1日の生活 ・教師の援助の仕方 等		
ポイント 事例紹介には、エピソードや写真、動画、幼職員によるロールプレイ等を用いると、小学校教員に理解してもらいやすい		

・グループ協議 (25 分)		・グループ内での自己紹介 ・幼の事例についての協議 あらかじめ編成しておいたグループで、幼の取り組み事例について質疑応答、意見交換等を行う。 (幼職員を司会とし、少人数のグループをつくり、幼の取り組みについての感想や疑問等について話しやすい雰囲気をつくる。)
ポイント グループ分けは、参加者の経験年数、担当年齢・学年、役職（例 管理職グループ 若手 中堅 ベテラングループ）等、工夫する。		
・協議内容について全体で共有 (10 分) ・研修会まとめ (5 分) ・閉会	園長	・グループ作業用紙への書き込み、グループでのまとめをする。 ・各グループでの主な内容について発表し、全体での共有を図る。 その際、幼全般に関する質問事項等については、幼職員が対応する。 ・合同研修会の感想を話し合ったり、アンケート記入をしたりする。

就学時健康診断後の情報交換 【手続き】

1. 活動 就学時健康診断後の情報交換のための連絡
2. 時期 必要に応じて2学期の早い段階で小学校と連絡をとる。
3. ねらい 就学時健康診断後の情報交換の同意を得る。
4. 連絡の取り方 年長担任から1年担任へ電話連絡
5. 配慮点 幼から必要に応じて各校へ問い合わせるようにする。
健診の結果の情報を得るということではなく、就学までの保育の参考とするための幼児の全体的な様子についての情報を交換したい旨を伝える。

活動	対応	活動の詳細
1. 就学時健診後の情報交換の連絡	年長担任	1年担任へ電話連絡 「就学時健診後に本園の幼児の様子についてお話を伺いたい。」
・趣旨等説明	年長担任	「就学に向けた保育の参考とするために、保育者や保護者から離れた場での幼児の様子について教えていただきたい。」
情報交換の趣旨 例 ・就学までの保育の参考とするために、教師や保護者から離れた場での姿を教えてください。 ・就学までの保育の参考とするために、新しい場や他施設の幼児が混在する場での様子を教えてください。 等 情報交換の内容 例 ・新しい場において保育者や保護者から離れた際の幼児の様子 ・指示や声掛けに対する幼児の様子 ・検査時の幼児の姿 ・他施設の幼児との関わりについて ・その他、小学校教員が気付いた点 ※個別の健診の結果ではなく、就学までの保育の参考とするための、幼児の全体的な様子等についての内容とすること。 ポイント 幼児の様子について知りたい内容や視点がある場合は、事前に小学校に知らせておくと、就学時健診時に検査を担当する各教員に視点をもって幼児の姿を見てもらえる。		
・日時の確認	年長担任	「就学時健康診断後の 10月〇日 〇時頃に〔電話連絡／訪問〕してよいか。」 「〔電話連絡／訪問〕は〔年長担任／園長／主任主幹〕が行う。」

就学時健康診断後の情報交換会 【活動】

1. 活動 就学時健康診断後の情報交換
2. 時期 10月頃 就学時健康診断終了後
3. 方法 年長担任から1年担任への電話（小学校へ訪問）での聴き取りをする。
4. ねらい 就学までの保育の参考とするために、就学時健康診断時の様子について、情報交換する。
5. 対応する職員 年長担任 1年担任
6. 配慮点 施設の必要に応じて各校へ問い合わせ、様子を聴き取るようにする。
個別の健診結果の情報を得るということではなく、就学までの保育の参考とするための幼児の全体的な様子についての情報を交換する。

活動	対応	活動の詳細
1. 就学時健診後の情報交換		
・ 電話連絡	年長担任	「就学時健診での本園の幼児の様子について教えていただきたい。」
・ 趣旨説明	年長担任	「保育者や保護者から離れた場での様子を知り、就学に向けた今後の保育を考えていきたい。」
情報交換の趣旨 例 ・ 就学までの保育の参考とするために、教師や保護者から離れた場での姿について知ること。 ・ 就学までの保育の参考とするために、新しい場や他施設の幼児が混在する場での様子を知ること。		
・ 情報交換	年長担任	情報交換の内容 例 ・ 新しい場において保育者や保護者から離れた際の幼児の様子 ・ 指示や声掛け等に対する幼児の様子 ・ 検査時の幼児の姿 ・ 他施設の幼児との関わりについて ・ その他、小学校教員が気付いた点 ※個別の健診の結果ではなく、就学までの保育の参考とするための幼児の全般的な様子等についての内容とする。

〈健診時の幼児の姿について〉

保育者や保護者から離れた場で、本園の幼児はどのような様子でしたか？



保育者



小学校教員

保護者から離れ、はじめは緊張したり不安を感じたりしている様子の幼児が多かったです。健診を受けるうちに見通しがつき、安心して健診を受ける様子が見られるようになりました。

保育者や保護者がいない場での様子が分かりました。見通しをもつと安心できたようでよかったです。幼でも見通しをもちながら、いろいろな活動に取り組めるよう意識していきたいと思います。



〈健診時の指示や声掛けに対する幼児の様子について〉

健診時、先生方の指示や声掛けに対して幼児はどのような様子でしたか？



健診時の指示や声掛けについては、一生懸命聞いていました。はじめのうちは指示が分からなかった幼児もいましたが、個別に声をかけると理解して健診を受けていました。

〈他施設の幼児との関わりについて〉

他施設の幼児との関わりの様子はどうでしたか？



グループで健診の会場をまわったのですが、はじめのうちは会話もなくぎこちない様子でしたが、徐々に会話が増え、健診の最後には笑顔で会話を楽しむ姿が見られました。中には、いざこざになる幼児もいましたが、教師が仲裁に入ると互いの話を聞き、思いを伝え合おうとしていました。

〈その他、小学校教員が気付いたこと〉

その他に、健診中の幼児の様子等で気が付いたことはありましたか？



健診を受けていく中でトイレの使い方に困る幼児が多く見られました。小学校では和式のトイレを使用する機会が多くなります。幼でも和式のトイレの使い方での困り感が出ないように援助や指導をしてもらうことは可能でしょうか？

園には和式トイレが少なく、使用する機会もほとんどないので、戸惑う幼児は多いかもしれません。小学校生活での困り感がでないように、保護者への声掛けをしながら対応していきたいと思います。



就学前情報交換会 【手続き】

1. 活動 就学前情報交換会開催の連絡
2. 時期 年間活動計画で予定されていない場合は3学期の早い段階までに連絡を取る。
年間活動計画で予定されている場合は開催1か月前までには連絡を取る。
3. ねらい 就学前情報交換会の開催連絡・日程調整等を行う。
4. 連絡者 校長から園長
5. 配慮点 連絡時に、情報交換会での小学校側の質問事項等を園に伝えておくと、会の時間を有効に使うことができる。

活動	対応	活動の詳細
・情報交換会開催 連絡	校長	・校長から対象施設園長へ電話連絡 「3月〇日 〇時～〇時に就学前情報交換会を実施したい。」
・情報交換会視 点、日時説明	校長	「就学にあたり〔幼児の様子／配慮が必要な幼児の様子／幼児期に行ってきた援助の仕方〕等について情報交換したい。」
情報交換の視点（就学にあたり） ・ 幼児の様子に関すること ・ 配慮が必要な幼児の様子に関すること ・ 幼での援助の仕方について引き継ぎ - 等		
・参加者確認	校長	「参加者は、年長担任を中心に、〇〇〇〇をお願いしたい。」 幼参加者について 年長担任 園長 主任主幹 幼小連携接続担当 等 小学校参加者について 次年度1年担任 現1年担任 校長 教頭 教務主任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター 等

たくさんの施設と調整するのは・・・

10以上の施設から幼児が進学してくる場合、何度も連絡して日程を調整することは大変です。その場合、小学校であらかじめ候補日を挙げたタイムテーブルをつくり、各施設に都合のつく日時を記入してもらうなど、なるべく時間と手間をかけないで調整できるとよいですね。（メールやFAXも積極的に活用しましょう）

また、進学する幼児が数名と少ない施設が複数の場合には、合同での就学前情報交換会を開くことも考えられます。学校や地域の幼の実態に応じた無理のない調整、実施をしましょう。

例：複数施設合同で行う場合 会を前半、後半で分けて行う

前半は『全体会』で園での全般的なこと、小学校での全般的なことの情報交換等

後半は『個別会』として幼の必要に応じた個に関する情報交換等

就学前情報交換会	
前半：全体会 （4～5園参加） ・ 幼での援助 ・ 全体的な様子 ・ 小学校の様子 ・ 小学校の体制 等	後半：個別会 （1園ずつ） ・ 個の様子に関わること ・ 配慮が必要な幼児に関すること 等

【活動】

- ## 5. 対応する職員

予定時間 60分

情報交換、引き継ぎの視点・内容 例

〈幼児の様子に関すること〉



進学してくる幼児の様子（集団として、個として）を教えてください。

（集について）この年齢の幼児は全体的に・・・な様子です。集団としては・・・の援助をするようにしてきました。

（個について）・・・さんは・・・が得意で・・・でした。〇〇が苦手だったので・・・の援助をして自分の力で出来るように見守ってきました。



〈配慮が必要な幼児について〉



就学に際して、配慮が必要と思われる幼児について教えてください。

・・・については・・・の支援をしているところです。
小学校生活でも・・・の配慮は必要と考えます。



小学校では幼と違い・・・の支援ができない場合があります。
そのような時、困ってしまう幼児はいますか？

・・・の支援があるので落ち着いて生活を送っている幼児もいます。
4月からは環境も変わるので、・・・の支援についてはぜひとも行って
いただきたいです。



〈幼での援助の方法についての引き継ぎ〉



就学に向けて、幼ではどのような援助・指導等を行ってきましたか？

幼では〇〇の姿を願い・・・するようにしてきました。また、いざこざが起きた時は・・・の援助をするようにしてきました。小学校でも引き続き・・・の援助や支援をお願いしたいです。



〈校内の施設や児童の様子の見学〉



小学校では児童はどのような環境で生活や授業を行っているのですか？

このあと校内を自由に見学できるようにしたいと思います。校内の環境や児童の様子をご覧ください。



施設見学の視点 例

- ・ 1年生教室（机や椅子、個人の持ち物の始末の仕方 等）
- ・ 児童玄関（靴箱、傘立て 等）
- ・ 体育館
- ・ 給食の様子（配膳、食事の仕方 等）
- ・ 特別支援学級
- ・ 手洗い場
- ・ 校庭
- ・ トイレ（個室 等）
- ・ 休み時間の様子 等

就学前情報交換会（4～5 園合同） 【活動】

1. 活動 就学前情報交換会
2. 時期 3 月
3. 場所 小学校会議室
4. ねらい

就学前の幼児の様子について情報交換し、就学時の教育に生かせるようにする。

配慮が必要な幼児や支援の方法について情報交換し、就学時の教育に生かせるようにする。

幼での援助の仕方について情報交換し、就学時の教育に生かせるようにする。
5. 対応する職員 校長 園長 1 年担任 年長担任
6. 参加者

小学校：校長 1 年担任 教頭 養護教諭 特別支援教育コーディネーター
幼小連携接続担当 等

幼：園長 年長担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 保育記録 支援計画等 情報交換に必要なもの

予定時間 前半 4 5 分 後半 1 5 分

活動	対応	活動の詳細
1. 情報交換会 (〇時～〇時) 司会：教頭 ・開会 (5 分) ・趣旨説明 (5 分) ・会の進め方説明 (5 分) ・情報交換、引継 ぎ (60 分)	校長 教頭 教頭 各職員	「就学前の幼児の様子、支援、援助についての情報交換や引き継ぎ等をし、幼児が円滑に小学校生活を始められるようにしたい。」 「会の前半では、合同で幼での全体的な様子や支援、援助の情報交換や引き継ぎを行い、後半では施設ごとに個の様子、配慮が必要な幼児に関することの情報交換を行いたい。」 情報交換会の視点・内容 例 前半 複数施設合同 ・全体的な幼での様子、援助の仕方についての引き継ぎ ・小学校での指導、支援の仕方の情報交換 ・校内施設見学 後半 個別の施設ごと ・幼児の様子に関すること ・配慮が必要な幼児について、これまでの支援の方法について (特別支援 個別に配慮が必要な幼児について 食物等アレルギー対応) ・配慮が必要な幼児の学校での受け入れ体制

前半：複数施設合同 45 分

〈全体的な幼での様子や援助についての引き継ぎ〉



進学してくる幼児の全体的な様子を教えてください。

〇〇園のこの年齢の幼児は全体的に……な様子です。集団としては……の援助をするようにしてきました。
……の経験をたくさんできるように……してきました。



〈小学校での指導や支援の仕方についての引き継ぎ〉



幼では……が苦手な子には……するように支援しているのですが、小学校ではどのように指導をするのですか？

……が苦手な子には小学校では……のような指導をしています。
就学後に戸惑わないように、幼での援助の仕方も参考にしますね。

就学後に戸惑わないように、幼でも就学までの期間に小学校の指導も参考にした保育をしていきたいと思います。



〈幼での教育体制について〉



幼では、問題が起きた時、職員間はもちろんですが、保護者にもすぐに連絡を取り……するようにしていますが、小学校ではどのように対応するのですか？

小学校では問題が起きた時……する体制を整えています。保護者の方はもちろんですが、地域の方とも話し合う体制も整えています。



〈校内の施設や児童の様子の見学〉



小学校では児童はどのような環境で生活や授業を行っているのですか？

このあと校内を自由に見学できるようにしたいと思います。後半の個別の施設ごとの情報交換会の待ち時間に児童の様子や環境についてご覧ください。



見学の視点 例

- ・ 1 年生教室 (机や椅子、個人の持ち物の始末の仕方 等)
- ・ 児童玄関 (靴箱 傘立て 等)
- ・ 体育館
- ・ 給食の様子 (配膳 食事の仕方 等)
- ・ 特別支援学級
- ・ 手洗い場
- ・ 校庭
- ・ 休み時間の様子 等
- ・ トイレ (個室 等)

後半：個別の施設ごと 各施設 15 分

〈個の幼児に関すること〉



小学校教員

進学してくる幼児の個の様子を教えてください。

・・・さんは・・・が得意で・・・でした。〇〇が苦手だったので・・・の援助をして自分の力で出来るように見守ってきました。
〇〇さんは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・でした。



保育者



・・・さんは・・・なのですね。学校でも・・・の支援を心がけて関わっていきたいと思います。

〈配慮が必要な幼児に関すること〉



就学に際して、特別な配慮や支援が必要と思われる幼児の様子について教えてください。

・・・・さんについては・・・・での困り感が強いので、・・・・の支援をしているところです。
小学校生活でも・・・・については困ることが予想されますので・・・・を配慮したり、支援をしたりすることが必要と考えます。



小学校では幼と違い・・・の支援ができない場合があります。そのような時、困ってしまう幼児はいますか？

・・・の支援があるので落ち着いて生活を送っている幼児もいます。
4月からは環境が変わり不安感をもつことも考えられます。ですから、・・・の支援についてはぜひとも行っていただきたいです。



支援の仕方では困ることがありましたら、4月以降でも幼に問い合わせください。

〈保護者との連携に関すること〉



〇〇さんは、新しい環境や見通しがつかないことに不安を感じます。保護者に園での活動に付き添ってもらったり、保育中の援助をしてもらったりして、安心して生活を送ることができました。学校でもこのような保護者との連携は可能ですか？



4月のはじめは、学校に不安を感じる児童については、保護者と一緒に登校したり、教室に入り授業の様子を見てもらったりしています。お忙しい保護者については、連絡を密にとりながら児童が安心して生活できるよう取り組んでいます。

幼小親睦会 【手続き】

1. 活動 幼小親睦会の連絡
2. 時期 年間の活動計画で予定されていない場合、実施の1か月前までに連絡する。
年間の活動計画で予定されている場合、実施の2週間前までに連絡する。
3. ねらい 幼小親睦会のための調整をする。(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 年長担任から1年担任へ電話連絡

活動	対応	活動の詳細
1. 職員親睦会の連絡	年長担任	年長担任から1年担任へ電話連絡 「幼小職員の親睦会を行いたい。」
・ 日時、場所等調整	年長担任	「[計画通り〇月〇日、□時～□時、場所は・・・で行いたい。／日時は〇月〇日～〇日の間で、□時～□時の間、場所は・・・で行いたいが都合を伺いたい。]」
・ 親睦会の趣旨、内容等説明	年長担任	「幼小の円滑な連携接続のために、幼職員と低学年から高学年までの小学校職員が知り合う機会をもちたい。」 親睦会 視点 ・ 連携にかかわる職員の親睦をより深める。 ・ 連携に直接かかわらない職員も含めて幼小職員同士が知り合う。
・ 持ち物確認	年長担任	「小学校では、食材の準備をお願いしたい。」 「食材の必要な量については参加者が確定した後に相談したい。(実施日1週間前までに)」 「幼では、製作のための材料や道具等を準備する。」
・ 参加者の確認	年長担任	「小学校で参加できる方をとりまとめ、教えていただきたい。」 「参加人数は実施日の1週間前までに教えていただきたい。」 参加者について 幼小の相互理解のためになるべく多くの職員の参加が望ましい。 小学校：日ごろ関わりが少ない、中・高学年の担任・級外等も含む。 幼：日ごろ関わりが少ない、未満児担当・年少・年中担任等含む。

幼小親睦会 【活動】

- | | |
|-----------|---|
| 1. 活動 | 幼小職員親睦会 流しそうめん |
| 2. 時期 | 8月〇日 9時～12時 |
| 3. 場所 | 幼稚園庭 |
| 4. ねらい | 幼小の円滑な連携接続のために、職員の親睦を深める。
(連携接続に関わりが少ない職員も含めた職員交流) |
| 5. 対応する職員 | 年長担任 1年担任 |
| 6. 参加者 | 小学校：1年担任 幼小連携接続担当 校長 教頭 各学年担任 養護教諭 等
幼：年長担任 幼小連携接続担当 園長 主任主幹 各担任担当 等 |
| 7. 持ち物 | 小学校：そうめん等の食材（いろいろな食材を流すと面白い）
幼：流しそうめんの桶の材料 道具 |

懇親会時間 3時間

活動	対応	活動の詳細
1. 親睦会 (9時～12時) ・開会	年長担任	
・趣旨等説明	年長担任	「幼小の円滑な連携接続のために、連携接続に関わりが少ない職員も含めて職員が知り合い、親睦を深められる機会としたい。」 親睦会 視点 ・連携に関わる職員の親睦をより深める。 ・連携に直接関わらない職員も含めて幼小職員同士が知り合う。
・流しそうめん 例：ペットボトル 流しそうめん		流しそうめん樋製作の材料・道具 2ℓ ペットボトル(15～20 本) ガムテープ ビニールテープ カッターナイフ ハサミ 樋を置く台 水を流すホース（新品） 製作手順 1. ペットボトルを縦半分に切り分ける。 2. 切り口でけがをしないようにビニールテープで保護をする。 3. 切り分けたペットボトルを流しそうめんができる長さにガムテープやビニールテープでつなげる。 4. 水がうまく流れるように高さや樋の調整をする。

・ペットボトルの 樋を製作する	各職員	幼小職員が協力して樋の製作をする。
・そうめん等の準備をする	各職員	樋の製作の様子に合わせてそうめん等の準備を進める。
・流しそうめんを楽しむ	各職員	
・親睦会の感想を 伝え合う	各職員	年長担任が司会をして感想を伝え合う場や雰囲気をつくる。
・閉会	1年担任	

小学校教員向けアンケート【手続き】【活動】

1. 活動 小学校教員向けアンケートの配布
2. 時期 4月下旬
3. ねらい 小学校教員を対象にしたアンケートにより、就学後の児童の実態や指導の様子について把握し、幼での今後の保育の改善につなげる。
事前に小学校での課題等を把握し、参観・情報交換会の時間の短縮につなげる。
4. 連絡の取り方 園長から校長へ説明、配布

活動	対応	活動の詳細
・アンケート実施 連絡・協力依頼	園長	園長から校長に小学校教員向けアンケートの実施を知らせる。 「小学校教員向けアンケートを実施したいため、ご協力を頂きたい。」
・趣旨等説明	園長	「アンケートを通して〔小学校教員から見た、就学後の児童の様子を把握／就学後の指導の様子や困り感を把握〕等をしたいと考えている。 アンケート結果については〔次回の情報交換会／小学校へ直接説明に伺う〕等で提供させていただく。また、アンケートの結果をもとに〔幼での今後の保育に生かす／接続期のカリキュラムの改善につなげる〕等のことを行っていくことを考えている。」
アンケート実施の趣旨 例 ・就学後の児童の実態や指導の様子、教員や児童の困り感を把握する。 ・教員や児童の困り感等に対して、幼での援助をもとに助言等を行う。 ・就学後の児童の様子から、幼児期における接続期カリキュラムの見直しを行う。		
・回収方法説明	園長	「記入いただいたアンケートの回収については〔〇月〇日に幼職員が取りに伺います／〇月〇日までに幼まで送付頂きたい〕。」
就学に向けたアンケート 内容 例 ・就学後の児童の様子から、幼での経験が生かされていると感じるもの ・就学後、幼での経験を生かして指導していること ・就学後の児童の様子で、小学校教員が指導に困ること ・就学後、児童が学校生活で困っていること ・就学後の児童の様子を見て、幼のうちに経験しておくとういこと 等		

小学校教員向け アンケート （例）

記入者（ ）

1. 就学後の児童の様子から、幼での経験が生かされていると感じるものはありますか。

--

2. 就学後、幼での経験を生かして指導していることはありますか。

- 学習面で生かしていること

--

- 生活面で生かしていること

--

3. 就学後の児童の様子で、指導に困ることはありますか。

--

4. 就学後の児童の様子から、児童が学校生活に困っていることはありますか。

--

5. 就学後の児童の様子を見て、幼のうちに経験しておくとういと思うことはありますか。

--

6. 全体の様子で気になることや、個別に気になる様子の子について知りたいことはありますか。

--

7. その他、就学後の児童の姿で気になることや、幼への質問等がありますか。

--

保育者向けアンケート【手続き】【活動】

1. 活動 保育者向けアンケートの配布
2. 時期 2月下旬
3. ねらい 保育者を対象としたアンケートにより、就学へ向けた幼職員の思いや考え、具体的な保育内容について把握する。
4. 連絡の取り方 校長から園長へ説明、配布

活動	対応	活動の詳細
・アンケート実施の連絡・協力依頼	校長	校長から園長にアンケートの実施を知らせる。 「保育者の皆さんに、教職員アンケート（幼）を実施したいため、ご協力を頂きたい。」
・アンケートの趣旨等説明	校長	「アンケートを通して、就学に向けて〔保育の中で心がけていることの把握／具体的な取り組み例の把握／保育で不安なことの把握／幼児の様子で気になることの把握／小学校教員への質問の把握〕等をしていと考えている。アンケート結果については〔次回の情報交換会／園へ直接説明に伺う〕等を利用して提供させていただく。また、結果をもとに〔小学校での今後の指導に生かす／接続期のカリキュラムの改善につなげる〕等のことを行っていくことを考えている。」
アンケート実施の趣旨 例 （幼保小の職員の円滑な接続に向けて） ・就学に向けた、幼での教育・保育の取り組み内容を把握する。 ・就学に向けた、保育者の思いや考えを把握する。 ・アンケート結果から、小学校での今後の指導の在り方や接続期カリキュラムの改善につなげる。		
・回収方法説明		「記入いただいたアンケートの回収については〔〇月〇日に小学校職員が取りに伺いたい／〇月〇日までに小学校まで送付頂きたい〕。」
就学に向けたアンケート 内容 例 ・就学へ向けて、保育の中で心がけていること ・就学へ向けて、具体的に取り組んでいること（保育内容 環境構成 援助の仕方） ・就学へ向けて、保育で不安なこと ・就学へ向けて、幼児の様子で気になること ・就学へ向けての、小学校教員への質問等		

保育者向け アンケート （例）

記入者（ ）

1. 就学に向けて、保育の中で心がけていることはありますか。

--

2. 就学に向けて、具体的に取り組んでいることを教えてください。

- 保育の内容について

--

- 環境の構成について

--

- 保育者の援助について

--

3. 就学に向けての保育で不安なことはありますか。

--

4. 就学に向けて、幼児の様子で気になることはありますか。

--

5. 就学に向けて、小学校教員に質問等がありますか。

--

6. 年長全体の様子や個別の幼児の様子で気になっていることはありますか。

--

7. その他、就学に向けて気になることはありますか。

--

交流内容検討合同会議（初回） 【手続き】

1. 活動 初回 交流内容検討合同会議の開催連絡
2. 時期 4 月
3. ねらい 交流活動の内容等についての検討会議開催の調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 1 年担任から年長担任へ電話連絡

活動	対応	活動の詳細
1. 交流内容検討合同会議の案内	1 年担任	1 年担任から年長担任へ電話連絡 「幼児児童の交流活動の内容についての検討会議を開催したい。」
・ 検討内容説明	1 年担任	「初回の検討会では 1 年間の交流活動を円滑に進めるために〔交流活動のねらい／年間計画／第 1 回交流活動の内容〕等 について検討したい。」
検討会の内容 ・ 幼児児童の交流活動のねらい ・ 交流年間計画 ・ 第 1 回交流活動の内容・ねらい ・ 今後の検討会の開催方法 等		
・ 参加者確認	1 年担任	「参加者は、年長担任、交流活動に関わる職員をお願いしたい。」 小学校参加者 1 年担任 養護教諭 幼小連携接続担当 等 幼参加者 年長担任 幼小連携接続担当 等
・ 日程調整	1 年担任	「〔参加可能な日時はあるか。／○日～○日、□時～□時の中で参加可能な日時はあるか。〕」
日時について ・ 年間の活動計画を検討したいので、なるべく早い時期に開催することが望ましい。 ・ 第 1 回交流活動の予定日を考慮して、初回の検討会の日時を調整する。 ・ 日時調整の際は、候補日に幅をもたせ、交流活動に関わる職員の参加が確実に出来るようにする。 ・ 開催する時間についても短い時間で効果的な会となるよう配慮する。		
・ 持ち物の確認	1 年担任	「年間計画等を検討したいので〔年間指導計画／年間行事予定〕等 計画を立てるために必要なものを持参いただきたい。」
持ち物 年間指導計画（単元計画） 年間行事予定 交流活動の計画を立てるために必要な資料		

交流内容検討合同会議（初回） 【活動】

1. 活動 交流内容検討合同会議（初回）
2. 時期 4 月
3. 場所 幼 遊戯室
4. ねらい 幼児児童の交流活動を円滑に進めるために、交流活動のねらいや年間計画等を立てる。
第 1 回の幼児児童の交流活動について検討をする。
5. 対応する職員 1 年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：1 年担任 養護教諭 幼小連携接続担当 等
幼 ：年長担任 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 年間指導計画(単元計画) 年間行事予定 等 交流計画を立てるために必要な資料

検討会議時間 60 分

活動	対応	活動の詳細
1. 交流内容検討合同会議 (〇時～〇時) ・開会 司会：1 年担任 記録：年長担任 ・検討会の内容等 説明	1 年担任 1 年担任	「1 年間の交流活動を円滑に進めるために〔交流活動のねらい／交流年間計画／第 1 回交流活動の内容〕等 について検討したい。」
検討会の内容 ・幼児児童の交流活動のねらいについて ・第 1 回交流活動の内容について ・交流活動年間計画について ・今後の検討会の開催方法について 検討会の視点 ・交流活動年間計画について 教育課程、指導計画、行事予定等から、年間の活動月、回数、対応する教科や簡単な活動内容を立てられるとよい。また、どの活動をどちらの施設が計画立案するかを決めておくとい。 ・第 1 回交流活動内容の検討（小学校提案の活動計画） 幼児と児童が交流する第 1 回目の交流活動について検討する。検討時間の短縮・効率化のため、あらかじめ活動案を交流先へ送付しておくとい。 ・第 2 回以降の交流内容検討合同会議の持ち方について 交流活動年間計画に基づいて、活動予定日の 2 週間前までに活動案を立案する側の施設職員から日程調整の連絡をとる等、決めておくとい。		

〈交流活動年間計画について〉



小学校教員

小学校では生活科で5月に〇〇、7月に〇〇、・・・・・・3月に〇〇と交流を行いたいと考えています。都合はいかがですか？

行事等の予定では、5月に〇〇、7月に〇〇・・・・・・3月に〇〇を予定しています。3月は行事が立て込むので活動は難しいかもしれません。



保育者

幼では7月に〇〇・・・・・・2月に〇〇を行いたいと考えています。小学校の都合はいかがですか？



特に問題はありません。時間等はその都度相談しましょう。活動案については、各々が予定するものについては、リードして立案しましょう。

〈第1回交流活動の検討について〉



第1回活動計画について、5月〇日、2時間目に予定しています。ねらいは・・・で・・・の活動を幼児と一緒にやりたいと考えています。

初めての活動として、幼児も楽しめそうです。幼児は〇〇というねらいをもって参加しようと思います。活動内容については、幼児の5月の時期の育ちでは・・・は難しいかもしれません。□□□してはどうでしょうか？



園のねらいは〇〇ですね。活動内容についてはもう少し□□□した方がよいですね。幼児の育ちも考えて活動を・・・にしたいと思います。

初回ですので、幼児が安心して活動できるように、幼稚園舎で活動することは可能でしょうか？遊戯室がちょうどよいスペースだと思います。



もちろんです。それでは遊戯室で活動しましょう。大勢で行きますが、よろしくお願いします。

〈今後の検討会のもち方について〉



各施設で計画する活動の案は、活動予定日の〇週前までに送付するようにしましょう。検討会は活動の□週前に実施できるように、活動案を立てた側から日程調整等の連絡をするようにしませんか？

分かりました。保育時間が長いので電話でのやり取りが難しいこともありますので、メールやF a x 等も利用して日程調整をしていきましょう。



・ 閉会

1 年担任

「今日はありがとうございました。」

「次回の交流活動ではよろしくお願いします。」

交流内容検討合同会議（２回目以降の活動例） 【手続き】

1. 活動 交流内容検討合同会議の開催連絡
2. 時期 幼児児童の交流活動実施予定日の２週間前までに連絡を取る。
3. ねらい 幼児児童の交流活動のための合同会議(打ち合わせ会)の調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 年長担任から１年担任へ電話連絡（活動案を立案した施設側から連絡を取る。）
5. 配慮点 会議の時間の短縮・効率化のため、合同会議の１週間前までには、当日の資料を交流対象施設に送付しておくとい。

活動	対応	活動の詳細
1. 交流内容検討合同会議実施の連絡	年長担任	年長担任から１年担任へ電話連絡 「幼児児童の交流活動内容について検討会議を開催したい。」
・検討内容等説明	年長担任	「第２回の幼児児童交流活動を実施するために〔日程調整／活動案検討等〕を行いたい。」 検討会の内容 例 ・ 交流日時の調整 ・ 交流活動案の検討 ・ 環境、場の設定 ・ 職員の役割分担 等
・参加者確認	年長担任	「参加者は、１年担任、幼小連携接続担当等、当日の活動に関わる職員をお願いしたい。」 小学校参加者 例 １年担任 養護教諭 幼小連携接続担当 等 交流活動に関わる職員 幼参加者 例 年長担任 幼小連携接続担当 等 交流活動に関わる職員
・日程調整	年長担任	「〔開催可能な日時はあるか。／○日～○日、○時～○時の中で、開催可能な日時はあるか。〕」
日時について ・ 前回の検討会議の際に、次回以降の開催日時の目途を立てておけると、スムーズに調整ができる。 ・ 日時の候補日には幅をもたせ、交流活動に関わる職員の参加が確実に出来るようにする。また、開催する時間についても、短時間で効率的に活用できるよう配慮する。		
・持ち物確認	年長担任	「活動案を中心に検討したいので、〔先日送付した活動案／指導計画／行事予定 等〕を持参いただきたい。」 持ち物 ・ 活動案 ・ 年間指導計画 ・ 年間行事予定 等 活動案の検討に必要な資料

交流内容検討合同会議 （2回目以降の活動例） 【活動】

1. 活動 交流内容検討合同会議
2. 時期 幼児児童の交流活動実施の2週間前までに開催
3. 場所 幼 会議室
4. ねらい 幼児児童の交流活動を実施するための、活動案検討等を行う。
5. 対応する職員 年長担任 1年担任
6. 参加者 小学校：1年担任 養護教諭 幼小連携継続担当 等
幼：年長担任 幼小連携継続担当 等
7. 持ち物 年間指導計画 年間行事予定 等（年間活動計画を確認・調整するためのもの）

検討会議時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 交流内容検討 合同会議 (○時～○時) ・開会 ・会の内容等説明	 年長担任 年長担任	 「幼児児童の交流活動を実施するための日程調整や活動内容の検討等を行いたい。」 検討会議の内容 例 ・ 交流日時の調整 ・ 交流活動案の検討 ・ 環境、場の設定 ・ 職員の役割分担 等 検討会をスムーズに進めるために ・ 検討時間を短縮し効率的に会を進めるため、事前に活動案を幼と小学校で共有し確認しておくとい。 (1週間前までには交流対象施設に送付) ・ 活動案については事前に目を通しておき、質問事項等をまとめておくとい。

〈交流日時調整〉

この時期の身近な自然を利用して・・・する活動をしたいと考えています。身近な自然を十分に感じることができる〇月〇日頃に行いたいのですが。



保育者



小学校教員

その時期ならば、ちょうど生活科でも同じような活動をしています。〇日で大丈夫です。時間は〇時～〇時はどうでしょうか？

〈活動のねらい・内容〉

活動案のように、・・・を使って1年生と一緒に遊びたいと考えています。幼児の〇〇〇な姿を願い、ねらいを・・・と設定しました。1年生の場合は、どのようなねらいになりますか？



生活科でも自然物を使って学習しています。楽しんで活動できそうです。1年生のねらいは生活科との内容も絡めて・・・としたいと思います。

1年生のねらいに合わせて、活動内容の〇〇〇する部分を・・・にすることは可能ですか？

生活科とのつながりもあり、楽しめそうですね。

1年生のねらいにも合わせて、活動を・・・に調整しましょう。



〈環境・場の設定等〉



活動内容を考えると、広い場所が必要そうです。それに、ハサミや糊以外にもたくさんの道具が必要ですね。

小学校のランチルームが広くて活動しやすそうです。道具も図工室にはたくさんあります。小学校で活動してはどうでしょうか？

ありがとうございます。園ではスペースや道具が十分でないので困っていたところでした。利用させてください。



〈教師の役割分担〉

当日は園職員が中心となって活動を進めていきたいと思っています。必要に応じて、T2として出てきてください。ただ、活動案の・・・の部分については、小学校の先生に中心となっていただいて・・・できたらと考えています。



分かりました。子どもたちの様子を見ながら適宜、前に出たり支援に入ったりしたいと思います。・・・の部分については、小学校教員が中心となって進めていきますね。

絵本の読み聞かせ会（５．６年 特別活動） 【手続き】

1. 活動 小学生による絵本の読み聞かせ会実施のための事前連絡
2. 時期 年間活動計画で予定されている場合は、実施の１か月前までに連絡
年間活動計画で予定されていない場合は、参観実施の２か月前までには連絡
3. ねらい 小学生による読み聞かせの会実施の連絡をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 校長から園長へ電話連絡
5. 配慮点 保育者は保育室等から離れることが難しいため、午睡の時間に合わせて連絡をとったり、担任以外（管理職）での対応をしたりする。

活動	対応	活動の詳細
・ 読み聞かせ会 実施の案内	校長	校長から園長へ電話連絡
・ 日程・趣旨説明	校長	「７月〇日、〇時～〇時に、年長児を対象とした絵本の読み聞かせを実施したい。」 「今回の活動では、幼児児童が絵本を通じて、互いに親しみの気持ちをもってもらいたいと考えている。」 絵本の読み聞かせ会趣旨 例 ・ 幼児が児童と一緒に絵本を楽しむ。 ・ 幼児がいろいろな学年の児童との関わりを楽しむ。 ・ 幼児が小学校施設を利用することで、校舎に慣れ親しむ。 ・ 児童が幼児に合わせた接し方を考え、関わろうとする。
・ 活動内容につ いての確認	校長	「今回の読み聞かせは、図書委員会等の５，６年生の児童が行う。」 「児童による読み聞かせでは、児童一人につき幼児１～２名で読み聞かせを行う。読み聞かせが終わった幼児は、別の児童のところに行き、読み聞かせを再度聞くという形をとる。」 「保育者の先生には、読み聞かせが終わった幼児への、次の児童のもとへ移動する補助をお願いしたい。」
・ その他	校長	「当日は、図書室まで直接幼児を連れて来て頂きたい。」 「図書室に入り次第、小学校教員、児童が中心となって会を進めていく予定。」 「保育者の先生方は、活動に不安を感じる子等がいる場合に、援助をお願いしたい。」

絵本の読み聞かせ会（５．６年 特別活動） 【活動】

1. 活動 小学生による絵本の読み聞かせ会
2. 時期 7月
3. 場所 小学校図書室
4. ねらい 幼児：児童に絵本を読んでもらうことを通して、小学生に親しみの気持ちをもつ。
児童：年長児と一緒に活動することを通して、幼児に親しみの気持ちをもつ。
5. 対応する職員 1年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：図書委員会児童 児童会運営委員会児童 図書委員会担当教諭
学校司書 幼小連携接続担当 等
幼：年長幼児 年長担任 等
7. その他 参加児童は、図書委員会、児童会運営委員会の児童（５、６年生児童）
活動は児童の昼休み時間（13：00～13：30）を利用して実施

活動時間 30分

活動	時間	活動の詳細
・ 事前準備		・ 幼児、児童それぞれが、落ち着いて読み聞かせをしたり、聞いたりできるよう、ペアで寄り添いやすいようなテーブルや椅子、ソファなどを用意しておく。また、幼児が日ごろ馴れ親しんでいるカーペット等直接床に座ることができる環境を用意することも考えられる。 ・ あらかじめ、ペア等を決めておきスムーズに活動に入れるようにする。
・ 読み聞かせ会 開会	5分	・ 児童、幼児が互いに挨拶をし、児童が幼児を連れ各々読み聞かせをする場所につく。 ・ あまり堅苦しい雰囲気にならないように配慮し、幼児が緊張感や不安感をもたないように、楽しい雰囲気で始められるようにする。
・ 読み聞かせ	20分	各々読み聞かせを始める。 （必要に応じて、手遊び等をして幼児の緊張感をほぐす等の工夫をする）
読み聞かせ会の流れ 例 ・ 児童、幼児が1対1のペアとなり、読み聞かせを行う。（場合によっては1対2 等） ・ ペアでの読み聞かせが終わり次第、幼児が別の児童の所へ移動し、再度読み聞かせを行う。 ・ 時間内に何度も移動をして、たくさんの児童に絵本を読んでもらう。		
読み聞かせ会 小学校事前準備 例 ・ 児童は事前に2冊程度、絵本を用意しておく。絵本選びは当日までに行っておく。 ・ 児童の発達に合わせた絵本選びについては、学校司書や司書教諭と相談しながら決めることも考える。 ・ 保育者に事前にインタビューをする等、幼児の興味関心や発達等に合わせた絵本を選ぶことができるよう工夫する。		

・ 閉会	5 分	・ 小学校教員は、読み聞かせの様子を見ながら、読み聞かせの終わったペアに声をかけ、他の読み聞かせが終わった児童のもとへ幼児が移動できるよう促す。 ・ 移動することに不安を感じる幼児には、保育者が関わりながら安心して別の児童のもとへ移動できるようにする。 ・ 児童には、読み終わり次第、幼児を他の読み終わった児童のもとへ案内するようあらかじめ声をかけておき、主体的に動き出せるようにしておく。 ・ 終了の時間を告げておき、読み聞かせが終わったペアから、手遊びや会話をしながら待つようにする。 (時間になっても読み聞かせが終わらないペアがあっても、読み終わるまでゆっくりと待てるよう時間の配分を工夫しておく) ・ 幼児、児童が互いに挨拶をして、読み聞かせの会の終了。
-------------	------------	---

夏休み交流会 【手続き】【活動】

1. 活動 1年生（卒園児）との交流会
2. 時期 8月
3. 場所 幼稚園内
4. ねらい 1年生と触れ合い、一緒に活動することを通して、1年生に対して親しみの気持ちやあこがれの気持ちを持ち、就学への期待感をもてるようにする。
5. 対応する職員 園長
6. 参加者 園長 年長担任 旧年長担任 年長児 1年児童
7. その他 **【手続き】**として、

- ・1年児童の参加申し込み書については、事前に小学校で配布してもらう。
- ・1年児童の申し込みについては、保護者が直接幼まで行うようにする。
(小学校へは参加申し込みを行わない)
- ・当日は、安全に配慮し、保護者が送迎するようにする。
- ・卒園児以外の参加については必要に応じて認めるようにする。

活動時間 午前中

活動	対応	活動の詳細
1. 受付	旧年長担任	1年生受付 案内 1年生に名札の取り付け
2. 開会	園長	はじめの挨拶 自己紹介 1年生：名前+学校で楽しいことや頑張っていること 年 長：名前+好きな遊び
3. 活動 クッキング 体を動かす遊び	年長担任 旧年長担任	幼児、児童を2チームに分けて活動をする。 (時間を区切り調理と体を動かす遊びの入れ替えをする)
クッキングの内容 (例) (カレーライスの下ごしらえ) ・エプロン、三角巾を付け、手を洗う ・ピーマン、ナスを切る ・ニンジン、タマネギの皮をむく (ニンジン、タマネギは保育者が切る) ・切り終わったら厨房へ持って行く (カレーライスの調理は調理員が行う)		体を動かす遊び (例) ・段ボール運び (様々な大きさの箱を運びながら移動し、積み上げる) ・キャタピラレース (キャタピラ型に加工した段ボールを使ってレースをする) ・玉入れ (2チームに分かれて玉入れ対決をする) 等
4. プール遊び	年長担任 旧年長担任	1年生の泳ぎ披露や水鉄砲等の遊具で遊ぶ ※雨天案 (幼児の鼓隊披露 遊戯室で遊ぶ 等)
5. 食事をする	年長担任 旧年長担任	幼児と1年生がグループになり食事をとる。
6. 開会	園長	お別れの挨拶 年長児は午睡等、通常の保育 1年生は、別室で保護者の迎えを待つ

生活科での交流「秋のお店屋さん」 【手続き】

1. 活動 生活科での交流活動のための事前連絡
2. 時期 年間活動計画で予定されている場合は、実施の1か月前までに連絡
年間活動計画で予定されていない場合は、実施の2か月前までには連絡
3. ねらい 生活科での交流活動実施の連絡をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 1年担任から年長担任へ電話連絡

活動	対応	活動の詳細
・生活科での交流実施の案内 ・日程・趣旨説明	1年担任	1年担任から年長担任へ電話連絡 「11月〇日、〇時～〇時に、生活科で「秋のお店屋さん」をするので、年長児にお客さんとして来て頂きたい。」 「交流活動を通して、年長児には〔4月から入学する小学校を知ってもらいたい／1年生とのかかわりを楽しんでもらいたい／小学校に対する楽しいイメージをもってほしい 等〕。1年生は年長児と関わることで〔年上児としての自覚をもつ／4月からの新入学児との関係をつくる 等〕をねらいとしている。」 生活科での交流 趣旨 例 ・自分が入学する小学校を知る。 ・幼児が小学校施設を利用することで、校舎に慣れ親しむ。 ・幼児が1年生との関わりを楽しむ。 ・幼児児童が4月から円滑に関われるように関係づくりをする。 ・児童が幼児に合わせた接し方を考え、関わろうとする。 ・児童が幼児の楽しむ様子を見て、自身の成長を感じる。 等
・活動内容についての確認	校長	「秋のお店を始める前に、幼児の緊張をほぐすために〔簡単なゲームをしたい／1年児童の簡単な発表をお見せしたい〕。」 「秋のお店は8か所用意している。当日は、幼児には自由にお店をまわれるようにする。」 「司会進行は、1年児童、1年担任が行う。」 「保育者の先生には、幼児が困っていたり、お店にいけないようなことがあったりした場合に援助をお願いしたい。」
・その他	校長	「当日は、ランチルームまで直接幼児を連れて来て頂きたい。」 「防寒着等の荷物はランチルームにおいておけるようにする。1年生の係がランチルームまで迎えに行くようにする。」 「お店でもらったものを持ち帰ることができるよう、絵本バッグ等を持参頂きたい。」 等

生活科での交流「秋のお店屋さん」【活動】

1. 活動 生活科「秋のお店屋さん」での交流
2. 時期 1 1 月
3. 場所 1 年生教室
4. ねらい 幼児
- ・ 4 月から入学する学校を知り、交流活動を楽しむ中で、1 年生に親しみの気持ちをもとうとする。
 - ・ 1 年生や友達に思いを伝えながら遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 一人一人が活動を楽しみ、経験したことを今後の園での遊びや生活に生かそうとする。
- 児童
- ・ 年長児と一緒に活動することを通して、年上児としての自覚をもつ。
 - ・ 幼児と一緒に活動する中で、自分の思いを分かりやすく伝えようとしていたり、幼児のしたいことや思いを汲んで関わったりすることなど、相手意識をもって活動することができる。
 - ・ 幼児が楽しく遊ぶことができるように遊び方を考えたり、一緒に遊んだりする中で、遊び方やルール等を分かりやすく説明することができる。また、幼児の言葉や表情、遊びを楽しむ姿から、自己の成長に気付くことができる。
- ※交流活動のねらいのみ記載。生活科としてのねらいは別途立てる。
5. 対応する職員 1 年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：1 年児童 1 年担任 校長 等
- 幼 ：年長幼児 年長担任 主任主幹 等

活動時間 60 分

活動	時間	活動の詳細
・ 交流会開会 ・ 初めの挨拶 ・ アイスブレイク	5 分 10 分	・ 司会進行は 1 年児童が行う。 ・ 簡単なゲームや学習成果（歌や音読）の発表等でアイスブレイクをする。
ポイント ・ 生活科での活動を中心にすることはもちろんだが、はじめて小学校内へ入る幼児もいることから、幼児の緊張感をほぐす活動（アイスブレイク等）を取り入れることも考える。		
・ 秋のお店屋さん	40 分	遊び方を幼児に説明する。 幼児が用意された店を自由に回る。
「秋のお店」活動 例 ・ まつぼっくり玉入れ ・ おもちゃ釣り ・ はっぱのかるた ・ 秋の実けん玉 ・ まとあて ・ 秋の実のおかし屋さん		
		・ オナモミダーツ ・ クイズ ・ どんぐりコマ屋さん ・ おちばのおふろやさん ・ 秋の実くじびき 等
ポイント ・ 小学校教員、保育者は、幼児の様子を見ながらいろいろなお店に行けるよう促したり、一緒に楽しんだりする。 ・ お店の工夫されているところ等について幼児に広め、いろいろなお店に興味を持ち、楽しめるようにする。 ・ 不安を感じる幼児には、保育者と一緒にお店を回るなど安心して活動できるようにする。		

・ 振り返り	5 分	終了後集まり、幼児、1 年生がそれぞれの感想を言う。 (幼児には楽しかったこと、嬉しかったこと等、幼児の思いを受け止めながら、その理由も尋ねるようにする。)
ポイント ・ 全体での振り返りを行う場合は、短い時間で幼児の感想や思いを聞くようにする。 (幼児の感想等は、児童が振り返りをする際に活用できるようにする) ・ 幼児が振り返りを行う場合は、園に戻り感想等を幼児同士が伝え合う場を設ける。幼児が小学生にお礼等の感謝の気持ちを伝えたいという雰囲気になった場合には、お手紙やビデオレター等を利用して、気持ちを伝えられるようにする。 ・ 児童が振り返りを行う場合には、幼児が帰った後に振り返りの時間を設ける。幼児の様子や感想をもとに、気付いたこと等をまとめる。 ・ 幼小職員も事後に幼児児童の様子について気付いたことや、幼児児童の感想等を互いに伝え合う等、情報の交換や活動の振り返り等をする。		
・ 終わりの挨拶	5 分	・ 幼児、児童が互いに挨拶をして、読み聞かせの会の終了。

ポイント ～当日の活動に向けて～ 生活科での活動一度きりの交流ではなく、継続した取り組みの中（事前、事後の職員間のやりとり、事前、事後の幼児児童の交流 等）での活動となるようにするとよい。イベント的な位置づけにならないよう、保育や授業等に位置付けられるようにする。 ○継続した取り組み例 ・ 手紙での交流（活動の招待状やお礼の手紙のやりとり等） ・ 写真での交流（交流する幼児児童が互いの顔や名前や呼び方等を知る） ・ 昼食での交流 ・ 一緒に遊ぶ（生活科等の教科や休み時間等を利用して、一緒に遊ぶことや園に招待して、一緒に活動すること等） ・ 行事での交流（運動会や発表会等に参加したり見学したりする） 等 ※幼では、これらの経験してきたことを、遊びや生活に生かし、発展させていけるようにする。		
---	--	--

就学時健康診断での交流（5年 特別活動）【活動】

- ※就学時健康診断の事例では【手続き】を省略しています
1. 活動 就学時健康診断での年長児の案内
 2. 時期 10月
 3. 場所 小学校
 4. ねらい

幼児：5年生と一緒に行動することを通して、小学生への親しみの気持ちをもつ。
5年生と一緒に行動することで、安心して健診を受ける。

児童：年長児と一緒に活動することを通して、幼児に親しみの気持ちをもつ。
年長児が安心して健診を受けられるよう考えて行動する。
 5. 対応する職員 校長 1年担任
 6. 参加者 小学校：全職員 5年生児童
 7. その他
 - ・5年児童が幼児の世話や案内等を行う。
(次年度1年生と6年生の関係をつくるため)
 - ・健診中に保護者向け入学説明会を並行して実施する。

活動時間 90分

活動	時間	活動の詳細
受付	15分	・幼児は受付終了後、保護者と別れ5名程度ずつのグループに分かれる。 ・幼児のグループができ次第、児童が1対1のペアとなり、グループに付き添うようにする。 ・特別な支援が必要な幼児や配慮が必要な幼児がいるグループには、小学校教員がグループに付き添うようにする。 ・保護者と離れることが難しい幼児には、幼児が安心することができるまで付き添うことができるようにする。
就学時健康診断	75分	グループごとに検査会場をまわる。
5年児童の行うこと（健診中） 例 ・検査会場前までへの案内 ・検査会場前での幼児への対応 (幼児が飽きてしまわないよう会話等をする。椅子に落ち着いて座り、検査を待つことができるようにする。検査会場入室の調整をする 等) ・トイレ等の案内、付き添い 等		
		健診が終わったグループごとに、体育館や別室等へ移動する。 保護者への入学説明会が終了するまで、5年児童が絵本の読み聞かせや手遊び、会話等をしながら待つようにする。 ※事前に絵本や手遊び等を用意しておく。 保護者への入学説明会が終了し次第、幼児を保護者へ引き渡す。 全幼児を引き渡し次第、就学時健診の終了

入学説明会

保護者向けの入学説明会は、就学時健康診断中に並行して行う。
 内容面については、就学時の子育て支援的内容や小学校についての説明などが考えられる。
 P109 P113 等の内容を、保護者に伝えることも考える。また、P124のような保護者の授業参画等の保護者の協力が必要な取り組みについても周知を図るよい機会でもある。

接続期カリキュラム編成の手順【小学校】

1. カリキュラム編成のための組織をつくりましょう

- ・校長がリーダーシップをとり、接続期カリキュラム編成に必要な職員で組織します。
- ・既存の組織を整備したり、新たに組織を設けたりするなどして組織の編成をします。
- ・カリキュラム編成のための組織は、学校組織全体の中に位置付けます。

カリキュラム編成のための職員（役割・分担 例）

- ・校長（カリキュラム編成基本方針 ねらい等の設定 等）
- ・教頭（幼施設 地域 保護者 等との渉外）
- ・教務主任（会議時間の調整 カリキュラム施行に伴う時間割調整 等）
- ・研究主任（学校研究との関連部分）
- ・生徒指導主事、特別活動主任（生徒指導計画 行事計画 等との関連部分）
- ・1年担任（入学時の児童の実態に関する部分）
- ・2年担任（カリキュラムの第2学年へのつながりに関する部分）
- ・生活科教科担当（生活科を中心とした合科的・関連的指導部分）
- ・養護教諭（1年生を中心とした低学年全般の実態に関する部分）
- ・特別支援教育コーディネーター（配慮が必要な児童に関する部分）

等

ポイント1

校内に新たに幼小接続カリキュラム編成の組織をつくるのが難しい場合は、既存の編成組織の中に位置付けましょう。（生活科カリキュラムや低学年カリキュラムの編成組織の中に位置付ける等）

2. 接続期カリキュラム編成の基本方針や計画を立てましょう

- ・校長がリーダーシップをとり、学校の教育目標や目的、1年生の実態、家庭や地域の実態等を十分考慮して基本方針を立てます。

カリキュラム編成の基本方針や計画を立てる際の留意点 例

- ・教育基本法、学校教育法、その他法令並びに学習指導要領の示すところに従う。
- ・幼児期までの育ちを踏まえた特色ある編成に努める。
- ・3つの資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して編成する。
- ・校長は学校全体の責任者としての指導性を発揮する。
- ・学校の教育目標を達成するための具体的な指導計画を作成し、指導の目標、内容、方法、評価の有機的な関連を図るとともに、幼児期の教育及び各教科、各学年への関連を図り、系統的・発展的な指導を推進する。
- ・幼児、児童の発達段階や特性等を十分考慮する。
- ・地域の実態を把握し、地域の教育資源、学習環境等の実態を把握して計画する。
- ・家庭や地域社会に理解を求め、協力を得たり要望に応えたりし、積極的な連携を図る。
- ・学校としての、接続期カリキュラムの意義、基本的な考え方を明確にし、カリキュラム編成に直接かかわらない職員を含めて全教職員の共通理解を図る。

3. 編成のための作業日程を決めましょう

- ・作業、分担ごとに、具体的な日程を決め、編成までの見通しを各職員がもてるようにします。

4. 編成のための事前の調査や準備をしましょう

- ・接続期のカリキュラムを編成している自治体等の先行事例の収集、把握をしておきます。
- ・新入学児がいる幼施設に、幼児期の終わりまでに幼児が経験してきたこと、保育者の援助、保育室の環境等の聞き取りや実際に保育参観等を行い現状の把握をしておきます。

5. 学校目標や学年での目標等に照らし、接続期の児童、教師、学校等の課題を明確にしましょう

- ・事前の調査結果等と学校目標等に照らし合わせ、学校目標等を達成するための接続期の課題について明確にします。
- ・接続期の課題に応じたカリキュラム編成の基本事項を設定します。
- ・教育課程についての国の基準、教育委員会の規則等を研究、調査し理解できるようにします。
- ・就学前の幼児や1年児童の発達の段階や特性等を把握します。
- ・幼児、児童が生活している地域の実態を把握します。
- ・現在実施中の1年生4月のカリキュラムについて検討評価し、児童の実態に合わせた改善点について明確にします。
- ・教育課程の改善点については、幼児、児童の発達段階、特性等や地域の実態等についても反映したものにします。

6. 学校目標等の実現、明確になった課題等の改善を目指し、指導・活動内容を選択しカリキュラム編成をしましょう

- ・学校目標や課題等の達成を図るために重点を置くべき指導・活動内容を明確にします。
- ・保護者や地域、学校、幼児、児童等の実態に応じた創意工夫を生かした指導・活動内容を展開できるようにします。
- ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導について配慮します。
- ・各教科等や活動の特質に応じて、創意工夫を生かした時数を設定します。

ポイント2

接続期カリキュラムについては、必ずしも別途作成することは求められませんが、幼児期の教育からの接続を意識して、現在のカリキュラムを加筆修正していくことが重要です。

接続期カリキュラム編成の手順【幼】

1. カリキュラム編成のための組織をつくりましょう

- ・園長がリーダーシップをとり、接続期カリキュラム編成に必要な職員で組織します。
- ・既存の組織を整備したり、新たに組織を設けたりするなどして組織の編成をします。
- ・カリキュラム編成のための組織は、幼組織全体の中に位置付けます。

カリキュラム編成のための職員（役割・分担 例）

- ・園長（カリキュラム編成基本方針 ねらい等の設定 幼施設・地域・保護者との渉外 等）
- ・主任主幹（会議時間の調整 カリキュラム施行に伴う時間割調整 園内研究との関連部分 等）
- ・年長担任（修了時までの児童の実態に関する部分 指導計画・行事計画 との関連部分 等）
- ・年中担任（年中児までの育ちや発達と接続期カリキュラムとのつながりに関する部分）

等

ポイント1

幼内に新たに幼小接続カリキュラム編成の組織をつくるのが難しい場合は、既存の編成組織や取り組みの中に位置付けましょう。（年度末のカリキュラム見直し時の中に位置付ける等）

2. 接続期カリキュラム編成の基本方針や計画を立てましょう

- ・園長がリーダーシップをとり、教育・保育目標や目的、年長児の様子、家庭や地域の実態等を十分考慮して基本方針を立てます。

カリキュラム編成の基本方針や計画を立てる際の留意点 例

- ・法令並びに新指針要領の示すところに従う。
- ・小学校へのつながりを視野に入れた特色ある編成に努める。
- ・3つの資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して編成する。
- ・園長は全体の責任者としての指導性を発揮する。
- ・幼の教育・保育目標を達成するための具体的な指導計画を作成し、指導の目標、内容、方法、評価の有機的な関連を図るとともに、幼児期の教育及び小学校への関連を図り、発展的な指導を推進する。
- ・幼児、児童の発達段階や特性等を十分考慮する。
- ・地域の実態を把握し、地域の教育資源や環境等の実態を把握して計画する。
- ・家庭や地域社会に理解を求め、協力を得たり要望に応えたりし、積極的な連携を図る。
- ・園としての、接続期カリキュラムの意義、基本的な考え方を明確にし、カリキュラム編成に直接かかわらない職員を含めて共通理解を図る。

3. 編成のための作業日程を決めましょう

- ・作業、分担ごとに、具体的な日程を決め、編成までの見通しを各職員がもてるようにします。

4. 編成のための事前の調査や準備をしましょう

- ・ 接続期のカリキュラムを編成している自治体等の先行事例の収集、把握をしておきます。
- ・ 幼児の就学先の、教員の指導方法や教室等の環境の聞き取りや、実際に授業参観等を行い現状の把握をしておきます。

5. 園の目標や学年での目標等に照らし、接続期の幼児、保育者、園等の課題を明確にしましょう

- ・ 事前の調査結果等と幼の目標等に照らし合わせ、目標等を達成するための接続期の課題について明確にします。
- ・ 接続期の課題に応じたカリキュラム編成の基本事項を設定します。
- ・ 教育課程についての国の基準、県や市町の規則等を研究調査し理解できるようにします。
- ・ 就学後の児童の発達の段階や特性等を把握します。
- ・ 幼児、児童が生活している地域の実態を把握します。
- ・ 現在実施中の1年生4月のカリキュラムについて検討評価し、児童の実態に合わせた改善点について明確にします。
- ・ 教育課程の改善点については、幼児、児童の発達段階、特性等や地域の実態等についても反映されたものにします。

6. 園の目標等の実現、明確になった課題等の改善を目指し、指導・活動内容を選択しカリキュラム編成をしましょう

- ・ 園の目標や課題等の達成を図るために、重点を置くべき指導・活動内容を明確にします。
- ・ 保護者や地域、学校、幼児、児童等の実態に応じた創意工夫を生かした指導・活動内容を展開できるようにします。

ポイント2

接続期カリキュラムについては、必ずしも別途作成することは求められませんが、幼児期にふさわしい生活を踏まえた上で、小学校への接続期を意識し、現在のカリキュラムを加筆修正等していくことが重要です。

小学校内 接続期カリキュラム編成会議（初回） 【手続き】

1. 活動 校内接続期カリキュラム編成会議開催の日程等調整
2. 時期 2学期後半
3. ねらい 校内のカリキュラム編成会議開催のための調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 等)
4. 組織の仕方 校長が中心となり組織する。
5. 配慮点 研究会等の時間に調整を行い、担当者だけでなく、全職員が接続期カリキュラムの存在を知ることができるようにする。

活動	対応	活動の詳細
1. 校内接続期カリキュラム編成会議の開催案内	校長	「幼児期の教育との接続カリキュラムを編成するために、会議を開く。」
・趣旨等説明	校長	「幼児期に経験してきた遊びや、生活の経験を活かしたカリキュラムを編成することで、入学時の児童の戸惑いの解消や幼児期に身に付けた力を発揮して学校生活を送ることができるようにしたい。」等
・参加者確認	校長	「参加者は、1年担任、2年担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、幼小連携接続担当 等をお願いしたい。」
小学校参加者 例 1年担任 2年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター 教務主任 幼小連携接続担当 等		
・日程調整	校長	「初回会議は○月○日、□時～□時に行いたい。」
・持ち物確認	校長	「接続期カリキュラムを編成していくための資料となる〔指導計画／週案／行事予定 等〕を持参すること。」
持ち物 ・指導計画 ・週案 ・年間行事予定 等 カリキュラム編成に必要な資料		
・事前準備	校長	「幼児期の経験等を生かしたカリキュラムにするために、事前に幼職員に〔幼児期に経験したこと／保育内容／どのような環境を構成していたか／どのような援助をしていたか〕等 を聞いておくこと。」

小学校内 接続期カリキュラム編成会議(初回) 【活動】

1. 活動 接続期カリキュラム編成会議
2. 時期 2学期後半
3. 場所 小学校会議室
4. ねらい 接続期カリキュラム編成のための、基本方針、日程の検討をする。
5. 対応する職員 校長
6. 参加者 1年担任 2年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター
教務主任 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 年間指導計画 週案 年間行事予定 等 (カリキュラム編成に必要な資料)

編成会議時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 接続期カリキュラム編成会議		
・開会	校長	
・会の趣旨等説明	校長	「幼児期に経験してきた遊びや生活を生かしたカリキュラムを編成することで、入学時の児童の戸惑いの解消や幼児期に身に付けた力を発揮して学校生活を送ることができるようにしたい。」 等
・内容説明	校長	「今回は〔カリキュラムを編成していくための基本方針／今後のカリキュラム編成の日程／作業分担〕等 を検討していきたい。」
会議内容 例 カリキュラムの基本方針について 編成作業日程について 作業手順の大綱について 編成の際の役割について 作業分担について 等		
・方針検討 日程検討 等	各職員	

〈カリキュラムの基本方針について〉



校長

今回編成する接続期カリキュラムの基本方針について検討をするが、本校の1年生の実態から、どのようなものが考えられますか？

今年の1年生の場合は、入学時・・・な様子で・・・の部分で戸惑っている姿が多く見られました。カリキュラム編成の際には・・・の部分の接続について円滑にできるようにしたいと考えます。



小学校教員

戸惑う部分もあるようでしたが、〇〇〇については自信をもって4月から学校生活に臨んでいました。授業中も自信をもって〇〇〇していました。幼児期までに自信をつけてきた〇〇〇の部分伸ばし、学校生活をさらに自信をもって進められるよう考えたいですね。



小学校教員



校長

分かりました。児童の実態から考えられることと、本校の教育目標や2年生以上のカリキュラムとのつながりを考えると、編成の基本方針については、□□□□がよいのではないのでしょうか。

〈編成作業日程・作業分担について〉



校長

編成の日程については、次年度から活用できるように、〇月ころまでに、仕上げられるようにしたいですね。

出来上がったものについては、幼の先生方にも見ていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。それを見据えて、□月ころまでではどうですか？



小学校教員



校長

幼の先生に意見をもらうことはよいですね。それでは、□月までをめどに編成するようにしましょう。

編成の分担ですが〇〇〇〇については、1年担任中心で編成をしてください。□□□□□については・・・・・・中心で編成をしてください。今回の編成会議から、それぞれの内容について検討していきましょう。

分かりました。〇〇〇〇については、1年担任だけでは量が多く編成しきれないので、養護教諭の先生にも力をお借りしたいのですが、いかがですか。



小学校教員

そうですね。分担する量が多かったり、内容が難しかったりするようでしたら、お互いに声を掛け合いながら編成していきましょう。



小学校教員

〈2回目以降の会議の開催について〉



校長

今回は〇月〇日の□時～□時で行いましょう。

開催日については、編成の進捗状況を見ながら、その都度、教務主任と相談しながら決めていきましょう。

2回目以降の会議の司会、とりまとめは、1年担任を中心をお願いします。

小学校内カリキュラム編成会議（２回目以降） 【活動】

1. 活動 接続期カリキュラム編成会議
2. 時期 2学期後半～3学期
3. 場所 小学校会議室
4. ねらい 接続期カリキュラム編成のための、各分担の内容を検討する。
5. 対応する職員 1年担任
6. 参加者 1年担任 2年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター
教務主任 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 年間指導計画 週案 年間行事予定 等（カリキュラム編成に必要な資料）

編成会議時間 60分

活動	対応	活動の詳細						
1. 接続期カリキュラム編成会議 (〇時～〇時)								
・開会	1 年担任							
・内容説明	1 年担任	「今回は各分担で作成した案 等について検討していきたい。」						
各分担の検討内容 例 <table><tr><td>幼児期の教育での経験等の事例</td><td>生活科を中心とした教科の指導計画</td></tr><tr><td>育みたい資質・能力と教科との関係</td><td>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係</td></tr><tr><td>家庭・地域との連携</td><td>幼との連携 等</td></tr></table>			幼児期の教育での経験等の事例	生活科を中心とした教科の指導計画	育みたい資質・能力と教科との関係	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係	家庭・地域との連携	幼との連携 等
幼児期の教育での経験等の事例	生活科を中心とした教科の指導計画							
育みたい資質・能力と教科との関係	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係							
家庭・地域との連携	幼との連携 等							
・内容検討	各職員	各担当からのカリキュラム等の提案・検討						

〈幼児期の教育での経験等の事例〉



小学校教員

幼の先生方に、幼児期に経験してきたことや、その際の援助・環境づくり等について教えてもらったところ、幼児期には・・・や・・・についての経験をしてくれているようです。

・・・や・・・の経験をすでにしているのですね。カリキュラムの内容には、その経験を活かしたものを入れられそうですね。



小学校教員



援助の方法についても、幼児が主体的に活動する姿を見守ることを大切にしていたそうです。そのために、幼児が主体的に活動できるような環境の構成にも配慮をしていたようです。

教師の関わりや環境面についても考慮して編成に活かしましょう。



〈各教科等の指導計画等について〉



生活科を中心に、第1週目の指導計画を立てました。
基本的には15分モジュールで考えています。・・・部分については□□科と○○科を合科し計画しました。

・・・の部分は□□□科と関連させると児童の経験を生かせると思います。○○○○○についても・・・してはどうでしょうか？



そうですね。□□□科との関連させる部分については見直してみます。
○○○○○については今年度の児童の実態から・・・は難しいと感じる部分がありますので、もう少し考えたいと思います。

〈家庭・地域との連携について〉

幼児期には家庭や地域との連携を密にしながら保育を展開していたそうです。小学校でも家庭や地域と積極的に連携したいと思います。
4月には保護者対象に・・・を計画しました。5月からは・・・・・・を取り入れ地域の方とも連携していこうと考えています。



例年保護者から○○○に関する問い合わせが多いです。保護者に不安感があるのだと思います。4月に○○○に関することも加えてはどうでしょうか。

〈幼との連携について〉

4月の第1週は、児童が新しい環境で安心して生活できるよう、保育者との情報交換ができるように計画を立てようと考えています。



児童と幼児の交流活動については、各教科等の計画とは別に年間交流計画を幼の先生と立てていますので、その部分を付け加えましょう。

園内 接続期カリキュラム編成会議(初回) 【手続き】

1. 活動 園内接続期カリキュラム編成会議の日程等調整
2. 時期 11月～12月ころ
3. ねらい 園内のカリキュラム編成会議開催のための調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 等)
4. 組織の仕方 園長が中心となり組織する。
5. 配慮点 職員会議等の時間に調整を行い、担当者だけでなく、全職員が接続期カリキュラムの存在を知ることができるようにする。

活動	対応	活動の詳細
1. 園内接続期カリキュラム編成会議の開催案内	園長	「小学校の教育との接続期カリキュラムを編成するために、会議を開く。」
・趣旨等説明	園長	「幼児期に経験してきた遊びや生活を生かしたカリキュラムを編成することで、入学時の児童の戸惑いの解消や幼児期に身に付けた力を発揮して学校生活を送ることができるようにしたい。」等
・参加者確認	園長	「参加者は、年長担当 主任主幹 幼小連携接続担当 等をお願いしたい。」 幼参加者 例 年長担任 旧年長担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
・日程調整	園長	「初回会議は○月○日、□時～□時に行いたい。」
・持ち物確認	園長	「接続期カリキュラムを編成していくため資料となる〔指導計画／週案／行事予定 等〕を持参すること。」
持ち物 ・指導計画 ・週案 ・年間行事予定 等 カリキュラム編成に必要な資料		
・事前準備	園長	「小学校での教育についても意識したカリキュラム編成としたいため、事前に小学校職員に〔4月の教育内容／指導の仕方／教室の環境〕等を聞いておくこと。」

園内 接続期カリキュラム編成会議(初回) 【活動】

1. 活動 接続期カリキュラム編成会議
2. 時期 11月～12月ころ
3. 場所 幼会議室
4. ねらい 接続期カリキュラム編成のための、基本方針、日程、作業分担の検討をする。
5. 対応する職員 園長
6. 参加者 年長担任 年中担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 年間指導計画 週案 年間行事予定 等 (カリキュラム編成に必要な資料)

編成会議時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 接続期カリキュラム編成会議 (〇時～〇時)		
・開会	園長	
・会の趣旨等説明	園長	「幼児期の終わりまでに経験したことを、小学校生活につなげられるよう、カリキュラムを編成することで、入学時の児童の戸惑いの解消や幼児期に身に付けた力を発揮して学校生活を送ることができるようにしたい。」 等
・内容説明	園長	「今回は〔カリキュラムを編成していくための基本方針／今後のカリキュラム編成の日程／作業分担〕等 を検討していきたい。」
会議内容 例 カリキュラムの基本方針について 編成の際の役割について 編成作業日程について 作業分担について 作業手順の大綱について 等		
・方針検討 日程検討 等	各職員	

〈カリキュラムの基本方針について〉



園長

今回編成する接続期カリキュラムの基本方針について検討したいが、年長児の実態や進学先の小学校の様子から、どのようなものが考えられますか？

就学へ向けての年長児の実態から、〇〇〇について考えていく必要があると思います。小学校の様子を見ている、〇〇〇については安心して学校生活を送るために、日ごろから指導に力を入れているようでした。



保育者

〇〇〇については、小学校で安心して学校生活をスタートさせるためには考慮する必要があると思います。

幼児の様子を見ると、年長児として・・・に自信をもって生活をしています・・・を生かし、さらに伸ばせるようカリキュラムを考える必要もありますね。



保育者



分かりました。幼児の実態と小学校での指導の様子を考慮し、〇〇〇について配慮していきましょう。また、幼児が自信をもっている・・・についても生かせるようにし、編成の基本方針については□□□としましょう。

〈編成作業日程・作業分担について〉



編成の日程ですが、次年度から生かせるように、〇月ころまでに・・・仕上げられるようにしたいですね。

出来上がったものについては、小学校の先生方にも見ていただければ、どうでしょうか。それを見据えて□月ころまでではどうですか？



小学校の先生に意見をもらうことはよいですね。それでは、□月までをめに編成するようにしましょう。



編成の分担ですが〇〇〇〇〇については、年長担任中心で編成をしてください。□□□□□については・・・中心で編成をしてください。次回の編成会議から、それぞれの内容について検討していきましょう。

年長担任の分量が多くなりそうなので、◇◇◇の先生も作業に加わってもらいましょう。お互いに声を掛け合いながら編成をしていきましょう。



〈2回目以降の会議の開催について〉



今回は〇月〇日の□時～□時で行いましょう。

開催日については、編成の進捗状況を見ながら、その都度、みなさんと相談しながら決めていきましょう。

2回目以降の会議の司会、とりまとめは、年長担任を中心をお願いします。

園内カリキュラム編成会議（２回目以降） 【活動】

- １．活動 接続期カリキュラム編成会議
- ２．時期 １１月～２月ころ
- ３．場所 幼会議室
- ４．ねらい 接続期カリキュラム編成のための、各分担の内容を検討する。
- ５．対応する職員 年長担任
- ６．参加者 年長担任 年中担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
- ７．持ち物 年間指導計画 週案 年間行事予定 等（カリキュラム編成に必要な資料）

編成会議時間 ６０分

活動	対応	活動の詳細
１． 接続期カリキュラム編成会議 （○時～○時） ・ 開会 ・ 内容説明	年長担任 年長担任	「今回は各分担で作成した案 等について検討していきたい。」
各分担検討内容 例 小学校教育の実態や児童の様子についての事例 育みたい資質・能力との関係 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係 小学校に経験をつなぐための環境、援助 家庭・地域との連携 小学校との連携 等		
・ 内容検討	各職員	

〈小学校教育の実態や児童の様子についての例〉



保育者

小学校の授業参観での様子や、先生から聞き取った1年生の実態から、小学校では、幼児期に経験する〇〇〇がつながりをもちそうです。しかし、小学校で行われている・・・については、本園では経験が不足していることが分かりました。

〇〇〇については、これまで通り十分に経験させられるようにしましょう。・・・については、カリキュラムを見直し、経験することができるよう位置付ける必要がありますね。



保育者

小学校の指導の仕方については・・・・・・を意識しているようでした。環境面については幼と違い〇〇〇なので、接続に向けて、その部分も意識したり、小学校の先生と話し合ったりする必要があります。



保育者

〈育みたい資質・能力との関係について〉



知識及び技能の基礎・・・・・・については、豊かな体験を通じて〇〇〇が育まれるよう□□□を取り入れた活動を考え、計画してみました。

□□□をカリキュラムに位置付けることは、・・・・・・の資質・能力を育む上では大切だと思います。加えて、◇◇◇の資質・能力の部分については・・・・・・をカリキュラムに位置付けてはどうでしょうか？



そうですね。◇◇◇については・・・・・・は必要ですね。その部分も含めて再度編成し直してみたいと思います。

〈家庭・地域との連携について〉

今まで通り、家庭や地域の方に協力いただく活動については、位置付けています。しかし、就学に向けて幼児や保護者の不安の解消についての活動等は位置付けていなかったため、〇〇〇や・・・などを新たに位置付けました。



保護者からは、就学に向けて◇◇◇に対する心配の声があがっています。〇〇〇や・・・に加えて、◇◇◇についても位置付けられるとよいですね。時期は2月頃に実施できるとよさそうですね。

〈小学校との連携について〉



就学への期待感を高めたり、安心感をもったりして小学校生活を始められるよう、今までの10月より早い時期の、6月頃から、小学生との交流を位置付けてはどうかと考えています。

そうですね。幼児の様子を見ながらなるべく多くの機会を設定できるとよいですね。加えて小学校の先生方との情報交換会も位置付けていきましょう。



接続期カリキュラム合同検討会（小カリキュラム検討） 【手続き】

1. 活動 小接続期カリキュラム合同検討会開催のための連絡
2. 時期 1 2 月までには連絡を取る。
3. ねらい 小学校接続期カリキュラム合同検討会開催のための調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 1 年担任から年長担任へ電話連絡
5. 配慮事項 検討会の時間の短縮・効率化のため、検討会の 1 週間前までには、接続期カリキュラム案を送付し、保育者に目を通していただくとよい。

活動	対応	活動の詳細
1. 合同検討会の案内	1 年担任	1 年担任から年長担任へ電話連絡 「接続期カリキュラム案を編成したため、内容についての意見等を頂きたいため、合同検討会を開催したい。」
・ 検討内容説明	1 年担任	「検討会では、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を目的として、接続期カリキュラムの内容について検討して頂きたい。」
検討内容 例 ・ カリキュラム編成の基本方針について ・ 接続期の課題と具体的な内容について ・ 次年度 1 年生の実態との関係について ・ 幼児が経験してきた内容が生かされているか ・ 保護者や地域の実態との関係について - 等		
・ 参加者確認	1 年担任	「参加者は、年長担任 幼小連携接続担当 等をお願いしたい。」
幼参加者 例 年長担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等 小学校参加者 例 1 年担任 2 年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター 教務主任 幼小連携接続担当 等		
・ 日程調整	1 年担任	「〔参加可能な日時はあるか。／○日～○日、○時～○時の中で参加可能な日時はあるか。〕」
日時について ・ 日時調整の際は、候補日に幅をもたせる等、カリキュラム検討に関わる職員の参加が確実にできるようにする。 ・ 開催する時間についても短い時間で効率的に検討会を進められるように配慮する。		
・ 持ち物の確認	1 年担任	「接続期カリキュラム案の内容について検討をしたいので〔事前を送付するカリキュラム案／年間指導計画／年間行事予定 等〕を持参頂きたい。」
持ち物 接続期カリキュラム案 年間指導計画 年間行事予定 等 カリキュラム検討のために必要な資料		

接続期カリキュラム合同検討会(小カリキュラム検討) 【活動】

1. 活動 小接続期カリキュラム検討会 ※P93 の活動と兼ねても可
2. 時期 1 月ころ
3. 場所 小学校 会議室
4. ねらい 幼児期の教育との円滑な接続を目指した接続期カリキュラム編成のために、小学校で編成したカリキュラム案について内容を検討する。
5. 対応する職員 1 年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：1 年担任 2 年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター
教務主任 幼小連携接続担当 等
幼 ：年長担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 接続期カリキュラム案 年間指導計画 年間行事予定 等 カリキュラム検討のために必要な資料

検討会時間 60 分

活動	対応	活動の詳細
1. 合同検討会		
・開会 司会：1 年担任	1 年担任	
・検討会の内容等 説明	1 年担任	「幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を目的とした接続期カリキュラム編成のために〔カリキュラム編成の基本方針／幼児期の経験内容との関係／接続期の課題とカリキュラム内容との関係／保護者や地域との関係 等 〕について検討し意見を頂きたい。」
検討内容 例 ・接続期カリキュラム編成の基本方針について ・幼児期に経験してきた内容が活かされているか ・次年度の 1 年生の実態とカリキュラム内容との関係 ・接続期の課題とカリキュラム内容との関係 ・保護者や地域の実態との関係について - 等		

〈幼児期までの経験内容との関係について〉



小学校教員

以前、幼の先生にうかがった幼児期までの経験内容を考慮しました。今までの・・・の活動については・・・でしたが、経験を考慮し〇〇〇をしていくように編成しました。

〇〇〇については、幼児期の経験が生かされているようなので、幼児期からの接続はスムーズになると思います。
カリキュラムの□□□□の部分は、幼児期までの経験とどのようにつながっているのでしょうか？



保育者



□□□□の部分については、・・・を考慮して、幼児期までの経験とのつながりを考え編成したつもりです。お気づきのことはありますか？

□□□□部分については・・・を考慮することも大切ですが、その他の先行経験として〇〇〇〇〇〇があります。その点も考慮して・・・のようにしていったらどうでしょうか？



なるほど、ではその部分は・・・のようにして編成してみます。

全体的には、幼での先行経験がつながるようなカリキュラムになっていますね。園でも小学校へのつながりを意識して保育をしていきたいと思います。



今までは、児童が小学校生活に適應することができるように入力していました。しかし、幼での先行経験が豊富であることが分かり、幼までの経験や学びをつなぐ視点を大切にし、編成しました。

〈接続期の課題とカリキュラム内容との関係について〉



本校での教育目標、学年目標等と今年度のカリキュラムを照らし合わせたところ・・・という課題が浮かび上がりました。それらの解決のため次年度のカリキュラムでは〇〇〇〇を意識したものになっています。

・・・という課題に関しては、具体的には〇〇〇ということですか？そうだとすると、内容面でもう少し□□□□を組み込めるとよいですね。



具体的には〇〇〇ということです。□□□□はよい考えだと思います。組み込んでみたいと思います。

〈次年度１年生の実態との関係について〉



今年度の年長児の実態を踏まえると、カリキュラム内容で修正した方がよい点はありますか？

今年度の年長児は全体的に・・・な実態があります。また〇〇〇についても経験が不足している子が多いので、内容の□□□□の部分については、・・・のように修正できるとよいと思います。



接続期カリキュラム合同検討会（幼カリキュラム検討） 【手続き】

1. 活動 幼接続期カリキュラム合同検討会開催のための連絡
2. 時期 1 2 月までには連絡を取る。
3. ねらい 幼接続期カリキュラム合同検討会開催のための調整をする。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 年長担任から 1 年担任へ電話連絡
5. 配慮事項 検討会の時間の短縮・効率化のため、検討会の 1 週間前までには、接続期カリキュラム案を送付し、小学校教員に目を通しておいてもらおうとよい。

活動	対応	活動の詳細
1. 合同検討会の案内	年長担任	年長担任から 1 年担任へ電話連絡 「接続期カリキュラム案を編成したため、合同検討会を開催したい。」
・ 検討内容説明	年長担任	「検討会では、小学校教育と幼児期の教育との円滑な接続のために、接続期カリキュラム案の内容について検討していただきたい。」
検討内容 例 ・ カリキュラム編成の基本方針について ・ 接続期の課題と内容について ・ 1 年生の実態との関係について ・ 経験内容と小学校へのつながりについて ・ 保護者や地域の実態との関係について - 等		
・ 参加者確認	年長担任	「参加者は、1 年担任 幼小連携接続担当 等 をお願いしたい。」
幼参加者 例 年長担任 年中担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等 小学校参加者 例 1 年担任 2 年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター 教務主任 幼小連携接続担当 等		
・ 日程調整	年長担任	「[参加可能な日時はあるか。／○日～○日、○時～○時の中で参加可能な日時はあるか。]」
日程について ・ 日程調整の際は、候補日に幅をもたせる等、カリキュラム検討に関わる職員の参加が確実に出来るようにする。 ・ 開催する時間についても短い時間で効率的に会を進められるように配慮する。		
・ 持ち物の確認	年長担任	「接続期カリキュラム案の内容について検討をしたいので[事前を送付するカリキュラム案／年間指導計画／年間行事予定 等]を持参していただきたい。」
持ち物 接続期カリキュラム案 年間指導計画 年間行事予定 等 カリキュラム検討のために必要な資料		

接続期カリキュラム合同検討会(幼カリキュラム検討) 【活動】

1. 活動 幼接続期カリキュラム検討会 ※P90 の活動と兼ねても可
2. 時期 2 月
3. 場所 幼 会議室
4. ねらい 小学校教育と幼児期の教育との円滑な接続を目指した接続期カリキュラム編成のために、幼で編成したカリキュラム案について内容を検討する。
5. 対応する職員 年長担任 1 年担任
6. 参加者 幼 : 年長担任 年中担任 主任主幹 幼小連携接続担当 等
小学校: 1 年担任 2 年担任 養護教諭 特別支援教育コーディネーター
教務主任 幼小連携接続担当 等
7. 持ち物 接続期カリキュラム案 年間指導計画 年間行事予定 等 カリキュラム検討のために必要な資料

検討会時間 60 分

活動	対応	活動の詳細
1. 合同検討会		
・開会 司会: 年長担任	年長担任	
・検討会の内容等 説明	年長担任	「小学校教育と幼児期の教育との円滑な接続を目的とした接続期カリキュラム編成のために〔カリキュラム編成の基本方針／幼児期の経験内容と小学校の学習等の関係／接続期の課題とカリキュラム内容との関係／保護者や地域との関係 等〕について検討し意見をいただきたい。」
検討内容 例 ・接続期カリキュラム編成の基本方針について ・接続期の課題とカリキュラム内容との関係 ・次年度の 1 年生の実態とカリキュラム内容との関係 ・幼の経験内容とのつながりについて ・保護者や地域の実態との関係について 等		

〈幼児期の経験内容と小学校教育へのつながり〉



小学校の先生方に伺ったり、授業を見学したりして見られた、小学校の実態を考慮しました。・・・の活動については、小学校の実態や活動も見据えて〇〇〇を経験できるように編成をしました。

〇〇〇を経験することは、小学校での生活につながると思います。また、小学校では□□□をすることも多く、入学時に児童が困り感をもつことも多いです。その部分については反映されていますか？



□□□については、入学時に困り感をもつ子が多いということを伺っていたので、・・・することを通して経験できるように編成しています。

・・・の経験をするのですね。そうすると生活科の〇〇の活動につなげられそうです。幼までの先行経験を生かしていくと、□□□に困り感をもつ児童が安心して学校生活を送ることができるよう支援できそうです。



そうですね。安心して学校生活を送ることができるように、小学校での生活を見通したカリキュラムの編成が必要ですね。

〈保護者や地域の実態との関係について〉



幼では、家庭でも就学への期待を高める取り組みをしたり、地域での行事を通して地域の方と一緒に個々の成長を共有したりしています。

例えば、・・・を家庭で取り組んでもらったり、地域の方と〇〇〇をしたりすることをカリキュラムの中に位置付けました。

幼では、家庭や地域と連携して就学へ向けて取り組んでいるのですね。〇〇〇については、小学校でも地域の方にボランティアに来てもらっているため、その部分とつながりそうですね。保護者には入学時に・・・をするようにして、協力を呼び掛けています。カリキュラムでも・・・につながるものを組み込んでいただけると嬉しいです。



〈次年度の1年生の実態との関係について〉



今年度の年長児は、入園時から・・・でした。そのため年長になっても〇〇〇な実態があります。その部分の経験を補えるよう□□□の内容を組み込んでいます。

〇〇〇な実態に対して□□□をすることはよいと思いますが、小学校生活では、・・・の経験も必要になると思います。そのようなこともカリキュラムに位置付けられるとよいと思います。



【参考資料】スタートカリキュラム 週案 例 第1週

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
朝 学 習		※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3
1	行	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心 して、興味のある活 動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心 して、興味のある活 動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心 して、興味のある活 動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心 して、興味のある活 動に取り組む
	入学式				
2	学	生	国	算	図
	楽しい学校 ・クラスや先生の 名前を知り、話を 聞こうとする	楽しい学校 ・朝の準備の確認 (片づけ、整頓、提 出物) ・ロッカー、下駄箱、 傘立ての使い方	〈どんな勉強をするのかな〉 ・教科書を開く ・鉛筆の持ち方	〈どんな勉強をするのかな〉 ・教科書を開く ・算数セットを確か める	〈自分の好きなものをかこう〉 ・クレヨンやパスを 使ってかいたり塗 ったりすることを 楽しむ
3		学	音	体	図
		学校の行き帰り ・自分の下校グルー プを知り、安全に 下校する	〈うたでなかよしになろう〉 ・親しみのある歌を みんなで歌う	〈思い切り体を動かそう〉 ・着替え、準備、片 づけの仕方を知る ・鬼遊び ・整列の仕方	〈自分のかばんを作ろう〉 ・かばんを作る ・好きなものを切り 取りかばんに貼る ・ハサミの使い方
4					学
		※下校指導	※下校指導	※下校指導	〈楽しく給食を食べよう〉 ・準備や片づけの方 法を知る ・友達と一緒に食べ る楽しさを感じる
5					
					※下校指導
備 考					

※ しなやかタイム〈じぶんでえらぶ〉

朝学習+生活 2/3(学活 2/3)+国語 1/3 の内容例

- ①登校後、ランドセルの片づけ、提出物、トイレ等を済ませる。
(担任 級外 高学年児童 ボランティア等が支援)
- ②身支度を済ませた児童から自分の取り組みたい学びを行う。
〔生活 2/3〕(担任 級外 ボランティア等が支援)

〈じぶんでえらぶ〉活動例

折り紙、読書、なわとび、ボールあそび、生きものみつけ、
積み木、お絵かき、線や波線をなぞるプリント 等

- ③1時間目終了前に、サークルになり、遊んだことや楽しかったこと等を伝え合う。〔国語 1/3〕
また必要に応じて朝の会等を行う。
集まりの時間の扱いは生活科以外でも国語、道徳、学活等でカウントする。

時数

国語	2 1/3	体育	1
算数	1	道徳	0
生活	3 2/3	学活	3
音楽	1	行事	1
図工	2		

【参考資料】スタートカリキュラム 週案 例 第2週

	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
朝 学 習	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3	※しなやかタイム 朝学習+生活 2/3+国語 1/3
1	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心して、興味のある活動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心して、興味のある活動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心して、興味のある活動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心して、興味のある活動に取り組む	〈じぶんでえらぶ〉 児童一人一人が安心して、興味のある活動に取り組む
2	国 〈どんなお話かな〉 ・読み聞かせを聞いて楽しむ	道 〈学校だいすき〉 ・C (14) よりよい学校生活、集団生活の充実	行 視力・聴力検査	国 〈ひらがなを書こう〉 ・「た」のつく言葉を見つける ・「た」の書き方を知り、練習する	算 〈なまづくりとかず〉 ・どちらが多いかな
3	生 〈学校のこと知りたいな〉 ・1階、2階には、どんな部屋があるのかな	行 身体計測	生 〈学校のこと知りたいな〉 ・3階、4階にはどんな部屋があるのかな	算 〈なまづくりとかず〉 ・いろいろな仲間を作る ・どんな仲間か説明する	図 〈こいのぼりを作ろう〉 ・自分の作りたいこいのぼりを作る
4	国 2/3 学 1/3 〈どんなお話かな〉 ・知っている本について話す ・給食準備	書 2/3 学 1/3 〈正しい姿勢で字を書こう〉 ・きれいな字を書くことができる姿勢 ・給食準備	体 2/3 学 1/3 〈クラスの友達と鬼ごっこをしよう〉 ・ルールを共有して鬼ごっこを楽しむ ・給食準備	体 2/3 学 1/3 〈クラスの友達と鬼ごっこをしよう〉 ・ルールを共有して鬼ごっこを楽しむ ・給食準備	図 2/3 学 1/3 〈こいのぼりを作ろう〉 ・思いのままに描いたり、塗ったりしながら作る ・給食準備
5	音 〈うたでなかよしになろう〉 ・友達と一緒に仲良く歌う	国 〈ひらがなを書こう〉 ・「い」のつく言葉を見つける ・「い」の書き方を知り、練習する	国 〈ひらがなを書こう〉 ・「ち」のつく言葉を見つける ・「ち」の書き方を知り、練習する	国 〈ひらがなを書こう〉 ・「ね」のつく言葉を見つける ・「ね」の書き方を知り、練習する	国 〈ひらがなを書こう〉 ・「ひ」のつく言葉を見つける ・「ひ」の書き方を知り、練習する
備 考					

※ しなやかタイム <じぶんでえらぶ>

児童一人一人が安心感をもち、楽しい雰囲気の中で、学級担任や友達と関わり合いながら、自分のしたい学びを楽しみます。
クラスの友達と関わる中で、少しずつ新しい人間関係を築き、自分を発揮できるようにしていきます。

<じぶんでえらぶ>活動例

ひらがなプリント、かずやかたちのプリント、折り紙、読書、なわとび、ボールあそび、生きものみつけ、積み木、お絵かき、等

1時間目の終了前に、クラスでサークルになって集まり、自分のした学びや楽しかったこと、困ったこと等を共有する時間を設けます。友達が何をしているのかを知ったり、今まで関わりのなかった友達の存在を意識したりすることができるよう工夫します。

時数

国語	8 1/3	体育	1 1/3
書写	2/3	道徳	1
算数	2	学活	2 1/3
生活	4 2/3	行事	2
音楽	1		
図工	1 2/3		

【参考資料】しなやかタイム〈じぶんで選ぶ〉について

しなやかタイム〈じぶんでえらぶ〉
朝学習＋生活 2/3(学活 2/3)＋国語 1/3 の内容例

【進め方】(時系列に表記)

- ①登校後、個々で担任の先生に挨拶し、ランドセルの片づけ、提出物、トイレ等を済ませる。
(担任 級外 高学年児童 ボランティア等が支援)
※ここで出席と健康状態の確認を行う。
- ②身支度を済ませた児童から自分の取り組みたい活動を選ぶ。
〔生活 2/3〕(担任 級外 ボランティア等が支援)

〈じぶんでえらぶ〉活動例

【教室】折り紙、読書、積み木、お絵かき、線や波線をなぞるプリント

【校庭】なわとび、ボールあそび、鬼ごっこ、生きものみつけ(ボランティア等が支援)

- ③計画表に、自分の取り組むことに色をつける。
※1週間に1枚、各自の計画表を用意しておく。

★計画表について

【例】計画表 A 4 1枚 表のみ

えらぶ	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日
プリント				●	
絵本	●				
お絵かき		●			
なわとび			●		
うんどう					●

↑
子どもに分かるように絵で示されている。

↑
取り組んだところに好きな色をぬる。

この計画表がポートフォリオにもなり、評価に活用できる。
バランスよく取り組むことを指導していく。回を重ねるとバランスを自分で意識できるようになる。

1週間が経つと、自宅に持ち帰らせ、保護者にコメントをもらうなど、はげみにさせるとよい。

- ④いつまでがしなやかタイムなのか、時間を確認してから、活動に取り組む。
※教室に算数科で使う大きなサイズの時計を用意して、長い針が「5」までなど、示しておくといよい。
- ⑤マグネットを使って、今、自分が取り組んでいることを示していく。
※子どもが何に今、取り組んでいるかを分かるようなマグネットがつく小黒板やホワイトボードを用意しておくといよい。教師による所在確認に使用できる。

〈じぶんでえらぶ〉の活動中は、ボランティアなどを活用し、教師は年度はじめの保護者からの連絡帳の対応や、個別支援の必要な児童の対応、教師による子どもの人間関係把握や、子どもの理解の時間にあてることができる。

- ⑥1時間目終了前に、サークルになり、遊んだことや楽しかったこと等を伝え合う。
〔国語 1/3〕また必要に応じて朝の会等を行う。
集まりの時間の扱いは生活科以外でも国語、道徳、学活等でカウントする。

【参考資料】 合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定について（根拠）

朝のしなやかタイム＜自分でえらぶ＞学習など、スタートカリキュラムに基づき、各学校の児童の実態に応じた柔軟な時間割編成を行う法的な根拠は以下のようになる。

小学校学習指導要領 平成29年3月告示

【抜粋】

前文

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。**幼児期の教育の基礎の上に、**中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

総則

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

- 4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、**教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。**

第2 教育課程の編成

3 教育課程の編成における共通的事項

(2) 授業時数等の取扱い

ウ **各学校の時間割**については、次の事項を踏まえ適切に編成するものとする。

(ア)各教科等のそれぞれの授業の**1単位時間**は、**各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること。**

(エ)各学校において、児童や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、**創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。**

(3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項

エ 児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、児童の発達の段階や指導内容の関連性等を踏まえつつ、**合科的・関連的な指導を進めること。**

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、**学校段階等間の接続を図るものとする。**

- (1) **幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導**を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく**幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し**、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、**幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。**特に、小学校入学当初においては、**幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。**

生活科

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、**幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。**

〈参考資料〉

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

接続前期

接続中期

接続後期

【5領域】

しなやかタイム

【各教科等】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康

人間関係

環境

言葉

表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

<

【参考資料】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と幼児の具体的な姿や経験

スタートカリキュラムの編成・実施に当たっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた編成や指導の工夫を考えていく必要があります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な姿や幼児期までの経験の例として、以下のことが挙げられます。また、以下のような姿や経験は、特別に取り上げて指導した結果ではなく、幼児期にふさわしい生活を通しての姿や経験であることに留意する必要があります。

（「幼稚園教育要領 解説」を参考、引用して整理）

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	具体的な姿や経験（例）	小学校へのつながり（例）
①健康な心と体	・友達と楽しく食事をする。 ・衣服の着脱、食事、排せつなど、生活行動を自分で行う。 ・病気にならないよう、手洗いうがいをする。 ・安定感をもって環境に関わる。 ・体を動かす気持ちよさを感じる。 ・健康のため、食べ物などに関心をもつ。 ・時間の流れを意識したり状況の変化を予測したりし、見通しをもって行動する。 ・遊びの目的に沿って、時間をうまく使ったり、場所を選んだりする。 ・自分達で遊びを進める。 ・心と体を十分に働かせ、遊びや生活に見通しをもち自立的に行動する。 ・充実感をもって自分のやりたいことに向かって繰り返し挑戦する。 等	・次の活動を考えて準備をするなど見通しをもって行動する。 ・安全に気を付けて登下校しようとする。 ・小学校の学習における運動遊びや、休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごす。 ・小学校生活の様々な場面において伸び伸びと行動する。 等
②自立心	・身近な環境に主体的に関わりさまざまな経験を楽しむ。 ・さまざまなことに挑戦する。 ・難しいことでも自分の力でやってみようと考えたり、工夫したりする。 ・教師や友達からの応援や頑張りを認められる事を支えにして、出来るまで続けることによる達成感を味わう。 ・ものごとを最後まで行う体験をする。 ・自分で課題を設定し、難しいことにも挑戦しようとする。 ・教師や友達から認められることで意欲をもち、自信を確かなものにしていく。 ・あきらめずにやり遂げる経験を通して達成感を味わう。 等	・自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む。 ・生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む。 ・自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする。 等
③協同性	・教師や友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ・他の幼児との関わりを深め、思いを伝え合ったり試行錯誤したりしながら一緒に活動する。 ・友達と関わる中で、嬉しい、悔しい、などのさまざまな感情体験をし、友達との関係を深めていく。 ・友達と互いの思いや考えなどを共有する。 ・共通の目的をもち、目的の実現に向けて、考えを伝えたり、工夫したり、協力したりしながら充実感をもって幼児同士でやり遂げる。 ・一緒に活動する中で、それぞれの持ち味が発揮され、互いのよさを認め合う関係ができてくる。 等	・目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力する。 ・様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組む。 ・教師や友達と協力して生活したり学び合ったりする。 等

④道徳性・ 規範意識 の芽生え	・自己主張のぶつかり合いによる葛藤等を通して、互いに理解し合う。 ・いざこざ等うまくいかないことを乗り越える体験を通して、人間関係が深まり、周囲の人の気持ちに触れる。 ・友達に気持ちを受け止めてもらえたことで、自分の行動を振り返り、謝ったり、気持ちを切り替えたりする。 ・自分の行動が正しいと思っていても、話し合いの中で相手の思いを受け止める。 ・いざこざなどの場面において、友達の気持ちに共感したり、より楽しく遊べるように提案したりする。 ・より遊びを楽しくするために、自分の気持ちを調整する。 ・きまりをつくったり、きまりをまもったりする。 ・より面白くなるようにルールをつくりかえる。 等	・初めて出会う人の中で、幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする。 等
⑤社会生活 との関わり	・教師との信頼関係を基盤としていろいろな人と親しみをもって関わる。 ・地域の人と会話をしたり、言葉をかけてもらったりし、見守られている安心感を得る。 ・小学生や中学生、高齢者や働く人など地域の身近な人と触れ合う体験を重ねる。 ・相手に応じた言葉や振る舞いなどを感じ、考えながら行動する。 ・地域の行事で知ったことを園での遊びに取り入れる。 ・人とのさまざまな関わり方に気づき、相手の気持ちを考えながら関わる中で、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつ。 ・地域の公共施設を大切に利用することを通して、社会とのつながりを意識する。 等	・相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しむ。 ・関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れる。 ・地域への親しみや地域の中での学びの場を広げる。 等
⑥思考力の 芽生え	・身近な事象に積極的に関わる中で、ものの性質や仕組みなどを感じ取ったり気付いたりする。 ・友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付く。 ・物の性質や仕組みなどを生かして、考えたり予想したり、工夫したりするなど、身近な環境との関わりを楽しむ。 ・自分と異なる考えに触れる中で自ら判断したり、考え直したりする等、新しい考えを生み出す喜びを味わい、考えをよりよいものにする。 等	・小学校生活で出会う新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わる。 ・主体的に問題を解決する態度。 等

⑦自然との 関わり・ 生命尊重	・身近な自然の美しさや不思議さに触れて感動する体験をする。 ・自然の変化などを感じ取り、関心をもつ。 ・好奇心や探求心をもって考えたことを幼児なりの言葉で表現しながら、身近な事象への関心を高めていく。 ・動植物について愛着をもって関わる中で、命あるものとして大切に扱おうとする。 ・身近な自然や偶然出会った自然の変化を遊びに取り入れる。 ・皆で自然について話題として取り入れ継続して関心をもつことなどを通して、新たな気づきが生まれる。 ・自然への新たな気づきから、更に自然への関心が高まり、次第に自然への愛情や畏敬の念をもつ。等	・小学校の生活や学習において、自然の事象について関心をもち、その理解を確かなものにしていく基盤。 ・生命あるものを大切に、生きることの素晴らしさについて考えを深める。等
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・態度	・身近にある数字や文字に興味や関心をもつ。 ・物を数えることを楽しむ。 ・教師や友だちと一緒に数量や図形、標識や文字などに触れ、親しむ体験をする。 ・遊びや生活の中で、必要感をもって多い少ないを比べるために物を数える。 ・遊びや生活の中で、必要感をもって長さや広さなどの量を比べる。 ・様々な形を組み合わせで遊ぶ。 ・数量や図形への興味や関心を深め、感覚が磨かれる。 ・遊びや生活の中で関係の深い標識や文字などに関心を持ちながら、その役割に気付いたり使ってみたりすることで、興味や関心を深め、感覚が磨かれる。等	・数量や図形、標識や文字などへの関心や感覚は、小学校の学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながる。 ・学んだことを日常生活の中で活用する態度。等
⑨言葉による伝え合い	・教師や友だちと心通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けていく。 ・自分の気持ちや思いを伝え、教師や友達が聞いてくれる中で、言葉のやりとりの楽しさを感じる。 ・やり取りを通して相手の話を聞いて理解したり、共感したりする。 ・伝える相手や状況に応じて、言葉の使い方や表現の仕方を変えるなど、経験したことや考えたこと等を相手に分かるように工夫しながら言葉で伝える。 ・相手の話を注意して聞いて理解したり、言葉による伝え合いを楽しんだりする。等	・友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら、一緒に活動する。 ・自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。等
⑩豊かな感性と表現	・自分の気持ちがそのまま声や表情、身体の動きになって表れる。 ・教師や他の幼児に受けとめられることを通して、動きや音などで表現したり、演じて遊んだりして、自分なりに表現することの喜びを味わう。 ・身近にある様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを必要なものを選んで表現する。 ・友達と工夫して創造的な活動を繰り返したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして意欲をもつ。 ・共通の目的に向けて、友達と一緒にそれまでの経験を生かしながら考えを出し合い、工夫して表現することを一層楽しむ。等	・小学校の学習において感性を働かせ、表現することを楽しむ。 ・音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、学習全般の素地。 ・教科等の学習だけでなく、小学校生活を意欲的に進める基盤。等

1 日体験入学（年長児・保護者対象） 【手続き】

1. 活動 1 日体験入学実施のための連絡
2. 時期 幼小の間での年間活動計画で予定しておき、実施の 1 か月前までには連絡を取る。
3. ねらい 幼職員へ 1 日体験入学開催の連絡をする。
幼保護者への 1 日体験入学開催の連絡の依頼をする。
4. 連絡の取り方 校長から園長へ電話連絡
5. その他 保護者へ配布する、1 日体験入学案内のお便り等を用意しておくとい。

活動	対応	活動の詳細
・体験入学開催の連絡	校長	校長から園長へ電話連絡 「〇月〇日、〇時～〇時に年長児の体験入学を実施したい。」
・趣旨説明	校長	「年長児・保護者が就学への期待や楽しみ、見通しをもつことができるように 〔校内見学／教室での活動／体育館での遊び／給食体験〕等を体験出来るよう計画している。」
体験入学の内容 例 ・校内見学（施設の見学 他学年の学習の様子の見学 等） ・体育館での遊び（リズム遊び ゲーム等） ・教室での活動（お絵かき 歌 楽器演奏 製作 等） ・給食体験 等		
・日程説明	校長	「活動は 2 時間ほど予定している。はじめに・・・をして、次に・・・最後に・・・ をするように計画している。」
・協力依頼	校長	「幼児の緊張をほぐすためにアイスブレイク等の活動も予定している。保育者 の方にもアイスブレイクに参加してもらいたいと考えている。後日、1 年担 任から詳細について連絡させていただく。」
協力者について 幼児の緊張をほぐす観点から、保育者等に協力してもらい一緒に活動に参加してもらう機会を設ける ことも考えられる。協力の依頼や細かい活動の打ち合わせを行うことに加え、幼児が慣れ親しんだ活動 や幼児の実態等についても、事前に保育者から聴き取りを行えるとよい。		
・必要な物品等の確認	校長	「当日必要になるため、事前に参加する幼児や保護者に・・・を持参するよう 連絡をしてほしい。」
・その他依頼等	校長	「小学校で作成した、保護者へ配布するお便りを後ほど幼に送付する。配布を お願いしたい。」

1 日体験入学（年長児・保護者） 【活動】

1. 活動 1 日体験入学（年長児・保護者）の開催
2. 時期 2 月下旬から 3 月
3. 場所 小学校（1 年生教室を中心に）
4. ねらい 年長児・保護者が体験入学を通して就学への期待や楽しみ、見通しをもてるようにする。
年長児・保護者が小学校施設や職員等について知り、4 月からの新しい生活や環境に見通しをもち安心して就学できるようにする。
5. 対応する職員 1 年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：1 年児童 1 年担任 校長 教頭 養護教諭 等
幼：年長児 年長児保護者 年長担任 園長 等
7. その他
 - ・幼児が安心して、楽しんで参加できるように幼での経験と関連のある活動内容となるよう、あらかじめ幼での経験（歌や遊び等）を聞いて参考にするとうい。
 - ・保護者の参加がしやすいよう、入学説明会等と兼ねて開催することも考えられる。

体験入学時間 120 分		
活動	対応	活動の詳細
1. 体験入学	教頭	幼児・保護者の受付、案内
・教室でのアイスブレイク（10 分）	1 年担任 (年長担任)	幼児が安心して体験入学を始められるよう、幼児の慣れ親しんだ歌や手遊び等をいくつか用意しておく。
ポイント ～わくわくする子もいれば、不安でたまらない子も…～ 小学校進学が楽しみで、わくわくとした気持ちで体験入学に参加する子がいる一方で、新しい環境に不安でたまらない子もいることを忘れてはいけません。どの子も安心安定した気持ちで体験入学に参加できるようにすることが大切です。そのために、園で親しんできた歌や手遊び、絵本の読み聞かせ等を利用して、アイスブレイクの時間等を設定することが有効かもしれません。また、はじめは保育者が前に出て活動を始める等、幼小職員が協力して進めていくことも考えられます。		
・校内見学（20 分）	1 年担任	1 年生児童とペアになって、校内の教室等施設の見学をする。 小学校と幼施設との違いや学校生活の様子等が分かるよう、施設の見学に加え、他学年の学習の様子等も見学できるようにする。
ポイント ～静かに校内を見学することも大切ですが…～ 幼児、保護者には静かに校内を回るよう促すことは大切ですが、幼児や保護者が過度な緊張感をもたないような配慮が必要です。例えば、新しい環境の中を安心して楽しく見学できるよう、ある程度、自然な会話ができる雰囲気をつくる等の配慮をすることが考えられます。掲示物や他学年の学習の様子等を見ながら少しおしゃべりができると、学校に対しての安心感や親しみがわくのではないのでしょうか。その場合、見学中はどうしても騒がしくなりますので、各学年にその旨をあらかじめ伝えておき理解をしてもらっておくとういかもしれません。		

・教室での活動 (15分)	1年担任	一人一つの机や椅子を使つての活動など、幼とは違った環境を利用した活動や、幼での経験を生かせる活動を通して、幼児が教室環境等に親しみをもてるようにする。また、1年生も一緒に活動することで、幼児が安心して取り組めるようにもする。
教室での活動 例 (1年生と一緒に活動) ・好きな絵をかく ・楽器演奏 ・歌 ・簡単な製作 等 ポイント 活動の際は、1年生とペアやグループになって、一緒に活動するようにして、不安等を感じる幼児が安心して活動できるようにします。1年生にとっては、年長児と一緒に関わることで、自分達が年上児であるという自覚を高めることができるかもしれません。環境面では、スクール形式の机の並べ方の他に、グループ形式で机を構成し、近くの友達とやり取りを楽しみながら活動すること等も考えられます。あらかじめ保育者に幼児の実態を聞いておき、幼児が安心して活動に参加できるような環境を構成できるとよいですね。		
・体育館で遊ぶ (20分)	1年担任	体育館で体を思い切り使つて遊ぶ活動を取り入れ、教室での活動とのメリハリを付ける。(静的活動→動的活動) 疲れがたまっている幼児がいる場合は、けが等のないように、様子を見ながら時間や活動内容の調整をする。
体育館での活動 例 (1年生と一緒に活動) ・リズム遊び ・鬼遊び ・昔遊び ・大縄跳び 等 ポイント 教室ではあまり体を動かしていないので、体を思い切り使つて遊ぶことができる時間を設定できるとよいです。疲れがたまり、気持ちがのらない幼児や、体を動かすことが苦手な幼児もいることを考えて、簡単な動きで楽しめる遊びや幼での親しみのある遊びを取り入れることも考えられます。また、1年生も一緒に楽しみ、遊びをリードできるようあらかじめ意識づけておくともよいかもしれません。		
・親子給食体験 (50分)	1年担任	幼児が小学校での給食をイメージしやすいよう、保護者や1年生に手を貸してもらいながら、準備、配膳を行う。(場所等に余裕があれば保護者も給食を試食する)
親子給食体験 例 ・準備、配膳体験 ・学校栄養士、調理員による給食についての話 等 ・保護者の給食試食 ポイント 給食体験では、幼児に小学校での給食の見通しをもたせることは大切ですが、保護者にも小学校での給食について知ってもらうことも大切です。例えば、給食の準備に必要なことや、準備や配膳の様子、食べ終わる時間の目安等について理解してもらうことが必要です。また、食物アレルギーへの対応について、どのように行われているか確認してもらうことも必要です。その際には、学校栄養士や給食調理員等からも学校給食について説明等があると理解をしてもらいやすいかもしれません。		
・閉会 (5分)	園長	
～各施設、地域の実態に合わせた活動の工夫を～ 体験入学での具体的な活動内容を考える際には、各施設、地域の実態に合わせた工夫を行う必要があります。例えば、日常的に幼小の交流が行われている施設間では、事前に幼児から、小学校に関する質問等を聞いておき、校長や1年担任から回答する時間を設けること等が考えられます。 施設間の交流の実態や地域との関わり方等を十分に考慮し、幼児が安心して就学できるような取り組みを工夫し、計画していきましょう。		

参観後の懇談会（年度最終） 【活動】

- | | | |
|-----------|---|---------------------------|
| 1. 活動 | 懇談会（年度最終）の開催 | ※学級懇談会の事例では【手続き】を省略しています。 |
| 2. 時期 | 3月 | |
| 3. 場所 | 年長保育室 | |
| 4. ねらい | 保護者に幼児期の終わりまでの育ちの姿について知らせる。
保護者が就学に向けての見通しや心構えをもてるようにする。 | |
| 5. 対応する職員 | 年長担任 | |
| 6. 参加者 | 幼：年長児保護者 年長担任 園長 幼小連携接続担当 等 | |
| 7. その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期までの育ちを保護者に理解してもらうために、幼での遊びや生活の中での姿が分かる写真等を用意して、説明できるようにしてもよい。 ・あらかじめ小学校職員に就学後の生活や学習や、年長児保護者につたえてほしいこと等について聞いておいてもよい。 | |

懇談時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 懇談会開会 (5分)	年長担任	
・趣旨説明 (5分)	年長担任	「懇談会では、保護者の皆さんが、就学に向けての見通しをもったり、心構えをしたりして、安心してお子さんの就学を迎えられるよう〔現在までのお子さんの育ち／幼生活で培った力と小学校生活の関係／就学までに家庭で取り組んでほしいこと／就学後に保護者や児童が幼生活とのギャップを感じるであろうこと／就学へ向けての不安や疑問への回答〕等 について保護者の皆さんと話し合いたいと思います。
・懇談 (50分)	年長担任	
懇談内容 例 ・ 幼児期の終わりまでの育ちの姿 ・ 幼児期に培った力と小学校生活との関係 ・ 就学後にギャップを感じるであろうこと ・ 就学へ向けての保護者、幼児の不安、質問等への対応 ・ 幼児期の終わりまでに培った力 ・ 小学校へつながる力について ・ 就学までに家庭で取り組んでほしいこと 等		

〈幼児期の終わりまでに培った力と小学校生活とのつながり〉



保育者

年長の3月までにお子さんたちは、いろいろな力をつけてきました。例えば、困ったことがあったら……するなどです。これらの力は、小学校生活での〇〇〇の場面で役立ったり、生活科の……での学習につながったりします。他には……などです。

幼児期にこんなに力をつけていたのですね。小学校でも必要となる力をたくさん培っていて安心しました。家庭でも、幼で培った力を十分に発揮して小学校生活を送れるよう、声掛け等をしていきたいと思います。



保護者

〈就学後に幼とのギャップを感じるであろうこと〉

小学校生活は幼での生活と随分異なりそうです。大丈夫でしょうか。



今までの生活とのギャップを感じることもあると思います。例えば、小学校では自分の机や椅子があって、多くの時間を座って過ごします。遊びの時間も幼のようにはありません。保護者の方についても、幼では毎日保護者と保育者が顔を合わせ、お子さんのお話をする機会がありましたが、小学校では、毎日顔を合わせることはなく、今までのようにお子さんの様子を知ることが難しくなるかもしれません。他にも……です。

思いのほかギャップがあり驚きました。学校生活に馴染めるか心配です。



幼と小のギャップが大きいことや保護者の皆さんが心配されていることは小学校の先生に伝えておきます。小学校の先生とは、日ごろからやり取りしているので対応してくれると思います。

〈就学までに家庭で取り組んでほしいこと〉



幼児期までに培った力を小学校生活で生かしたり、小学校とのギャップを乗り越えられるよう、家庭でも幼児が力をつけてきたことを認める声掛けをしていただいたり、小学校生活に少しでも見通しや安心感をもてるよう……などをしていただけるとよいと思います。小学校を題材とした絵本も園にありますので利用して頂いても構いません。

子ども達が安心して小学校入学を迎えられるよう、家庭でも声をかけたり、小学校の話をしったりしていきたいと思います。



〈就学に向けての不安なことや質問への対応〉

今日の参観では座って活動することが少ない印象でした。楽しそうなことはよいのですが、4月から45分間座っていられるか不安になります。



小学校では1年生の発達段階を考慮して、15分間区切りで授業を構成したり、幼児期に親しんだ歌や絵本を利用したりしながら集中できるよう工夫しているようです。他にも……しているようですよ。

小学校職員を招いての懇談会（年長保護者向け） 【手続き】

- | | |
|-----------|--|
| 1. 活動 | 小学校職員を招いての懇談会の協力依頼 |
| 2. 時期 | 年間活動計画で予定しておき、実施の1か月前までには連絡を取る。 |
| 3. ねらい | 懇談会開催のための協力依頼をする。 |
| 4. 連絡の取り方 | 園長から校長へ電話連絡 |
| 5. その他 | 事前に保護者に懇談会で質問したいこと等のアンケートをとっておき、参加する小学校職員に渡しておくとい。 |

活動	対応	活動の詳細						
・懇談会の計画について連絡	園長	園長から小学校校長へ電話連絡						
・懇談会の日程・趣旨説明	園長	「11月〇日、〇時～〇時に貴校の先生方に協力をお願いして、年長児保護者を対象とした就学に向けての懇談会を実施したい。」 「年長児保護者が就学への見通しをもったり、不安や悩みの軽減をしたりするために、小学校の先生に来ていただき〔学校生活の様子／授業の様子／児童の学習の仕方／小学校教員の指導の仕方〕等について話をしてもらったり、保護者からの質問等に回答したりしていただきたい。」 「質問事項については、事前に保護者にアンケートをとり、会の2週間前までにはお渡しする。」						
懇談の内容 例 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・ 小学校生活の様子</td><td>・ 授業の様子</td><td>・ 児童の学習の仕方</td></tr> <tr> <td>・ 小学校教員での指導の仕方</td><td>・ 就学までに心掛けるとよいこと</td><td>・ 保護者からの質問の応答等</td></tr> </table>			・ 小学校生活の様子	・ 授業の様子	・ 児童の学習の仕方	・ 小学校教員での指導の仕方	・ 就学までに心掛けるとよいこと	・ 保護者からの質問の応答等
・ 小学校生活の様子	・ 授業の様子	・ 児童の学習の仕方						
・ 小学校教員での指導の仕方	・ 就学までに心掛けるとよいこと	・ 保護者からの質問の応答等						
・ 協力者確認	園長	「協力していただきたい先生として〔1年担任／教頭／養護教諭〕等を考えている。校務の負担のない範囲でご協力をお願いしたい。」						
協力者について （1年担任を中心に考えればよいが、保護者からの多様な質問等に対応できるように1年担任以外の依頼も考える） 例 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・ 1年担任</td><td>・ 教頭</td><td>・ 養護教諭</td></tr> <tr> <td>・ 特別支援教育コーディネーター</td><td></td><td>・ 幼小連携接続担当等</td></tr> </table>			・ 1年担任	・ 教頭	・ 養護教諭	・ 特別支援教育コーディネーター		・ 幼小連携接続担当等
・ 1年担任	・ 教頭	・ 養護教諭						
・ 特別支援教育コーディネーター		・ 幼小連携接続担当等						
・ 必要な物品等の確認	園長	「当日必要となる〔パソコン／プロジェクター／配布資料〕等、必要なものがあれば、開催〇日前までに連絡を頂きたい。」						

小学校職員を招いての懇談会（年長児保護者向け） 【活動】

1. 活動 小学校職員を招いての就学に向けての懇談会開催
2. 時期 1 1 月
3. 場所 年長保育室
4. ねらい 小学校職員に小学校についての話を聞き、保護者が就学に見通しをもつ。
5. 対応する職員 園長 1 年担任 年長担任
6. 参加者 小学校：1 年担任 校長 教頭 養護教諭 等
幼：年長児保護者 年長担任 園長 等
7. 準備物 小学校職員が利用するもの ※事前に必要なものを聞いておく。
(パソコン プロジェクター ホワイトボード 配布資料 等)

懇談会時間 60 分

活動	対応	活動の詳細
1. 受付	年長担任	保護者受付、案内
2. 開会 (5 分)	園長	「本日は小学校の・・・先生をお招きし、就学に向けての懇談会を行います。」
・趣旨説明	年長担任	「懇談会を通して、保護者の皆さんに就学への見通しをもっていただきたいと思います。今日は小学校の先生に〔学校生活の様子／授業の様子／児童の学習の仕方／小学校教員の指導の仕方〕等のお話をしてもらったり、保護者の皆さんからの質問等に回答していただいたりして進めていきたいと思います。」
懇談会 懇談内容 例 ・ 小学校の教育目標 ・ 小学校生活の様子 ・ 入学時の学習の仕方 ・ 保護者からの小学校生活全般に関する質問応答 ・ 目指す子どもの姿 ・ 授業の様子 ・ 小学校の先生の指導の仕方 ・ 就学時の一日の流れ ・ 授業の進め方 等		
3. 懇談会 (50 分) (□時～□時) 司会：年長担任	年長担任	
・ 閉会 (5 分)	園長	

〈小学校の教育目標について〉



小学校教員

小学校の教育目標は・・・としています。これは、児童に小学校生活を通して・・・の力を育み・・・となるよう願っているためです。具体的には〇〇〇のような姿です。

小学校では、お勉強を教えてもらえるだけではないのですね。



そうですね。教科学習はもちろん大切にしていますが、その学習を通して教育目標の実現を目指しています。



保護者

〈就学時の一日の流れについて〉



お子さんの入学後の生活は、まず小学校に慣れることを第一としています。まず登校すると・・・をして、〇〇〇〇をしていきます。

小学校に慣れるための活動があり安心しました。また、幼での生活のリズムや経験を意識したものが多く、子どもたちも安心して楽しく生活できそうです。



〈授業の進め方について〉



授業の進め方はどのようになりますか？授業についていけるか心配です。

しばらくはお子さんの発達に合わせて、45分間の授業を15分ずつに分けたり、教科同士の内容を関連付けたりして授業を進めます。また学習支援の先生にも入ってもらい、一人一人が安心して授業に臨めるようにしていきます。



〈小学校教員の指導の仕方について〉



小学校の先生は、学習や生活の指導をどのようにしているのですか？幼との違いから子どもが戸惑わないか不安です。

学習面では、全校で〇〇〇〇を大切にし、指導しています。1年生では、発達に合わせて・・・するような学習指導を行っています。また、幼児期までに経験してきたことが活用できるように指導するようにしています。

生活面では、全校で□□□□を大切にしています。特に1年生では◇◇◇◇を大切にし、一人一人に応じて・・・しています。



〈その他、保護者からの質問等〉



小学校でのアレルギー対応は、どのように行っているのですか？

アレルギーのあるお子さんについては、入学時に・・・をご提出いただきまして・・・の対応をとり、事故がないよう対応しています。



小学校の先生にきいてみよう！



小学校の先生との懇談会で、話題にしたいことや素朴な疑問やメッセージがありましたら教えてください。皆さんからいただいたものをまとめ、小学校の先生にお渡しし、当日ご回答いただこうと思います。

〇〇園

名前（ ）

1. 学習のことについて

2. 生活のことについて

3. その他、質問やメッセージ

ご協力ありがとうございました。〇月〇日までに・・・へご提出ください。

小学校校長との懇談会（年長保護者向け） 【手続き】

1. 活動 小学校長への懇談会協力依頼
2. 時期 年間活動計画で予定をしておき、実施の1か月前までには連絡を取る。
3. ねらい 小学校長との懇談会を行うための協力依頼をする。
4. 連絡の取り方 園長から校長へ連絡

活動	対応	活動の詳細
・懇談会について 連絡	園長	園長から小学校長へ依頼
・日程・趣旨説明	園長	「〇月〇日、〇時～〇時に年長児保護者を対象とした就学に向けての懇談会を実施したい。」 「懇談会を通して、年長児保護者が、小学校生活や学習等について見通しをもつことができるようにしたい。」
・内容、進め方について	園長	「保護者が学校生活等への見通しをもてるように〔小学校の教育／小学校の教育目標やめざす児童像／就学に向けての心構え〕等について紹介をして頂いたり、質問事項への回答を頂いたりしたい。」 「懇談会は、〔園長／主任主幹／年長担任〕との対談形式で進めていきたいと考えている。」
懇談内容 例 ・小学校の教育について（小学校での教育とはどういうものか 幼児期の教育との共通点や違い） ・小学校の教育目標等、教育方針、めざす児童像について ・小学校の指導の方針や指導の仕方について ・児童の姿について（入学時の様子や6年間の大まかな児童の成長や発達の様子） ・就学に向けての心構えについて（育ってほしい子どもの姿 家庭での取り組み） ・質疑応答 等		
・必要な物品等の確認		「講演の際〔パソコン／プロジェクター／配布資料〕等、必要なものがあれば、〇日前までに連絡を頂きたい。」

小学校長との懇談会（年長保護者向け） 【活動】

1. 活動 小学校長との懇談会
2. 時期 11月～12月
3. 場所 幼稚園
4. ねらい
 - ・懇談会を通して、年長保護者が小学校就学に向けて学校生活や学習の見通しをもつことができるようにする。
 - ・保護者が必要な情報を得て、ゆとりをもって子どもを見守り、就学への準備を進められるようにする。
5. 対応する職員 園長 校長
6. 参加者 小学校：校長
幼稚園：年長児保護者 園長 年長担任 等
7. 準備物 小学校長が利用するもの ※事前に必要なものを聞いておく
(パソコン プロジェクター ホワイトボード 配布資料 等)

懇談会時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 受付	年長担任	保護者受付、案内
2. 開会 (5分)	園長	「本日は小学校長をお招きし、就学に向けての講演会を行います。」
・趣旨説明	園長	「懇談会を通して、保護者の皆さんに就学への見通しをもっていただき、ゆとりをもって就学への準備をしていただきたいと思います。本日は校長先生に〔小学校の教育について／小学校の教育目標やめざす児童像／就学に向けての心構え〕等の紹介をしていただいたり、保護者の皆さんからの質問等にお答えいただいたりして進めていきたいと思います。」
3. 懇談会(50分) (□時～□時) 司会：園長	校長	

懇談内容 例

「小学校の教育について」

- ・ 認定こども園、幼稚園、保育所と小学校の共通点や違いについて
- ・ 小学校教育で大切にされていること
- ・ 保護者の年代が受けた小学校教育と幼児が就学時に受ける小学校教育の共通点や違い

「小学校の教育目標、教育方針等について」

- ・ 就学先小学校の教育目標の説明
- ・ 教育目標に基づいた教育方針の説明
- ・ 具体的なめざす児童像についての説明

「小学校の指導の方針、指導の仕方等について」

- ・ 教育目標、教育方針に基づいた、学校での指導方法について
- ・ 実際の授業場面、生徒指導場面を例に、指導方針、指導方法の具体例について

「児童の姿について」

- ・ 入学時からしばらくの間の児童の姿や生活について
- ・ 小学校生活全体を通じた児童の姿について（1年から6年までの成長や発達の様子）

「就学に向けてのことについて」

- ・ 就学するにあたっての保護者としての心構え
- ・ 就学までに育ててほしい具体的な姿
- ・ 就学までに家庭で取り組んでおいてほしいことについて

その他

- ・ 学校と地域との関わりについて、具体的な取り組みの紹介
- ・ 保護者の学校教育参画について、具体的な取り組みの紹介

等

5. 閉会（5分）

園長

ポイント

- ・ 校長と園長（主任主幹／年長担任）と対談形式で進めるようにするなど、校長からの一方的な話ではないようにすると堅苦しい雰囲気にならない。
- ・ 懇談会の内容として、校長からの学校紹介・学校自慢等として、DVD視聴やプレゼンテーション等を前半に行い、後半には学校紹介の内容等を含めた懇談会をする等、工夫することが考えられる。
- ・ 学校入学説明会において、保護者に説明する内容等とは重ならないよう配慮すること。

初回参観後の学級懇談会 【活動】

- | | | |
|-----------|---|---------------------------|
| 1. 活動 | 初回参観後の学級懇談会開催 | ※学級懇談会の事例では【手続き】を省略しています。 |
| 2. 時期 | 4 月 | |
| 3. 場所 | 1 年教室 | |
| 4. ねらい | 教育目標等について保護者と共通理解する。
入学後の児童の様子を知らせ、今後の課題等を保護者と共通理解する。 | |
| 5. 対応する職員 | 1 年担任 | |
| 6. 参加者 | 小学校：1 年生保護者 1 年担任 特別支援教育コーディネーター 等 | |
| 7. その他 | 児童の様子等を知らせるために、写真、動画等を用意するとよい。
保護者向けの年間計画等の配布資料を用意しておくとうい。 | |

懇談時間 60 分

活動	対応	活動の詳細
1. 懇談会開会 ・趣旨説明 (5 分)	1 年担任	「学級懇談会では、〔1 年生の教育目標／4 月の教育目標／学級目標／入学後の幼児の姿／学習や生活の様子／今後に向けての課題／今後の学習や生活の見通し〕等について、保護者の皆さんと共通理解し、学校と保護者が一緒にお子さんの教育について考えていきたいと思っています。」
・自己紹介 (10 分)	各自	参加者の自己紹介 ※堅苦しい雰囲気とならないよう、アイスブレイクできる活動をいくつか用意しておき、自己紹介時や自己紹介後に、参観者の人数や様子に応じて行うようにしてもよい。
自己紹介でのアイスブレイク 例 ・自己紹介＋お題を決めて話をする (好きな食べ物 好きな○○ 無人島に持っていくなら○○ 等) ・担任と後出しじゃんけん ・児童と 4 月当初に行った手遊び、絵本の読み聞かせ 等		
・懇談(45 分) (○時～○時)	1 年担任	
懇談内容 例 ・1 年学年目標、学級目標 (年間) ・1 年学年目標、学級目標 (4 月、5 月) ・年間の主な行事予定とねらい ・入学後の児童の姿 (学習面：学習のきまりや規律 主な教科の学習内容 その他指導内容) (生活面：友達関係 休み時間の様子 給食の様子 身支度 等) ・児童の姿からの課題 (学校でこれから重点的に指導すること、家庭と一緒に取り組んでいきたいこと 等)		

〈学年目標、学級目標について〉



小学校教員

小学校では、入学式に校長から説明のあった学校目標のほかに、学年での目標や学級での目標があります。学校での生活や学習を通してそれぞれの目標を目指しています。学年での目標は〇〇〇〇です。これは1年修了時には〇〇〇〇な姿になることを目指しています。また、学級では……という目標を子どもたちと一緒に立てて、児童一人一人が……できるよう指導をしているところです。

具体的な目標に向けて学校生活を送っているのですね。学級目標と子ども達の現状を比べると、今の段階ではどう思いますか？



保護者



例えばこの映像をご覧ください。これは授業中での〇〇の様子です。この場面では◇◇◇な姿が見られ……と思います。この姿のよい部分は認めつつ、目標に近づくよう……を指導しているところです。

〈入学後の姿について〉



この映像は入学後、2週目の様子です。楽しく1日をスタートできるように、1時間目の前にはみんなで……をしています。その後、子どもたち発達を考慮して、15分程度の区切りで各教科の授業をしています。

3月までの幼での生活に近いようですね。これなら安心して学校生活を始めそうです。45分間の授業はいつ頃から始まりますか？



45分の授業は、児童の様子を見ながらですが、〇〇頃には始めていきたいと思っています。

〈各教科の学習内容 合科的・関連的指導について〉



学習についてですが、この時期は生活科を中心として……の学習を進めています。国語科では、生活科の〇〇や算数科の〇〇〇〇と関連付けて学習を進めています。〇〇〇科では……しています。

いろいろな教科の内容が関連付けられて学習しているのですね。子どもだけの話では学習内容が分からなかったのととても参考になりました。



〈これからの課題等について〉



今日参観いただいた中にもありましたが、このクラスの児童は……についてはとても一生懸命な姿が見られます。しかし、〇〇〇については苦手なようで困ってしまう姿が多く見られ、課題であると思っています。

参観していても同じ課題があると感じました。家庭でも苦手な部分については、声をかけたり、手を貸したりしたいと思います。



子どもたちのために家庭と学校で一緒に取り組めるとよいですね。不安なことがありましたら、いつでもご連絡くださいね。

先輩保護者と語る会（PTA 主催も可） 【手続き】

1. 活動 年長児保護者と1年生保護者の懇談会開催の手続き
2. 時期 11月
3. ねらい 年長児保護者と1年生保護者の懇談会の周知を行う。
(趣旨 参加者 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 校長（小学校 PTA 役員）から園長（園保護者会役員）へ電話連絡。
5. 配慮点 懇談会の日時については、入学説明会後など年長児保護者が小学校へ来る機会を積極的に利用する。

活動	対応	活動の詳細
1. 懇談会実施の連絡	校長	連携対象施設長へ電話連絡 「年長児保護者を対象とした、1年生保護者との懇談会を開催したい。」
・ 趣旨説明	校長	「年長児保護者と1年生保護者の懇談を通し、就学に向けての不安、悩み等の解消につなげ、保護者も子どもと共に円滑に小学校生活を始められるようにしたい。」
趣旨例 ・ 就学に向けての不安、悩み等について相談や質問をして、それぞれの解決につなげることで、保護者も子どもと共に円滑に小学校生活をスタートできるようにするため。 ・ 同学年の保護者同士のつながりに加え、1学年上の保護者ともつながりをもち、保護者が就学後も不安や悩みを気軽に解決できる関係をつくるため。		
・ 活動内容確認	校長	「懇談会では、年長児保護者の就学に向けての悩みや不安、疑問点などを1年生保護者に答えてもらったり、1年生保護者に就学に向けてのポイントや注意点等を紹介してもらったりすることを予定している。」
・ 参加者確認	校長	「参加者は、1年生保護者を中心に考えているが、小学校側としては〔校長／教頭／1年担任／養護教諭／特別支援教育コーディネーター〕等を予定。」 「幼からは、年長保護者を対象とするが、幼として〔園長／主任主幹／年長担任〕等、接続期に関わる職員の参加をいただきたい。」
・ 日時確認	校長	「実施日は○日～○日の○時～○時を予定しているがどうか。」 「実施日に問題がなければ、年長児保護者に懇談会の周知をお願いしたい。」
・ 場所確認	校長	「場所は〔小学校会議室／小学校1年生教室〕で行う予定。」
1年生保護者への懇談会の依頼については、小学校での活動を前向きに捉えている保護者に協力をしてもらおうと、年長児保護者の不安の解消につながりやすい。協力者が少ない場合は、学級委員やPTA役員等に協力の呼びかけを行う。(協力者の人数によっては、1年生保護者以外の協力も考えるようにする)		

先輩保護者と語る会（PTA 主催も可）

【活動】

1. 活動 年長児保護者と1年生保護者の懇談会
2. 時期 11月
3. 場所 小学校1年生教室
4. ねらい 年長児保護者が子どもと共に円滑に小学校生活を始められるよう、就学への不安、悩み等についての解消を図る。
5. 対応する職員 校長 園長
6. 参加者 小学校：1年生保護者 校長 教頭 1年担任 幼小連携継続担当 等
 幼：年長児保護者 園長 主任主幹 年長担任 幼小連携継続担当 等

予定時間 60分

活動	対応	活動の詳細
1. 懇談会 （〇時～〇時） 司会：1年保護者		
・開会（5分）	校長	
・趣旨説明（5分）	校長	「年長児保護者の方がお子さんと共に円滑に小学校生活を始められるように、就学に向けての不安や悩み、疑問点等について、1年生の保護者の方に答えていただきながら解決を図りたいと考えています。」
趣旨 例 ・就学に向けての不安、悩み等についての相談や質問をして、それぞれの解決につなげることで、保護者も子どもと共に円滑に小学校生活を始められるようにしたい。 ・同学年の保護者同士のつながりに加え、1学年上の保護者の方ともつながりをもち、保護者が就学後も不安や悩みを気軽に解決できる関係をつくる。 等		
・グループで懇談（45分）	保護者 幼小職員	・グループ内で自己紹介（参加人数によっては全体での懇談にする） 少人数グループをつくり、5歳児保護者が就学へ向けての不安や悩み等を話しやすい雰囲気をつくる。

グループでの懇談のポイント ・ 1 グループ、1 年生保護者 1 ～ 2 名、年長児保護者 3 ～ 4 名で構成し、年長児保護者が気軽に不安や悩み等を話し出すことが出来るようにする。 ・ 会の冒頭や終わりについては職員がコーディネートするが、グループでの懇談時には、職員が席を外す等、保護者同士が本音で話しやすい雰囲気になるようにする。もしくは、各グループの状況に応じて、幼小職員がグループの一員となり、1 年生保護者が答えづらい内容等について対応するようにする。 ・ 1 年生保護者や幼小職員が答えた内容で、全体で共有した方がよいものがあれば、共有する時間をとるとよい。 ・ 各グループの 1 年生保護者（参加人数によっては年長児保護者）が懇談の記録をとっておく。懇談後、幼で参加できなかった保護者向けのお便り等に利用するとよい。		
・ 閉会（5 分）	校長	

＜予想される年長保護者の不安や悩み、疑問＞ ○入学までに関すること ・ 幼では使わなかったもの（学習用具等）で、小学校で特別に必要なものはありますか？ ・ 入学までの心構えとして子どもと何か話し合う必要がありますか？ ・ 入学までに家庭であらかじめやっておいた方がよいことはありますか？ ○子どもの学校生活に関すること ・ 新しい友達と仲よくなれますか？ ・ 登校が嫌だと言いませんか？ ・ 4 5 分間座っていられますか？ ・ いじめにあいませんか？ ・ 学校の勉強についていけますか？ ○保護者自身に関すること ・ 連絡帳は毎日書くのですか？ ・ 先生との付き合い方で幼との違いは何ですか？ ・ 同級生の保護者とはどのような付き合い方をしていますか？ ・ 友達にけがをさせたり、友達のを壊したりしたら、相手の保護者にどう対応していますか？ 等
--

小学校自由参観日 【手続き】

1. 活動 小学校自由参観日実施の連絡
2. 時期 2学期
年間活動計画で予定されている場合は、実施の1か月前までに連絡を取る。
年間活動計画で予定されていない場合は、参観実施の2か月前までには連絡を取る。
3. ねらい 小学校自由参観日の連絡調整をする。(趣旨 内容 日時 場所 等)
4. 連絡の取り方 校長から園長へ連絡

活動	対応	活動の詳細
・自由参観日案内	校長	校長から園長へ電話連絡
・参観の日程・趣旨説明	校長	「〇月〇日、〇時～〇時に年長児保護者対象の自由参観日を実施する。」 「小学校就学へ向けての不安の解消や就学への見通しをもってもらえるよう〔登校や登校後の様子／授業の様子／給食の様子／掃除の様子／下校の様子〕等、具体的な学校生活を参観頂きたい。」
参観の視点 ・登下校の様子 ・給食の様子 ・登校後の身支度等の様子 ・清掃の様子 ・授業の様子 ・休み時間の様子 等		
・参加者確認	校長	「参観者については、年長児保護者を考えているが、年長児についても保護者が希望すれば一緒に参観しても構わない。」
・その他	校長	「参観において、保護者の方の感想があれば頂こうと思っている。用紙をお渡しするので、自由参観日開催の周知も兼ねて、事前に保護者に配布してほしい。保護者からの質問等に対して、小学校として回答すべきものがあれば、〔幼に回答を提供するので配布頂きたい／入学説明会等で回答したいと考えている〕。」 「年長児保護者には〔当日は他学年の自由参観日も兼ねていること／児童玄関で受付をして自由に参観できること／駐車場がないので車で来校はできないこと／スリッパ等内履きを持参頂くこと 等〕をお伝えください。」 ※必要に応じて、開催日、注意事項等については小学校からお知らせを配布することも考える。

小学校自由参観日 【活動】

1. 活動 小学校自由参観日
2. 時期 2学期（自由に参観できる日を1週間程度設けておく）
3. 場所 参観：1年教室中心
4. ねらい 年長児保護者（年長児）が参観を通して、小学校生活を見ることで、就学に対する不安の解消や就学への見通しをもつことが出来るようにする。
5. 対応する職員 校長 園長
6. 参加者 幼：年長児保護者（年長児） 等
7. その他 いしかわ教育ウィークでの学校公開等と兼ねて実施する。
事前に幼を通して感想用紙を配布しておき、参観を通しての感想等を記入してもらえようにする。

参観可能時間 登校時～下校時まで		
活動	対応	活動の詳細
1. 受付	教頭 PTA 役員	児童玄関に受付設置 案内板設置 感想用紙回収ボックス設置。 児童玄関において受付（PTA 役員に協力をしてもらう）
2. 自由参観	1 年担任	
自由参観場面 例 ・ 1 年生の登校の様子 ・ 登校後の身支度の様子 ・ 授業の様子 ・ 休み時間の様子 ・ 給食の様子 ・ 掃除の様子 ・ 下校の様子 等 教室環境 例 ・ 保護者が自由に児童の様子を見ることができるよう、参観スペースを工夫する。 (教室の左右、後ろ等) ・ 保護者が一日の生活の流れを分かるように、時間割等、日程を貼り出しておく。		
・ 感想用紙回収	PTA 役員	感想用紙回収ボックス等を設置し、参観を通しての疑問や感想について回収。（回収には PTA 役員にも協力してもらう）
参観者の疑問等への回答について 例 ①感想用紙に記入せず直接質問に来る保護者については、教頭が対応する等、窓口を一本化する。 ②感想用紙に寄せられた質問等への回答方法について ・ 小学校で集約し回答したものを幼へ提供し、幼から保護者へ回答をしてもらう。 (年長児全保護者に対して回答をする必要があるものに関して) ・ 小学校で集約し、入学説明会等の保護者が集まる機会を利用して回答する。 ・ 個別に回答が必要なものについては個別に対応することもある。		

自由参観 メッセージカード (例)

〇〇小学校



本日は参観頂きありがとうございました。
参観を通して、教えてほしいことや感想等がありましたらご記入ください。
今後のお子様の育ちや学校での支援の参考にさせていただきます。
頂いたご質問等は、入学説明会にてお答えさせて頂く予定です。

お名前 ()

①登校の様子について

--

②登校後の身支度について

--

③授業の様子について

--

④休み時間の様子について

--

⑤給食の様子について

--

⑥清掃の様子について

--

⑦下校の様子について

--

・その他ご意見等ありましたらご記入ください。

--

保護者の授業参画 【手続き】

1. 活動 保護者の授業等参画のための連絡
2. 時期 就学後、すぐに参画できるよう、入学説明会、入学式後等に連絡する。
3. ねらい 保護者へ授業等の参画の趣旨等を連絡する。
4. 連絡の取り方 1年担任から保護者
5. その他
 - ・就学後すぐに参画できるよう、入学説明会等を利用して事前に保護者へ知らせることができるようにする。遅くとも入学式当日には知らせるとよい。
 - ・保護者が見通しをもって参画できるよう、年間活動計画、月案、週案など具体的な活動内容や参画時間が分かるものを用意しておく。

活動	対応	活動の詳細
・保護者の授業参画についての連絡	1年担任	1年担任から保護者へ説明 「入学後の4月〇日から、保護者の方が授業等に参画できるように計画している。」
・懇談会の趣旨説明	1年担任	「[就学後に不安を抱える児童の不安の解消／就学に不安を感じている保護者の不安の解消／児童の学習支援 等]を目的として[朝の自習での補助・支援／休み時間での補助・支援／授業の補助・支援等]に参画頂きたいと考えている。」
保護者の参画場面 例 ・朝の自習時間の補助、支援（読み聞かせ プリント学習等の補助 活動全般の見守り 等） ・休み時間の補助、支援（個の様子について見守り 授業後の片づけ 授業準備等の補助 等） ・授業中の補助、支援（個の児童への対応や見守り 等） ・給食の補助、支援（配膳、片づけの補助、支援 給食指導補助 等） ・掃除の補助、支援（清掃補助 清掃時の見守り 等） 等		
・参画時間等説明	1年担任	「参画時間については、朝の自習時間では〇時〇分～□分まで、・・・の活動については・・・の時間を予定している。この時間の中で、ご都合がつく時に参画頂きたい。」 「参画頂ける場合は、申込用紙をご提出頂きたい。人数等を調整して改めて参画日をお便り等でお知らせする。」
参画時間等 について あらかじめ、参画してもらう「活動」「時間」について示しておき、短時間であったり、週1回等であったりしても、様々な形で参画できるように説明するとよいかもしれません。 また、人数調整、参画者把握のために申込書等を用意して管理するようにすることも考えられます。 参画者等決定のお知らせについても、個別の保護者に知らせることのほかに、他の保護者に、参画頂く保護者の周知を図るためにも、学級便り、学年便り等を利用して知らせることも考えられます。		

・事前の打ち合わせ等について	1年担任	「具体的な活動の打ち合わせについては〔この後残っていただきまして具体的に説明したいと思います。／初回の活動時に担任から直接ご説明したいと思います。 等〕」
具体的な活動の打ち合わせ、説明等について 具体的な補助・支援等の内容についての打ち合わせは、別日を設けて行うことは難しいと考えられます。そのため、入学説明会、入学式等の保護者が集まる機会を利用するとよいと思われます。 例えば、入学説明会の後、保護者に残ってもらい、具体的な説明や打ち合わせをする時間を取るとよいかもしれません。また、初回からしばらくの間は、支援・補助に入ってもらい直前にも簡単な説明や打ち合わせも行うことができるように、その期間は、担任等が対応しやすい校内体制を組んでいく必要があります。		

【保護者参画をお願いするにあたっての学校の準備】

- ・保護者会で保護者参画の趣旨を全体で丁寧に説明する。
- ・活動中で得た児童の情報などには守秘義務があることを伝え、保護者はともに子どもを成長させる存在であることを意識して頂く。また、活動中、気になる児童の様子などは、活動を終えた後に担任に伝えて頂くようお願いし、学校とは、児童の情報を円滑に伝え合う関係づくりを築けるようにする。その日の活動後に、自由に感想を記入してもらうことや（記名式）、また、記名式の自由記述の報告用紙と投函ボックスを用意しておいてもよい。
- ・保護者参画では、保護者の専門や得意分野を生かした活動も考えられる。生け花、茶道、書道など、保護者参画の活動を始める前までに、事前に保護者に、子どもたちの学びにつながる得意分野のアンケートを行い、協力してくれる保護者を募るのもよい。
- ・教材づくりや掲示物などの教室環境づくりなどもお願いし、保護者コーナーを設けて、保護者に作成してもらうことも参画として取り入れてもよい。
- ・活動中の立ち話での長時間の私語や、電子機器の使用、写真撮影は禁止である旨を伝えておく。
- ・保護者参画の公平性を担保するためにも、参画期間を長く設け、その期間に1回は参画してもらうようお願いする。但し、原則としておく。
- ・保護者の名札を用意し、校内での活動中は着用してもらう。

【保護者参画から生まれる保護者同士のつながり】

- ・就学に伴う不安解消や保護者の孤立を防ぐ取り組みとして、保護者間の関係づくりのため、こうした参画の終了後に、毎回でなくても教室を貸し出し、自由に懇談してもらう場を設けるなどの工夫があってもよい。保護者の荷物置き場の空き教室を用意しておき、そこが保護者の自由な懇談の場になる例もある。
- ・小さな兄弟、姉妹がいる保護者には、保護者の管理責任の元で同伴を許可し、その兄弟や姉妹も読み聞かせなどに参加すると、そうした幼い兄弟、姉妹のいる保護者も参画しやすい。

保護者の授業参画 【活動】

1. 活動 保護者の授業等参画（例：朝の時間 授業中 休み時間 給食）
2. 時期 4月（就学後）から5月の大型連休明けまで
3. 場所 1年教室
4. ねらい
 児童：保護者の参画を通し、学校生活に不安を感じる児童の不安の軽減や解消を図る。
 保護者：参画を通し、児童に直接関わることや、児童の様子・指導の仕方を知ること、保護者がもつ、就学時の不安の軽減や解消を図る。
5. 対応する職員 1年担任
6. 参画者 1年生保護者
7. その他 保護者が見通しをもって参画できるよう、年間活動計画、月案、週案など具体的な活動内容や参画時間が分かるものを用意しておく。

活動	対応	活動の詳細
1. 朝の自習時間		参画内容 例 ① プリント学習等の課題学習の支援、丸つけなど 1年担任 朝のしなやかタイム〈じぶんでえらぶ〉の課題等を用意する。※ 保護者 登校、朝の時間に不安な気持ちがある児童に寄り添い、安心できるよう補助支援を行う。 【参画であるので、我が子を支援しに来ているのではないことを事前をお願いする】 ② 読み聞かせ 1年担任(保護者) 児童の実態、興味関心に合わせて絵本・紙芝居等を用意する。 保護者 ・児童の実態、興味関心等に合わせて、読み聞かせをする。 ・絵本等の内容に合わせて手遊び、簡単なゲーム等をして楽しむ。 ③ 児童が自分でしたい活動を選び、主体的に取り組む時間の補助、支援 ※しなやかタイム〈じぶんでえらぶ〉 P97 参照 1年担任 ・児童一人一人が安心して興味や関心のある活動に主体的に取り組めるように、環境を設定する。（教室内での遊びや製作のコーナー 外での活動のコーナー 等） ・活動後には、それぞれの児童の遊びの状況を共有できる時間を設定し、児童が楽しかったことや困ったことなどを話し、友達の様子を知ることができるようにする。 また、保護者にも、児童が楽しんでいることや困り感について知ってもらい、次回以降の児童との関わり方の参考となるようにする。 保護者 ・児童が自分のしたい活動を選び（見つけ）、主体的に遊んだり活動したりする姿を見守る。 ・自分のしたい活動を選ぶ（見つける）ことができるように補助、支援をする。 ・登校や活動することに不安を感じる児童に寄り添い、一緒にしたい活動を選んだり、見つけたりする。

2. 授業		
参画内容 例 ①授業に対して不安感等のある児童に対する補助、支援 保護者 学校生活に不安を感じている児童に個別に対応し、安心できる雰囲気の中で授業に臨めるよう補助、支援を行う。 ②個別の児童の学習に対する補助、支援 保護者 ・学習補助や支援等が必要な児童に対して関わり、学習が円滑に進むようにする。 ・学習中に教師や児童の求めに応じて、学習の補助等や個別の支援を行う。 ・授業に気持ちが向かない児童に対して個別に関わり、気持ちを授業に向けられるよう補助、支援をする。 ・個々の児童の様子に応じて、授業の準備、片づけの補助、支援をする。		
3. 休み時間		
参画内容 例 ①学校生活に不安を感じている児童に対する補助、支援 保護者 学校生活に不安を感じている児童に対して、個別に関わり、一緒に過ごすことや、友達の遊んでいる中へ一緒に加わり、遊び始められるよう橋渡しをするなどの補助、支援をする。 ②個別の児童の生活面の補助、支援 保護者 ・授業の片づけ、次の授業の準備等の補助、支援をする。 ・遊び等での児童の安全面を見守る。 ・トイレ、手洗い等の補助、支援をする。		
4. 給食		
参画内容 例 ①生活面の補助、支援 保護者 給食の身支度、手洗い等の補助、支援をする。 ②給食時の補助、支援 保護者 ・給食に不安を感じている児童に個別に関わり、安心して食事ができるように補助、支援する。 ・配膳、片づけ等、児童の実態に合わせて補助、支援をする。		

地域の教育参画 【手続き】

1. 活動 地域の方の教育等参画のための連絡
2. 時期 計画的に地域の方に参画してもらえよう、なるべく前年度末までに行う。
3. ねらい 地域の方へ授業等の参画の趣旨等を連絡する。
4. 連絡の取り方 校長または1年担任から地域の方へ連絡
5. その他
 - ・参画者への連絡については、地区・校区連絡協議会等を利用して周知できるようにする。回覧板などでの自由な希望者募集ではなく、地域の活動に日頃から参画している方を選出できるようにお願いする。
 - ・学校インターンシップ、学校ボランティア等を活用し、学生の参画も考える。
 - ・地域の方が見通しをもって参画できるよう、年間活動計画、月案、週案等、具体的な活動内容や参画時間が分かるものを用意しておく。
 - ・当日の細かい参画内容についての打ち合わせについては、当日参画前にも打ち合わせする時間を取れるようにする等、参画者が負担感をもたないよう配慮する。

活動	対応	活動の詳細
・地域の方の教育参画についての連絡	校長	校長から地域の教育参画者へ連絡 「新1年生入学後、朝の自習時間や生活科を中心とした教科で、地域の方に参画していただきたいと考えている。」
・趣旨説明	校長	「[就学後に不安を抱える児童の不安の解消/就学に不安を感じている保護者の不安の解消/児童の学習支援/児童と地域の方との結びつきを深める 等] を目的として、地域の方に[朝の自習での補助・支援/休み時間での補助・支援/授業の補助・支援等] に参画頂きたいと考えている。」
地域の方の参画場面 例 ・朝の自習時間の補助、支援（読み聞かせ プリント学習等の補助、支援 活動全般の見守り 等） ・休み時間の補助、支援（個の様子について見守り 授業後の片づけ、授業準備等の補助、支援 等） ・授業中の補助、支援（個の児童への対応や見守り 栽培や飼育などの技能が必要なもの 等）		
・参画時間等説明	校長	「参画時間については、朝の自習時間では〇時〇分～〇分まで、・・・の活動については・・・の時間を予定している。この時間の中で、ご都合がつく時に参画頂きたい。」 「授業では〇月〇日の生活科で、野菜の苗を植えようと思っている。算数科では・・・を予定している。ご都合がよろしければ参画頂きたい。」 「参画頂ける場合は、申込用紙をご提出頂きたい。人数等を調整して改めてお便り等でお知らせする。」

参画時間等 について あらかじめ、参画してもらう「活動」「教科」「時間」について示しておき、短時間であったり、週1回等であったりしても、いろいろな形で参画できるように説明するとよいかもしれません。 また、人数調整、参画者把握のために申込書等を用意して管理するようにしていく必要があります。 保護者には、参画いただく地域の方の周知を図るためにも、必要に応じて、学級便り、学年便り等を利用して知らせることも考えられます。		
・事前の打ち合わせ等について	校長	「具体的な活動の打ち合わせについては、初回の活動時に担任から直接ご説明したいと思います。」
具体的な活動の打ち合わせ、説明等について 具体的な補助・支援等の内容についての打ち合わせは、別日を設けて行うことは難しいと考えられます。そのため、初回からしばらくの間は、支援・補助に入ってもらい直前にも簡単な説明や打ち合わせを行うことができるように、その期間は、担任等が対応しやすい校内体制を組んでいく必要があります。 地域の方にゲストティーチャーとして参画してもらう場合は、授業当日の打ち合わせに加え、必要に応じて、事前に地域の方を訪問するなどして打ち合わせを行うことも考えられます。		

【地域の教育参画をお願いするにあたって】 ・説明会で地域の教育参画の趣旨について丁寧に説明する。 ・参画者の募集は、回覧板などでの自由な希望者募集ではなく、地域の活動に日頃から参画している方が選出されるよう、地域、校下の役員からの推薦が望ましい。 ・活動中に得た情報などには守秘義務があることを伝え、共に子どもを成長させる存在であることを意識して頂く。また、活動中、気になる児童の様子などは、活動を終えた後に担任に伝えて頂くようお願いし、学校と、児童の情報を円滑に伝え合う関係づくりを築けるようにする。その日の活動後に、記名式の自由記述の報告用紙と投函ボックスを用意しておくといよい。 ・地域の教育参画では、地域の方の専門や得意分野を生かした活動も考えられる。生け花、茶道、書道、昔の遊び体験など、地域の参画の活動を始める前までに、事前に地域の方に、子どもたちの学びにつながる得意分野のアンケートを行い、協力してくれる地域の方を募るのもよい。 ・教材づくりなどをお願いし、空き教室で作成してもらうことも参画として取り入れてもよい。 ・活動中の立ち話の長時間の私語や、電子機器の使用、写真撮影は禁止である旨を伝えておく。活動が終了したら運営上、すぐにお帰り頂くことなど、進め方を事前に説明しておくといよい。 ・参画者の名札を用意し、校内にいる際は着用して頂く。また、参画者の氏名と参画日時をとりまとめ、管理職や教員は把握しておく。		
--	--	--

地域の教育参画 【活動】

- | | |
|-----------|---|
| 1. 活動 | 地域の方の教育等参画（例：朝自習時間 授業中） |
| 2. 時期 | 4月から、必要に応じた期間 |
| 3. 場所 | 1年教室等 |
| 4. ねらい | 地域の方の参画を通し、学校生活に不安を感じる児童の不安の軽減や解消を図ると共に、児童が地域の方に親しみをもって関わろうとする。 |
| 5. 対応する職員 | 1年担任 |
| 6. その他 | 地域の方が見通しをもって参画できるよう、年間活動計画、月案、週案など具体的な活動内容や参画時間が分かるものを用意しておく。 |

活動	対応	活動の詳細
1. 朝の自習時間		
参画内容 例		
①プリント学習等の課題の補助、支援		
1年担任		・朝の自習時間の課題等を用意する。
地域の方		・登校、朝の時間に不安な気持ちがある児童に寄り添い、安心できるよう補助、支援を行う。
②読み聞かせ		
1年担任(地域の方)		・児童の実態、興味関心に合わせて絵本・紙芝居等を用意する。
地域の方		・児童の実態、興味関心等に合わせて、読み聞かせをする。 ・絵本等の内容に合わせて手遊び、簡単なゲーム等をして楽しむ。
③児童が自分でしたい活動を選び、主体的に取り組む時間の補助、支援		
※しなやかタイム〈じぶんでえらぶ〉 P97 参照		
1年担任		・児童一人一人が安心して興味や関心のある活動に主体的に取り組めるように、環境を設定する。(教室内での遊びや製作のコーナー 外での活動のコーナー 等) ・活動後には、それぞれの児童の遊びの状況を共有できる時間を設定し、児童が楽しかったことや困ったことなどを話し、友達の様子を知ることができるようにする。 ・地域の方にも、児童が楽しんでいることや困り感について知ってもらい、次の活動の際の関わり方の参考となるようにする。
地域の方		・児童が自分のしたい活動を選び（見つけ）、主体的に遊んだり活動したりする姿を守る。 ・自分のしたい活動を選ぶ（見つける）ことができるように補助、支援をする。 ・登校や活動することに不安を感じる児童に寄り添い、一緒にしたい活動を選んだり、見つけたりする。
2. 授業		
参画内容 例		
① 各教科等への支援		
1年担任		・担任が中心に授業を進める。例えば「野菜のこと」「町のこと」など、よく知っている地域の方に聞いてみたいと児童が主体的にコミュニケーションをとろうとするようになるよう単元計画や授業計画を立て、授業を進める。
地域の方		・例えば「野菜のこと」「町のこと」など、児童の反応を見たり、児童とコミュニケーションをとったりしながら、伝える。 ・児童が主体的に授業課題に取り組めるよう、必要に応じて声をかけたり、支援したりする。

就学に向けての保護者アンケート（小学校）【手続き】【活動】

1. 活動 就学に向けての保護者アンケートの配布
2. 時期 就学時健診等、保護者が小学校に来る機会を利用して説明、全保護者に配布
3. ねらい 保護者に対して、就学に向けてのアンケートの趣旨等を説明し配布する。
4. 連絡の取り方 校長から保護者へ説明、配布
5. その他
 - ・アンケートの提出先を幼にする場合は、事前に幼に確認を取っておく。また保護者に幼への提出の手間を取らせないために、配布時にその場で記入し提出してもらってもよい。
 - ・アンケート用紙には、「メッセージカード」等の名称を用いるなど、保護者が堅苦しい雰囲気を感じないよう工夫するとよい。

活動	対応	活動の詳細
・アンケート実施の連絡	校長	校長から保護者にアンケートの実施を知らせる。 「保護者の皆さんに、就学に向けてのアンケートを実施したい（メッセージカードの記入を頂きたい）ため、ご協力を頂きたい。」
・趣旨等説明	校長	「アンケート（メッセージカード）を通して保護者の皆さんの〔就学に向けて必要としている情報／就学へ向けての期待感や不安感〕等を把握し、お子さんや保護者の就学に関する不安等の解消につなげたい。結果について〔入学説明会等を利用して回答させていただく／園と共有し今後の園での保育に生かしてもらう〕。」
アンケート実施の趣旨 例 ・小学校就学に向けて、保護者が必要としている情報や抱いている期待感、不安感を把握する。 ・得られた情報を園と共有し、就学にむけた今後の園での取り組みに生かしてもらう。 ・得られた情報について、入学説明会等で回答し、保護者がもつ就学前の不安等の解消につなげる。		
・提出について	校長	「提出については、今ご記入して、ご提出いただくか、〇月〇日までに、〔お子さんの通っている園／小学校玄関のアンケートボックス／小学校までFAX〕等でいただきたい。」 ※提出先を園にする場合、保護者の思いをあらかじめ園で把握することができる。また、集まったものを小学校へ渡す際にも、小学校職員と関わり、簡単な情報交換を行うこともできる。 ※直接小学校に提出し、小学校職員との関わりをもちたい保護者については、窓口を一本化し対応するようにする。
就学に向けたアンケート 内容 例 ・就学する小学校や学校での生活で知りたいこと ・就学に関して、期待していること、楽しみなこと ・その他、就学に関しての自由記述 ・就学に関して、不安や心配をしていること ・小学校での学習について知りたいこと		

メッセージカード 〔例〕



いちねんせいのせんせいへ

名前（

〇〇小学校
〇〇園
）

1. 就学する小学校について知りたいこと

2. 就学する小学校での学校生活や学習で知りたいこと

3. 就学に関して、保護者の方が楽しみなこと、期待していること

4. 就学に関して、保護者の方が不安や心配をしていること

5. お子様から先生へのメッセージ

6. その他、就学に関する質問等

ご協力ありがとうございました。〇月〇日までに・・・にご提出ください。

入学後保護者アンケート（小学校）【手続き】【活動】

1. 活動 入学後保護者アンケートの配布
2. 時期 4月下旬（初回参観日・学級懇談会等）
3. ねらい 保護者に対して、入学後保護者アンケートの趣旨等を説明し配布する。
4. 連絡の取り方 1年担任から保護者へ説明、配布

活動	対応	活動の詳細
・アンケート実施 の連絡	1年担任	校長から保護者にアンケートの実施を知らせる。 「保護者の皆さんに、入学後保護者アンケートを実施したいため、ご協力を頂きたい。」
・趣旨等説明	1年担任	「アンケートを通して〔保護者の視点からの入学後のお子さんの様子の把握／保護者の皆さんの思いや願い等の把握〕等をして、お子さんや保護者の方の支援につなげたいと考えている。結果については〔次回の懇談等の機会／学校だより、学年だより〕等を利用して提供させていただく。また結果をもとに〔小学校での今後の指導に生かす／接続期のカリキュラムの評価を行い、改善につなげる〕等のことを行っていく。」
アンケート実施の趣旨（児童や保護者への支援へつなげていくために） 例 ・入学後の児童の様子や保護者の思い等を把握する。 ・児童の様子から、小学校での今後の指導や支援の在り方を考える。 ・児童の様子や保護者の思い等から、実施してきた接続期カリキュラムの評価を行う。 ・接続期カリキュラムの評価から、次年度の接続期カリキュラムの改善を図る。		
・提出について	1年担任	「提出については、今ご記入して、ご提出いただくか、〇月〇日までに、〔お子さんに持たせる／小学校玄関のアンケートボックス／小学校までFAX〕等で頂きたい。」 ※直接小学校職員へ提出し、職員との関わりをもちたい保護者については、窓口を一本化して対応するようにする。
就学に向けたアンケート 内容 例 ・入学後のお子さんの様子で、不安なことや悩んでいることはありますか。 ・入学後のお子さんの様子で、保護者の方が不安や気になることはありますか。 ・入学後のお子さんの様子で、楽しんでいることや生き生きとしていることはありますか。 ・入学後のお子さんの様子で、幼との違いで戸惑ったり困ったりしていることはありますか。 等		

入学後保護者アンケート 〔例〕

〇〇小学校



これからのお子様の学校生活での支援や指導の
改善のために活用していきます。
以下の点にご回答をお願いします。

名前（ ）

1. 入学後のお子さんの様子で、楽しんでいることや生き生きとしていることはありますか？

2. 入学後のお子さんの様子で、不安なことや悩んでいることはありますか？

3. 入学後、保護者の方自身が不安になることや気になることはありますか？

4. 入学後のお子さんの様子で、入学前との違いで戸惑ったり困ったりしていることはありますか？

5. その他、質問等ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。〇月〇日までに・・・にご提出ください。

資料編

年間活動チェックシート

[評価 1.できた 2.ややできた 3.どちらかというときできなかった 4.できなかった]

			ねらい (◎主なねらい ○ねらいを含む)							評価	評価の理由/次年度への課題 実施ができなかった理由 ※簡潔に
実施月 目安	対象	活動名	幼児期の 教育理解	小学校の 教育理解	幼児児 童理解	教職員 相互理解	幼児児童 交流	カリキュ ラム編成	保護者 地域との 連携		
4月	幼・小	幼小顔合わせ会				◎					
	幼・小	交流内容検討 合同会議					◎				
	小	懇談会 (年度初回)							◎		
	小	保護者の授業参画							◎		
	小	地域の教育参画							◎		
	幼	小学校教員向け アンケート				◎					
	小	入学後の保護者 アンケート							◎		
5月	幼・小	交流内容検討 合同会議					◎				
6月	幼・小	小学校授業参観 情報交換会 要録引き継ぎ会		○	◎	○					
	幼・小	合同研修会 (小学校提案)		◎		○					
7月	幼・小	交流内容検討 合同会議				○	◎				
	幼・小	絵本の 読み聞かせ会			○		◎				
8月	幼・小	保育参観 情報交換会	◎		○	○					
	幼・小	夏休み交流会			◎	○					
	幼・小	連携接続中間評価会				◎					
	幼・小	幼小親睦会				◎					
9月	幼・小	交流内容検討 合同会議						◎			

年間活動計画 (例) 後期

実施月 目安	対象	活動名	幼児期の 教育理解	小学校の 教育理解	幼児児童 理解	教職員 相互理解	幼児児童の 交流	カリキュラ ム編成	保護者地域 との連携	評価	評価の理由/次年度への課題 実施ができなかった理由 ※簡潔に
10月	幼・小	小学校授業参観 情報交換会		◎	○						
	小	校内接続期 カリキュラム 編成会議						◎			
	小	就学時健康診断			◎						
	幼	就学前情報交換会 (就学時健康診断に 関する)			◎	○					
	小	就学に向けての 保護者アンケート							◎		
11月	幼・小	交流内容検討 合同会議					◎				
	幼・小	生活科での交流	○	○	○		◎				
	幼・小	小学校職員を招いて の懇談会		○					◎		
	幼・小	懇談会 (先輩保護者と語る会)		○					◎		
	幼・小	自由参観日		○					◎		
12月	幼・小	合同研修会 (幼提案)	◎			○					
	幼・小	小学校長との 懇談会		○					◎		
	幼	園内接続期 カリキュラム 編成会議						◎			
1月	幼・小	交流内容検討合同会議					◎				
	幼・小	接続期 カリキュラム 合同検討会(小)		○		○		◎			
2月	幼・小	保育参観 情報交換会	○		◎	○					
	幼・小	接続期 カリキュラム 合同検討会(幼)	○			○		◎			
	小	1日体験入学		○					◎		
	小	保育者向けアンケート							◎		
3月	幼・小	就学前情報交換会	○		◎	○					
	幼・小	接続期カリキュラム 編成合同検討会						◎			
	幼	懇談会 (年度最終)							◎		
	幼・小	連携接続評価会				◎					

年間活動チェックシート [評価 1. できた 2. ややできた 3. どちらかというとできなかった 4. できなかった]

活動名	ねらい							評価	評価の理由/次年度への課題 実施ができなかった理由 ※簡潔に
	幼児期の 教育理解	小学校の 教育理解	幼児児童 理解	教職員相 互理解	幼児児童 交流	カリキュ ラム編成	保護者地域 との連携		
4月									
5月									
6月									
7月									
8月									
9月									

[評価 1.できた 2.ややできた 3.どちらかというとできなかった 4.できなかった]

活動名	ねらい							評価	評価の理由/次年度への課題 実施ができなかった理由 ※簡潔に
	幼児期の 教育理解	小学校の 教育理解	幼児児童 理解	教職員相 互理解	幼児児童 交流	カリキュ ラム編成	保護者地域 との連携		
10月									
11月									
12月									
1月									
2月									
3月									

() 年間活動計画 連携対象施設 (A施設 B施設)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
幼児期の教育理解					保育参観 ○日～○日 情報交換会 ○日 A施設 ○日 B施設				合同研修会 ○日 A, B 合同			
小学校の教育理解			合同研修会 ○日 A, B 合同				授業参観 ○日～○日 情報交換会 ○日 A施設 ○日 B施設					
幼児児童理解 授業参観・情報交換会・要録引き継ぎ会 15日 A施設 16日 B施設											保育参観 ○日 情報交換会 ○日 A施設 ○日 B施設	就学前情報交換会 ○日 A施設 ○日 B施設
教員相互理解 顔合わせ会 3日 A, B 合同					連携接続中間評価会 ○日 A, B 合同 職員懇親会 ○日							連携接続評価会 (カリキュラム編成合同会議後に行う) ○日 A, B 合同
幼児児童交流 交流活動合同検討会議 25日 A施設 26日 B施設				交流活動合同検討会議 ○日 A施設 ○日 B施設								
カリキュラム編成										カリキュラム編成合同会議 ○日 A, B 合同	カリキュラム編成合同会議 ○日 A, B 合同	カリキュラム編成合同会議 ○日 A, B 合同
保護者地域との交流 保護者の授業参画 ～5月 入学後保護者アンケート							就学に向けての保護者アンケート ○日	就学に向けての懇談会 ○日 A施設 ○日 B施設			1日体験入学 ○日 A施設 ○日 B施設	

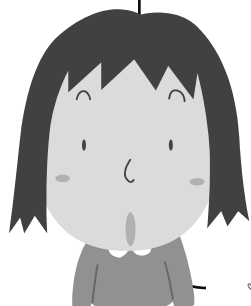
(	年間活動計画											)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
幼児期の 教育理解												
小学校の 教育理解												
幼児児童 理解												
教員相互 理解												
児童幼児 交流												
カリキュ ラム編成												
保護者 地域との 交流												

全体 モデルカリキュラム

幼児期の教育（生涯にわたる人格形成・生きる力の基礎）	小学校以降の生活や学習の基盤	小学校（心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なもの）
3歳以上児 5領域（子どもの発達の側面からまとめたもの）	幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿	教科等
幼児期にふさわしい生活（養護と教育の一体性、自発的な活動としての遊び、環境を通して行う教育、総合的な指導）	幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら学びへ	主体的・対話的で深い学び、「幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた生活科を中心とした合科的・関連的な指導、弾力的な時間割
①豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする（知識及び技能の基礎）、②気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする(思考力・判断力・表現力等の基礎)、③心情、意欲、意欲が育つ中で、よりよい生活を営もうとする（学びに向かう力、人間性等）		①基礎的・基本的な（知識及び技能）、②知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な（思考力、判断力、表現力等）、③主体的に学習に取り組む態度、個性を生かし多様な人々と協働（学びに向かう力、人間性等） ※各教科の資質・能力は1,2年生の目標。3年生以降の（教科）の目標は省略。道徳は内容、特別活動は全体の目標。
健康（健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。） 1 ねらい (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	（健康な心と体）幼保連携型認定こども園における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。 （自立心）身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。	生活、体育（知識及び技能）各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。（思考力・判断力・表現力等）各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。（学びに向かう力、人間性等）各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。（家庭）、道徳、特別活動等
（知識及び技能の基礎）「基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得」「身体感覚の育成」（思考力・判断力・表現力等の基礎）「振り返り、次への見通し」（学びに向かう力、人間性等）「安定した情緒」		生活（知識及び技能）学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ自分との関わりに気付き地域に愛着をもち自然を大切にしたり集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。（思考力・判断力・表現力等）身近な人々社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通してそれらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。（学びに向かう力、人間性等）自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする。（総合）、道徳、特別活動（知識及び技能）多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。（思考力・判断力・表現力等）集団や自己の生活 人間関係の課題を見いだし 解決するために話し合い 合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。等
人間関係（他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。） 1 ねらい (1) 園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	（協同性）友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。 （道徳性・規範意識の芽生え）友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。	生活、体育、道徳A 主として自分自身に関すること〔善悪の判断、自律、自由と責任〕よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。〔正直、誠実〕うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。〔節度、節制〕健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。〔個性の伸長〕自分の特徴に気付くこと。〔希望と勇気、努力と強い意志〕自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。B 主として人との関わりに関すること〔親切、思いやり〕身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。〔感謝〕家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。〔礼儀〕気持ちのよい挨拶 言葉遣い 動作などに心掛けて明るく接すること。〔友情、信頼〕友達と仲よくし、助け合うこと。C 主として集団や社会との関わりに関すること〔規則の尊重〕約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。〔公正、公平、社会正義〕自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。〔勤労、公共の精神〕働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。〔家族愛、家庭生活の充実〕父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。〔国際理解、国際親善〕他国の人々や文化に親しむこと。D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること〔生命の尊さ〕生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。〔自然愛護〕身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。〔感動、畏敬の念〕美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。特別活動等
	（社会生活との関わり（家族、地域の人））家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。	生活、（社会）、道徳、特別活動等
（学びに向かう力、人間性等）「思いやり」「自信」「相手の気持ちの受容」「葛藤、自分への向き合い、折り合い」「話し合い、目的の共有、協力」		
環境（周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。） 1 ねらい (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	（思考力の芽生え）身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。 （自然との関わり・生命尊重）自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。 （数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。	各教科等
		生活、（理科）、道徳、特別活動等
		国語、算数（知識及び技能）数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。（思考力・判断力・表現力等）ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。（学びに向かう力、人間性等）数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。等
	社会生活との関わり（情報・施設）園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようにする。	生活、（社会）、（総合）、道徳、特別活動等
（知識及び技能の基礎）「規則性、法則性、関連性等の発見」「様々な気付き、発見の喜び」（思考力・判断力・表現力等の基礎）「試行錯誤、工夫」「予想、予測、比較、分類、確認」「他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ」（学びに向かう力、人間性等）「好奇心、探究心」「自然現象や社会現象への関心」		
言葉（経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話を言葉の間こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。） 1 ねらい (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。	（言葉による伝え合い）保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	生活、国語（知識及び技能）日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。（外国語活動）、（外国語）等
（知識及び技能の基礎）「日常生活に必要な言葉の理解」（思考力・判断力・表現力等の基礎）「言葉による表現、伝え合い」（学びに向かう力、人間性等）「思いやり」「自信」「相手の気持ちの受容」「葛藤、自分への向き合い、折り合い」「話し合い、目的の共有、協力」		
表現（感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。） 1 ねらい (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	（豊かな感性と表現）心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。	生活、音楽（知識及び技能）曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。（思考力・判断力・表現力等）音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにするようとする態度を養う。図画工作（知識及び技能）対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。体育等
（知識及び技能の基礎）「多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得」（思考力・判断力・表現力等の基礎）「自分なりの表現」「表現する喜び」（学びに向かう力、人間性等）「色、形、音等の美しさや面白さに対する感覚」		

参観をとおして、気づいたことをメモしておきましょう！

なまえ _____



なるほど！
へえ～！ _____



おもしろい！
たのしそう _____



おやっ!?
ふしぎ _____



もっとこうしたら _____

	子どもの様子	教師・保育者の関わり方	その他
いいなと 思ったところ (参考になった)			
気になった点 質問			
今後に向けて			

小学校教員向け アンケート

記入者（ ）

1. 就学後の児童の様子から、幼での経験が生かされていると感じるものはありますか。

--

2. 就学後、幼での経験を生かして指導していることはありますか。

- 学習面で生かしていること

--

- 生活面で生かしていること

--

3. 就学後の児童の様子で、指導に困ることはありますか。

--

4. 就学後の児童の様子から、児童が学校生活に困っていることはありますか。

--

5. 就学後の児童の様子を見て、幼のうちに経験しておくとういことはありますか。

--

6. 全体の様子で気になることや、個別に気になる様子の子について知りたいことはありますか。

--

7. その他、就学後の児童の姿で気になることや、幼への質問等がありますか。

--

保育者向けアンケート

記入者（ ）

1. 就学に向けて、保育の中で心がけていることはありますか。

2. 就学に向けて、具体的に取り組んでいることを教えてください。

- 保育の内容について

- 環境の構成について

- 保育者の援助について

3. 就学に向けての保育で不安なことはありますか。

4. 就学に向けて、幼児の様子で気になることはありますか。

5. 就学に向けて、小学校教員に質問等がありますか。

6. 年長全体の様子や個別の幼児の様子で気になっていることはありますか。

7. その他、就学に向けて気になることはありますか。

小学校の先生にきいてみよう！



小学校の先生との懇談会で、話題にしたいことや素朴な疑問やメッセージがありましたら教えてください。
皆さんからいただいたものをまとめ、小学校の先生にお渡しし、当日ご回答いただこうと思います。

名前（ ）

1. 学習のことについて

2. 生活のことについて

3. その他、質問やメッセージ

ご協力ありがとうございました。 月 日までに へご提出ください。

自由参観 メッセージカード



本日は参観頂きありがとうございました。
参観を通して、教えてほしいことや感想等がありましたらご記入ください。
今後のお子様の育ちや学校での支援の参考にさせていただきます。
頂いたご質問等は、入学説明会にてお答えさせて頂く予定です。

お名前（ ）

①登校の様子について

--

②登校後の身支度について

--

③授業の様子について

--

④休み時間の様子について

--

⑤給食の様子について

--

⑥清掃の様子について

--

⑦下校の様子について

--

・その他ご意見等ありましたらご記入ください。

--

メッセージカード



いちねんせいのせんせいへ

名前（ ）

1. 就学する小学校について知りたいこと

2. 就学する小学校での学校生活や学習で知りたいこと

3. 就学に関して、保護者の方が楽しみなこと、期待していること

4. 就学に関して、保護者の方が不安や心配をしていること

5. お子様から先生へのメッセージ

6. その他、就学に関する質問等

ご協力ありがとうございました。 月 日までに にご提出ください。

入学後 保護者アンケート



これからのお子様の学校生活での支援や指導の
改善のために活用していきます。
以下の点にご回答をお願いします。

名前（ ）

1. 入学後のお子さんの様子で、楽しんでいることや生き生きとしていることはありますか？

2. 入学後のお子さんの様子で、不安なことや悩んでいることはありますか？

3. 入学後、保護者の方自身が不安になることや気になることはありますか？

4. 入学後のお子さんの様子で、入学前との違いで戸惑ったり困ったりしていることはありますか？

5. その他、質問等ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。 月 日までに にご提出ください。

石川県幼児教育の推進体制構築事業 検討委員会委員名簿

(検討委員会委員)

◎：座長

H31. 3

学識経験者	和泉 美智枝 虹釜 和昭 ◎ 田邊 俊治 開 仁志	金城大学短期大学部幼児教育学科客員教授 北陸学院大学人間総合学部子ども教育学科教授 金沢大学大学院教職実践研究科教授 石川県教員総合研修センター教授 金沢星稜大学人間科学部こども学科教授
学校・施設関係者	上田 ますみ 木村 昭仁 高島 伸成 田中 辰実 日吉 輝幸 前田 武司	石川県国公立幼稚園教育研究会 (金沢大学附属幼稚園園長) 日本保育協会石川県支部長 (龍雲寺学園・パウデア学舎園長) 石川県小学校長会長 (金沢市立木曳野小学校校長) 石川県私立幼稚園協会理事長 (ちよの幼稚園園長) 全国認定こども園協会石川県支部長 (平和こども園園長) 石川県社会福祉協議会保育部会長 (社会福祉法人額小鳩保育園理事長)

(50音順 敬称略)

(幼保小接続部会委員)

開 仁志	金沢星稜大学人間科学部こども学科教授
高島 伸成	石川県小学校長会長 (金沢市立木曳野小学校校長)
日吉 輝幸	全国認定こども園協会石川県支部長 (平和こども園園長)

(幼保小接続の手引き 助言者)

芥川 元喜	金沢星稜大学人間科学部こども学科准教授
-------	---------------------

(事務局)

森田 典子	石川県健康福祉部少子化対策監
西田 義明	石川県総務部総務課長
畦内 一夫	石川県健康福祉部子育て支援課長
塩田 憲司	石川県教育委員会学校指導課長

平成30年度幼児教育の推進体制構築事業
幼保小接続の手引き

平成31年3月 発行

石川県健康福祉部少子化対策監室

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電 話 076-225-1497

F A X 076-225-1423

